建築と社会

社団法人 日本建築協会
昭和43年3月25日発行第49輯第3号
毎月1回25日発行
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

3 VOL.49

ARCHITECTURE AND SOCIETY 1968



《創立50周年記念事業記録号》



同じ建て坪なら　倍ぐらいには使えます

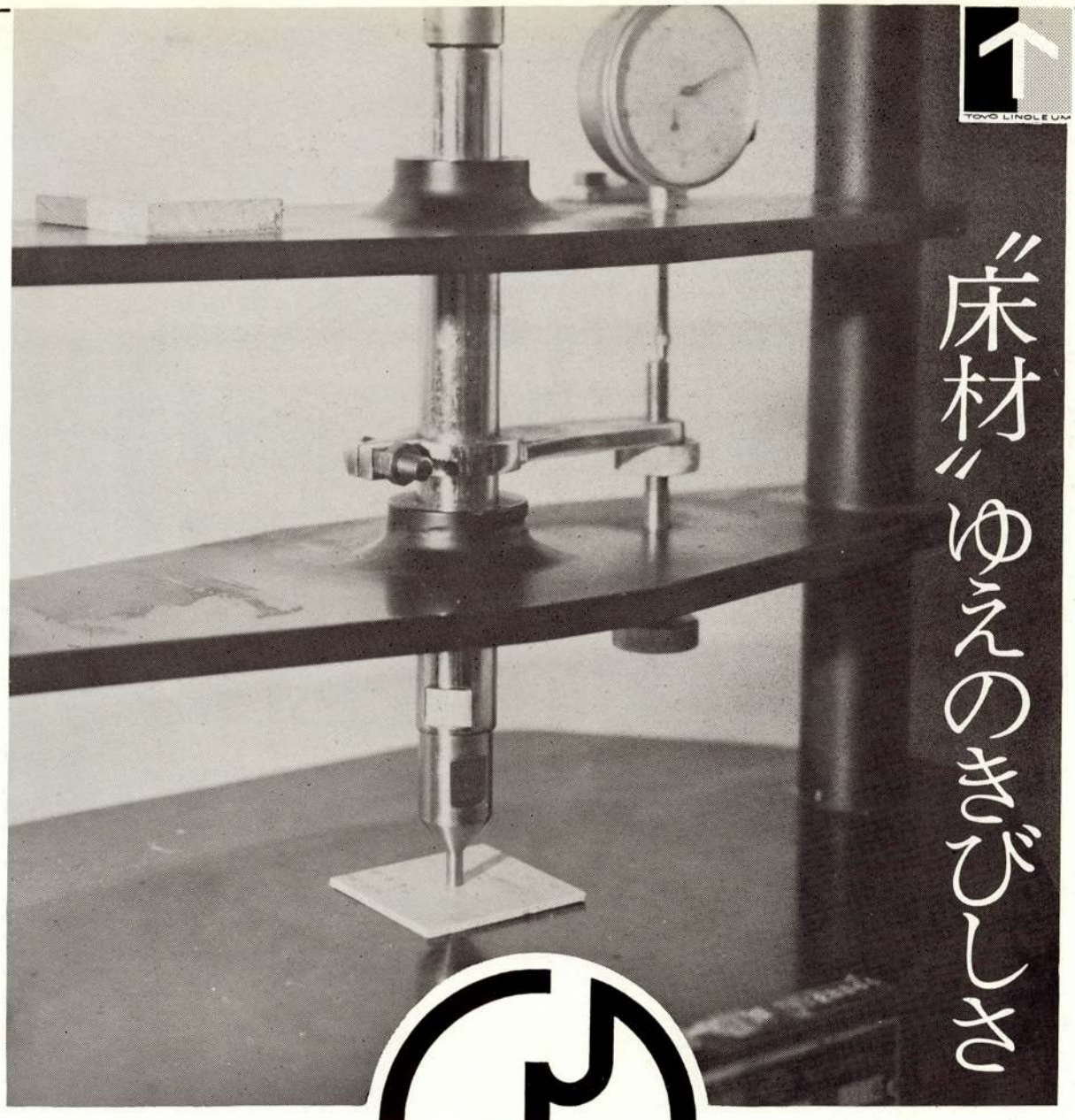
事務所・工場・倉庫など、中型構造物の建築をご計画中なら、ぜひ、住友のプレハブ骨組《スミフレームV》をご利用ください。中柱が不要で、間口、屋内スペースが広くとれ、同じ建て坪なら、まず、倍ぐらいに活用でき、合理的です。強靱で耐久性に富み、建築も簡単。 360種以上の標準設計を用意しています。

住友のプレハブ骨組

スミフレームV

住友金属

住友金属工業株式会社
大阪 ― 大阪市東区北浜5の15(新住友ビル) 電(203)2201
東京 ― 東京都千代田区丸の内1の8(新住友ビル) 電(211)0111
営業所 ― 福岡・広島・岡山・高松・名古屋・富山・静岡・新潟・仙台・札幌



“床材”ゆえのきびしさ

伊丹・厚木両工場がそろってJISマークを獲得

床材の業界では初めて！　しかし、私たちはこのことに満足していません。JISマークの獲得は、お客さまに私たちの床材を安心して使っていただくための保証のひとつ。私たちの目的は、あくまでもお客さまからクレームがでてこない製品をつくる——このことに尽きます。

JIS審査をはるかにしのぐ私たちの、きびしい品質管理

単に外観・厚み・サイズだけでなく、直角度・凹み・そり・ヒビ割れ・過熱減量にいたるまで、きびしく目を光らせ、お客さまに満足していただける製品しかつくりません。このきびしい品質管理も各業種の中でもとくにクレームがつきやすい“床材”だからです。

この“きびしさ”の中から生まれた床材の最高傑作・マチコタイル

よい材料をすぐれた技術で加工し、いっそう品質を高めた床タイル＝マチコV・マチコS。耐摩耗性歩行性・耐薬品性にすぐれています。しかも、色は明るいシックなものをはじめ、豊富。すばらしいインテリアデザインを、みごとに演出する、傑作です。

■床材のハイファッション

マチコV
ビニールアスベストタイル

マチコS
シリッドビニールタイル

東洋リノリユーム株式会社
本社　大阪市南区順慶町通り4丁目（三和ビル）
札幌・仙台・東京・長野・名古屋・広島・高松・福岡



<営業品目>

カーテン　ウォール
アルミサッシ・ドア
ステンレスサッシ・ドア
スチールサッシ・ドア
住宅用アルミサッシ〝エリート〟
アルミレディーメード　サッシ・ドア

サッシの綜合メーカー

dsk ダイケンサッシ株式会社

本社・工場　堺市松屋町1－6　TEL 堺(38)大代表 1141
鳳　工　場　堺市平岡町48　TEL 堺(7)代表 5541
営　業　所　大阪・東京・名古屋・金沢・福岡・長野

常温で使えるアスファルト
フリントコート



屋根防水工事に
世界各地で40年間の実績があり、その安全性には定評があります。

床工事に
セメント、砂、砕石と混合した独得の床で、一例をあげると各地日本専売公社の倉庫の床に採用されております。

(株)シエル石油大阪発売所
大阪 (303)7131
東京 (562)4646
福岡 (77)1961

SHELL
シエル石油

シエル石油アスファルト部　東京都千代田区丸の内2～3　TEL(212)4371大代表

〈新発売〉三星プラスタイル"M"

日本の感覚"M"タイル——気品と風格のあふれる床



風格あるビルづくりに——いままでにない、〝気品のある床材〟みなさまには初お目見えの色と模様です。いつまでもアキのこないのが特長です。風格あるビルづくりにぜひ欠かせません。

優れた品質と性能で——ますます高級化する最近のインテリア・デザインが求めていた床材。プラスチック床材でいちばん経験の深い田島応用化工。その優れた技術と経験でついに登場させました。

●色と模様は12種類—豪華な見本帖を用意しております。ハガキにてお申し込みください。

三星プラスタイルPの

田島応用化工株式会社

東京／千代田区岩本町3—11　TEL 866—6101(代)　大阪／西区京町堀1—74　TEL 441—5951(代)

東・西アス協組 統一年限仕様確立

特許

ギル・アス防水

ギル・アス防水は
世界の防水の
九〇%以上をしめる
アスファルト防水の
安定した実績と
長い伝統の上に開発された
〈強力ギルソイド・
アスタイト防水〉
の略称です

ずばぬけた耐候・耐久性
幅広い温度特性
下地亀裂に順応する延伸性
きわだった柔軟性…など

建築防水として必要な
かずかずの苛酷な実験に耐え
あらゆる面で
現代最高の防水であることが
実証されています

強力ギルソイド

合成繊維の不織布にアスタイトをタップリと含浸させた特許製品で、いわばアスタイトの層に維繊が内在する〈**プレハブ防水被膜**〉ともいえる防水補強材の決定版です。
下地亀裂に順応する延伸性のほか、低温でも脆化しない柔軟性、粘りと強靱性、腐朽・老化しないずばぬけた耐候・耐久性など補強材として理想的な特性をもっています。

アスタイト

特殊な製法によってつくりだされる最高の防水材で、一般の合成樹脂にもまさる画期的な特性をもち、〈**黒いプラスチック**〉ともいえるものです。
耐候・耐久性、温度によって硬化・軟化しない幅広い温度特性加熱安定性、強い粘着性、適度な塑性流動性など、防水材として要求されるあらゆる特性をそなえています

ギル・アス防水

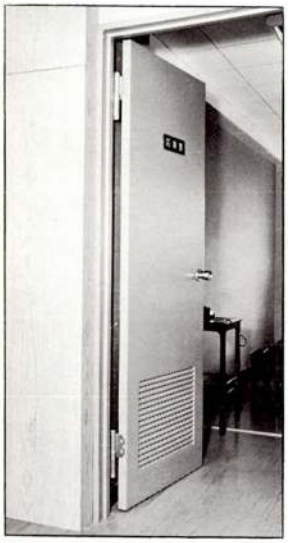
すぐれた性能のアスタイトと、特許・補強材強力ギルソイドを組み合わせた防水層は、その相乗効果によって、どんなきびしい自然条件にもよく耐えて、老化・変質することなく、破損・漏水などの事故をおこさない〈**最高の防水層**〉です

建設省東計65号認可 東日本アスファルト事業協同組合
建設省阪建22号認可 西日本アスファルト事業協同組合

東　京・千代田区岩本町３の１１の１３田島応用内　ＴＥＬ代表（866）６１０１
大　阪・大阪市西区京町堀１の７４　ＴＥＬ代表（441）５９５１
札　幌・ＴＥＬ（22）6038　仙　台・ＴＥＬ（22）6413　名古屋・ＴＥＬ（571）6361
福　岡・ＴＥＬ（28）2807　広　島・ＴＥＬ（21）2281　岡　山・ＴＥＬ（24）2692



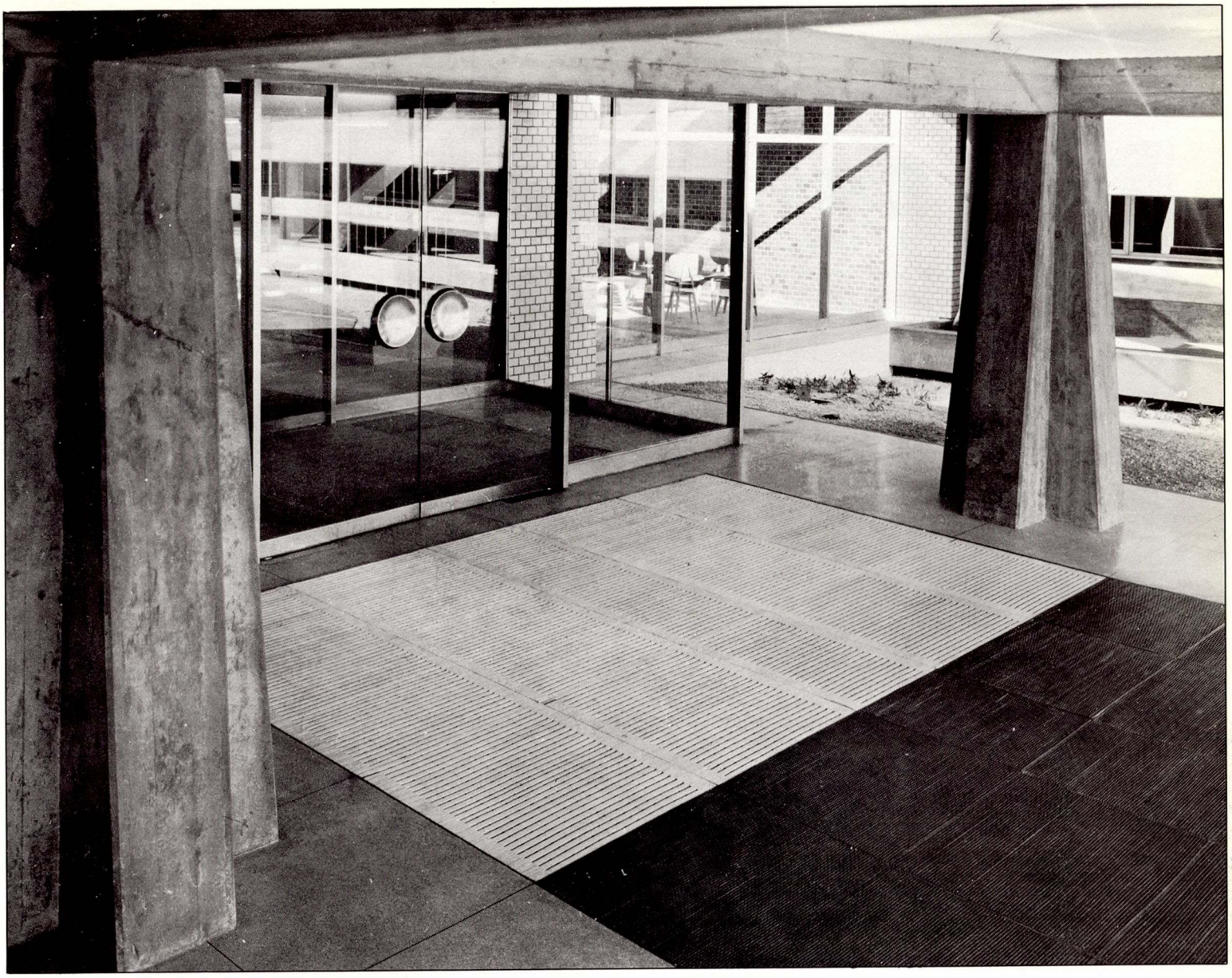
デンセイ オートヒンジ《丁番型》



■特　長

1. 丁番がドアークローザーを兼ねていますので、外観は目立たず、そのシンプルなデザインは扉に良くマッチします。
2. 画期的なダブルスプリング切換機構(クラッチ)により、充分な閉扉力を具えております。
3. 内蔵されたストップ装置により、扉は85°～90°の間でストップします。
4. 閉扉速度のコントロールは円滑で、速度調整はどなたにも簡単にできます。
5. ドアーチェックを使用することが困難な特殊な扉にも使用できます。
6. 機構的に摩擦面が少く無理がありませんので、耐久力に優れ、20万回以上に及ぶ耐久テストでもこれが実証されています。

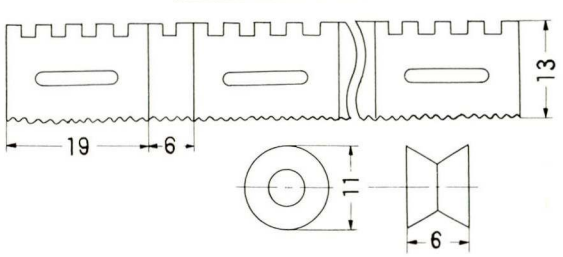
発売元　日恵機材株式会社
東京都千代田区丸ノ内2—2（丸ビル459区）
電話　東京(201)3333(211)0005
大阪出張所　大阪市東区高麗橋5—16(今井ビル)
電話　大阪(231)4608
製造元　日本電氣精器株式會社



各種玄関マット設計製作　ミヅシマ

ストレートラインアット
（ビニール）

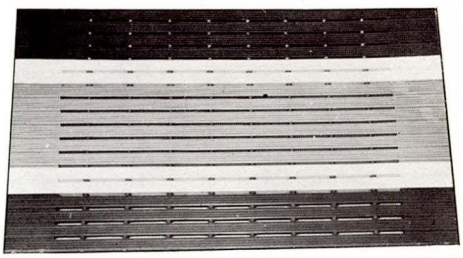
断面詳細図



ハイセンスを
しこう！

グッドデザインを
選ぼう

●PAT.NO.748401



ミヅシマ

おそうじ百貨
ミヅシマ工業株式会社

営業本部／大阪市西区北堀江上通一丁目20　TEL (531) 3514・8246・9347
本社工場／京都市南区久世築山町 380の2　TEL (92) 6361～3

〈営業所〉
東　京／TEL (666) 4714 (668)4873
名古屋／TEL (731) 5138・5396
京　都／TEL (22) 5363・0214
大　阪／TEL (531) 3514・8246
福　岡／TEL (29) 2706

完全責任施工 | 年限保証

BK 日本アスのアスファルト防水

■シグマートによるウエルドシステム防水工法
■特殊絶縁防水工法(特許出願中)
■メルタン防水工法

■全国に配置された組合員の強力な連繋と技術で完全な施工工事をお引受けいたします。

地区別	会社名	代表者	住所	電話
北海道地区	日本スレート株式会社	滝山米太郎	札幌市三条通4－1	(22)3458・4426(23)8016
	日新建工株式会社札幌出張所	大木　久俊	〃　南大通り西13丁目	(22)5015
東北地区	日新建工株式会社仙台出張所	滝沢　慶則	仙台市二日町1－2	(25)5431代
関東地区	伊藤建材株式会社	伊藤　豊吉	東京都台東区西浅草2－15－9	(842)1431代
	北条瀝青工業株式会社	北条　弘太	〃　中央区湊町3－7	(551)2676・4382
	有限会社金岡興業	金岡辰次郎	〃　新宿区柏木5－1172	(363)4341代
	瀝青建材株式会社	山中喜代治	〃　千代田区神田佐久間河岸51号	(866)2892・7687
	日新建工株式会社	山下　直衛	〃　荒川区南千住6－48－19	(803)2411
	日本綜合防水株式会社	山崎　慎二	〃　千代田区神田猿楽町1－9	(292)2661代
	マサル瀝青工業株式会社	西田　勝治	〃　台東区北上野2－21－10	(842)6311代
	藤井工業株式会社	藤井　喜昌	〃　文京区千石4－37－4	(941)0271・2582
	富士工材株式会社	小島　英夫	〃　江東区深川住吉町1－14	(634)0161代
	鶉田工業株式会社	鶉田　武	〃　千代田区富士見町1－6－13	(263)4861代
	木下工業株式会社	木下　一	〃　墨田区江東橋4－11東亜ビル	(634)0821代
	野口工材株式会社	坂田　正博	〃　渋谷区広尾1－14－3	(441)3751 (444)0405
	大和工業株式会社	楡井　喜重	〃　荒川区南千住5－5－10	(802)4751代
	協立工業株式会社	関谷　克巳	〃　大田区南蒲田1－14－2	(731)0358 (738)3401
	株式会社奈良屋商店	市橋　祐造	水戸市泉町1－6－26	(3)0171～6
	石田建材工業株式会社	石田　想吉	高崎市八島町117	(2)3301～2
	同和建業株式会社	徳永　昭二	新潟市流作場宮浦1－1711	(45)2251代
北陸地区	島屋建設株式会社	島　勝人	金沢市此花町5－7	(21) 0085 (31)6420
	有限会社折橋政次郎商店	折橋彌一郎	富山県高岡市二番丁	(2)0999
	有限会社小島工業所	小島　一公	〃　〃　志貴野町25	(3)0391
	大和工業株式会社富山営業所	島田　真一	富山市堀川小泉町776	(31)4385
東海地区	株式会社三井工業所	三井　辰雄	静岡市大和町1－20	(85)9151～3
	協和建材工業株式会社	渡辺　亘	清水市渋川520	(2)2221代
	中央建材工業株式会社	木下　作二	名古屋市中区南久屋町3－12	(251)3541
	日本建材鋼業株式会社	伊藤　隆造	〃　西区南押切町5－12	(571)5541～4
	宮崎建材店	宮崎　勇	〃　中区伊勢山町100	(331)1531代
	東京建材工業株式会社	伊藤　鎮善	〃　中村区稲上町1－41	(461)9363 (481)5621
近畿地区	日新工材株式会社	井場　績	大阪市西区新町北通1－17	(541)3785～6
	マルエス工業株式会社	山崎　達夫	〃　福島区上福島南1－152	(458)4841～3
	清水興業株式会社	清水　実	〃　北区鶴野町34	(372)0251～3
	マサル瀝青工業株式会社大阪営業所	勝見　勲	尼崎市水堂加茂64	(429)7355
	中村瀝青工業株式会社	中村秋太郎	神戸市生田区北長狭通6丁目神繊共栄ビル	(34)5884・5658
	棚田建材有限会社	棚田　英吉	〃　葺合区上筒井通8－221	(22)9182代
	フタバ興業株式会社	友長　保男	大阪市福島区上福島北4－49	(458)7431～3
	石橋建材株式会社	石橋　節雄	福井市宝永9－13	(3)0775
中国地区	豊永建材株式会社	木村　豊	広島市若草町1065	(61)6371～4
	大和工業株式会社広島出張所	神垣　信一	〃　庚午南町1－2－28	(71)4687
	株式会社三洋技建	谷岡　馨	広島県大竹市立戸4－1－47	(2)5155～7
	東中国防水工業有限会社	馬場　久	岡山市磨屋町7－18	(23)1181代
四国地区	株式会社山本商会	山本　進	松山市三番町7－8－1山本ビル	(31)6261～3
	大三工業株式会社	飯間　浅吉	高松市本町2－17	(51)6811～5
	高知瀝青株式会社	横井　良一	高知市塩屋崎町2－20	(5)9258～9
	徳島大三工業株式会社	柴田　秋男	徳島市矢三町東野181－1	(4)4161
	マルマス河野商店		今治市寺町56	(2)5000～2
九州地区	日新興業株式会社	河野　考義	延岡市本小路74	4305・4306
	株式会社工材社	竹村　藤一	北九州市門司区大里東通10丁目	(38)1468～9
	株式会社大二商会	戸高　藤雄	宮崎市知和川原365	(2)5001
	株式会社北原建材商会	北原　正	鹿児島市草牟田町3980	(3)9395
	安藤工事株式会社	川勝　正之	福岡市大博町8－5	(28)5207～9
	日建工材株式会社	進藤　博一	〃　大手門2－8－6	(75)7752

■建設省東計第240号認可

日本アスファルト防水工業協同組合

東京都足立区千住東町93　日新工業株式会社内　電話（882）2424(代)
関東支部　東京都足立区千住東町93　日新工業株式会社内　電話（882）2424(代)
関西支部　大阪市西区新町北通1－18日新工業株式会社大阪支店内　電話(531)5281～3
九州支部　福岡市大手門1－6　日新工業株式会社九州出張所内　電話（74）3461

お部屋のポイントは
床材から……
明るい配色…落ちついたムード
色種類……34色

マルエスの
ビニエス
タイル

合成ゴム系(ネオプレンゴム)
異形建物に最適
最終仕上材はハイパロン
色彩……21色

気候較差の著しい
所に最適
防水工事をプレハ
ブ化　新材料
(合成ゴム系コンパ
ウンドにて加工)

マルエス
日新

NS
塗膜防水工法

メルタン
ルーフィング

●カタログ
お入用の方は御一報下さい

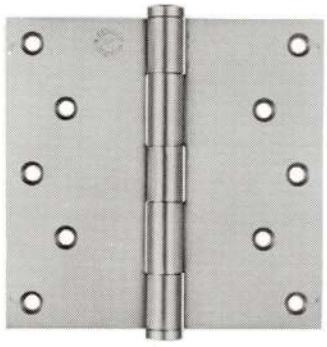
マルエス ルーフィング製造元
日新工業株式会社

大阪支店／大阪市西区新町北通1－18　TEL(531) 5281～3
本　　社／東京都足立区千住東町93　TEL(882) 2424～34
出 張 所／名古屋(741)6257～8・広島(21)1019・6061
福　岡(74) 3461～3・札幌(51) 6885・5659

Art の製品には……

●ドアーを大切にしハウスキーパーの役目をはたす

アート ST-84（18－8ステンレス） ドアーヒンジ RAシステム



●仕上はサテン仕上です
●ＲＡシステム(90°抜け芯装置付）です
●高精度を誇り、耐蝕性・耐熱性にすぐれ錆びたり変色したりする事はありません
●18－8ステンレス、木ネジ付きです

寸法(㎜) 全長	横巾	板厚 (㎜)	木ネジ穴の数	木ネジの太さ及び長さ φ ㎜	梱包数量 (枚)
89	89	2.5	6	4.1×25	100
102	102	2.8	8	4.1×25	100
127	102	3.0	10	4.5×32	60
127	127	3.0	10	4.5×32	60

包装・２枚木ネジ付紙函入

●丁番の取付けが簡単、作業能率の向上！

木ネジの革命 スパイラー



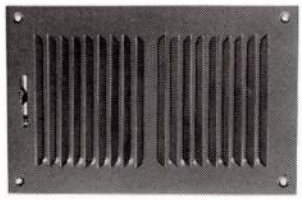
●錐でガイド(下穴)を設ける必要がない。
●全ネジ式ですから密着が良く振動のために抜けてくるようなことはない。
●釘状の部分で木部へ安定した嵌合が出来るのでドライバーの**横滑り**がなく製品を傷めずに固定出来る。
●**表面硬化**をしてあるためにネジ山の破損が少なく**反復作用**によく耐えます。
※〝アート〟のヒンジの中級品以上（ＤＲ-844. ＮＲ-64. ＳＴ-84. ＳＴ-ＳＬ-84-1）には**スパイラー**が附属されています。

●最新型ウォールレジスターセット

EWレジスター ●米国ＦＨＡ規格品

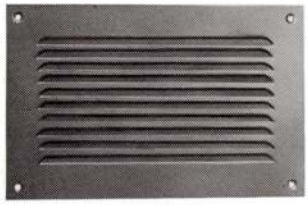
●自然換気により室内の空気はいつも爽やか。
●室内冷暖房の保温調節が容易。
●シャッター120°迄自在調節止め付。
●錆の発生、変色がなく湿度の高い所、バスルーム等にも安心して使用出来る。
●スッキリとしたデザイン中間色の落ちついた色調。
●風雨の晒す場所でも雨の吹込む心配がない。
●ソフトシートにて取付けの際のガタつきがなく、完全密着取付け施工が出来る。

レジスター No.55－R



取付部分切込み寸法 ㎜（吋） 縦	横	表面板寸法(㎜) 縦	横
150（6″）	260（10″）	195	295
150（6″）	310（12″）	195	345
150（6″）	360（14″）	195	395

グリル No.55－G 防虫網付



取付部分切込み寸法 ㎜（吋） 縦	横	表面板寸法(㎜) 縦	横
150（6″）	260（10″）	195	295
150（6″）	310（12″）	195	345
150（6″）	360（14″）	195	395

※鉄筋住宅のお部屋の換気、冷暖房装置の通風口には理想的な吸入、排気のレジスター、グリルをセットして使用ください。

Art ●JIS規格表示許可工場 住宅公団・建設省指定メーカー
永和工業株式会社

本　社　大阪市生野区巽矢柄町１２８　TEL 大阪(751)1271～5
工　場　東大阪市布市町５０　TEL 枚岡(81)５５６６
東　京　東京都中央区日本橋本町4－4　TEL 東京(663)６７４８
営業所　（クラウンビル内）



熊本県庁舎　外装セラスキン施工

●特許建築用内装・外装化粧材
砂粒状陶磁器の吹付

セラスキン

●建造物の内外部に!!
粉状陶磁器の吹付

セラコート

●粗粒状陶磁器の吹付

セラカット

セラスキンとは陶磁器の皮（CERAMIC SKIN）と云う意味で砂粒状の有色陶磁器と結合剤とを混合、液状としたもので、これをスプレー（コンプレッサー使用）ガンにて建造物の内・外、壁面、天井etc に吹付け、防水性と装飾を目的とする建材です。

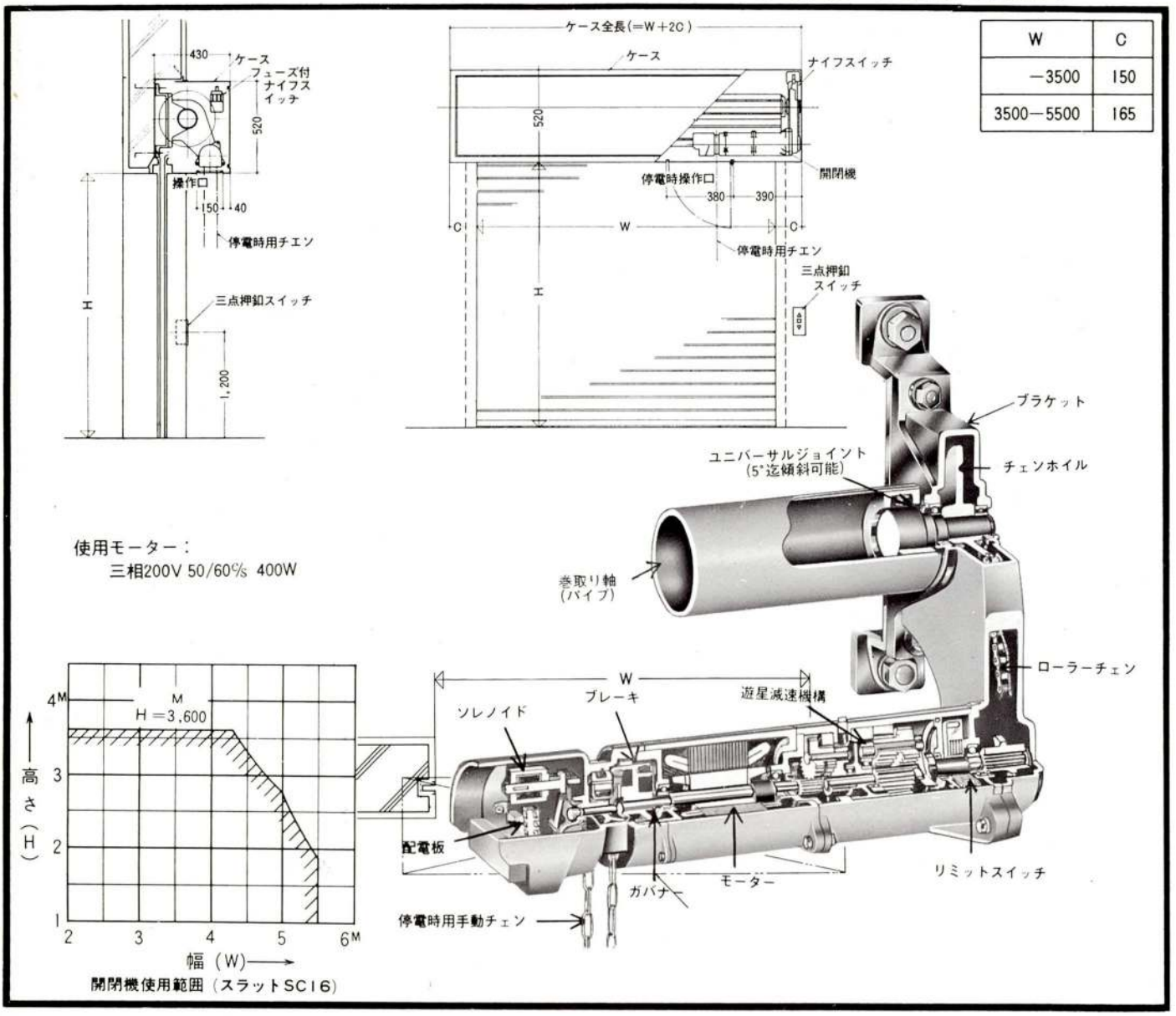
特　徴

●色　彩	高熱焼成（1250℃－1350℃）にて発色した陶磁器を主材料にして顔料、色素を使用しない為雨風、太陽光線による色彩の変化は起りません。
●防 水 性	通気性、防水皮膜を形成します。
●耐薬品性	弱酸、弱アルカリに対しては変化を起しません。
●耐 寒 性	－20℃に4時間冷凍しても亀裂その他の異常は認めません。
●下　地	コンクリート打放し、モルタル、ベニヤ板、和壁、ブロック、スレート、テックス類etc. 鉄類の場合は錆止塗料を塗って下さい。

山本窯業化工株式会社

大阪市東淀川区西淡路町3－176　TEL（322）4851～4
東京出張所・東京都港区西新橋2－21－6　TEL（431）7106～7
瀬戸工場・愛知県瀬戸市大字山口字南山138　TEL（82）8847

日本のシャッター界をリードする画期的新製品!!



W	C
−3500	150
3500−5500	165

使用モーター：
三相200V 50/60% 400W

開閉機使用範囲（スラットSC16）

L型 電動開閉機

出願中　特許　リミットスイッチ　実用新案　巻取り軸との連結機構
ガバナー機構　およびL型機構
手動機構　チエン収納箱

L型電動開閉機は、日本シャッター技術研究所において、長年にわたり、国立大学精密機械工学部諸教授の指導をあおぎつつ、当社技術陣が総力をあげて研究開発し、遂に従来の開閉機の概念を破って完成した画期的な新製品です。

この開閉機には独創に満ちた新機構が数多く取り入れられており(特許3件、実用新案2件を出願中)、減速機、モーター、ブレーキ機構、停電時用手動装置はもとより、リミットスイッチ、配電板に至るまで、すべてを一つの円筒内にコンパクトに納めてあります。

従って、建築設計上の納りが非常に簡単で、しかも、取付やその後の保守点検等も楽にできるよう考案されております。

これらの点から見て、従来の製品に比べ総ゆる点に秀れており、シャッター開閉機の決定版といえるでしょう。

●特長●

1. 開閉機を設ける場所の心配がいりません。
2. 凸部のない真直なシャッターケース。
3. 袖壁は不用です。
4. 減速機構はすべて完全密閉式です。
5. 小型で耐久力に富む減速機構。
6. 給油の必要がありません。
7. エンドレス強力ローラーチエンの内造。
8. リミット・スイッチを完全に内造。
9. 手動操作をひとつにしました。
10. ヒューズ装置の取付けが可能。
11. 一斉・両面・遠隔操作いづれも可能です。

株式会社 日本シャッター製作所

東京工場　川崎市新丸子東3丁目1159番地　電話(代)中原(41)6325
大阪工場　大阪市東淀川区田川通6丁目38番地　電話(代)(301) 3656
九州工場　福岡県粕屋郡粕屋町仲原釜屋2727番地　電話(代)(65) 6131
名古屋工場　名古屋市中川区北江町2丁目12番地　電話(代)(361) 7441

営業所　仙台　静岡　高松　北九州
東部　北陸　広島　鹿児島
城西　神戸　大分
横浜　岡山　宮崎

◀大阪商工会議所ビル新築工事見学会

共　催　本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部

日　時　3月9日（土）集合1時30分～解散3時

集合場所　標記正面玄関前（ピロティ）付近・目標会旗（但し市バス～松屋町筋～内本町2丁目下車すぐ北・西側）

申　込　3月7日までに電話でお申込み下さい。
定員　200名（三会共）に達し次第〆切ります。

建築概要
所在地　大阪市東区内本町橋詰町58番地の7
設　計　日建設計工務株式会社
施　工　大阪商工会議所ビル新築工事共同企業体
株式会社　大　林　組
株式会社　銭　高　組
株式会社　竹中工務店
構造規模　SRC造　地下2階・地上8階
（G1・B2M2を含む）
敷地面積　2,380.19㎡（720坪）
建築面積　1,970.93㎡（596.21坪）
延面積　19,566.33㎡（5,918.81坪）
工　期　着　工　昭和41年7月13日
竣工予定　昭和43年3月22日

◀大阪厚生年金会館ビル新築工事見学会

共　催　本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部

日　時　3月28日（木）集合3時～解散4時30分

集合場所　標記正面玄関前・目標会旗
（但し四ツ橋筋東立売堀西へ二筋目南折れ）

申　込　3月20日までに電話でお申込み下さい。
定員150名（三会共）に達し次第〆切ります。

建築概要
所在地　大阪市西区新町北通2～1～1
施　主　厚生省社会保険庁
設　計　株式会社　久米建築事務所
施　工　株式会社　竹中工務店
構造規模　SRC造　地下1階・地上8階・塔屋3階
打込タイル・中ホール　1,100席
大ホール　2,400席
建築面積　5,998㎡
延面積　23,395㎡
工　期　昭和40年9月～43年4月12日（竣工予定）

◀実務に直結した建築工事別説明会「新しい型わく工法説明会」

日　時　3月27日（水）午後1時→5時

会　場　大阪科学技術センター4階・401号室
（大阪市西区靱1，市バス靱公園前）

定　員　200名（申込は不要です。お誘い合わせご出席ください）

説明題名・説明者

『コンクリート型わく用合板の特長』
永大産業株式会社取締役研究所長　農博　小倉武夫氏

『コンクリート型わく用合板の日本農林規格』
（財）日本合板検査会大阪検査所長　八木慶三氏

『合板型わく工法と締付金物』　岡部株式会社研究室　高橋昌氏

『合板型わく工法』　株式会社鴻池組事業所主任　桑原三郎氏

■コンクリート型枠用合板の特長

合板がコンクリート型枠として用いられだしたのは，このわずか2～3年のことであるが，その量はすでに2′×6′のサイズで月約100万枚といわれている。この事実は合板が型枠として，いかにすぐれているかを物語っており，この点の説明をする。

その内容は，型枠用合板の一般的利点，合板の特長，とくに強度について解説し，型枠に用いたときの側圧による撓みとバタ間隔との関係，型枠用合板の良否を見分けるポイント，硬化不良に対しては生産者としての解決法，さらに現在の生合板のみを用いていることに対する生産者としての改良法などについて紹介する。

■コンクリート型枠用合板の日本農林規格について

日本農林規格JASは農林物資規格法に基いて，農林大臣が品目を定めて規格をきめたものであります。

昨年8月にコンクリート型枠用合板の規格が，合板メーカー，ユーザー，学識経験者，官庁関係者により定められ実施されましたが，それまでは規格が無く作る方も使用する方もまた取引についても非常に不便を感じていました。コンクリート型枠用合板はコンクリートを固める道具として使用するものですから規格の面でも強度を主としたもので，表面の美しさなどは第二次的に考えており，構成単板の厚さと全体の厚さの比，曲げ剛性試験，接着力試験などを行ない，またユーザーの強い希望により耐アルカリ性の規制も製造基準により行なっております。

■合板型わく工法と締付金物

合板型わくの施工計画
① 型わく用合板のJASSと種類
a．生合板とJASSおよび近況，b．オーバーレイ合板，c．ユーテイング合板，d．フレーム付き合板
② 合板型わくの有利な転用計画
a．部位別の割付計画，b．スラブ型わく早期転用新工法，c．合板型わくの現場管理
③ 締付金物と組立て方法のいろいろ
④ 剛性のチェックと支保工の関係
a．特にコンクリートポンプによる側圧の増大傾向について
⑤ 塗仕上げの問題点について
a．表面の処理と接着剤について

日本建築協会創立50周年記念出版・案内

◀鉄骨のデザイン

＜実例と考え方＞

43年2月8日出版

【体裁】 B5判（182×257mm）8ポイント活字一段横組約400頁（設計図面88枚）図版多数挿入本文・特別上質紙，表紙・特クロース上製本・特製函入

【価格】 会員特価2,200円定価2,500円送料250円

■お申込みは，電話または，はがきで事務局までお願いいたします。

【総目次】

鉄骨構造の考え方

実　例　（新規準案に準拠）平家建の倉庫・溶接構造の給油所・鋸屋根のある工場・クレーンのついた倉庫・2階建の工場内食堂・3階建の事務所・鋼管構造の工場・屋上独立鉄塔・軽量形鋼による工場

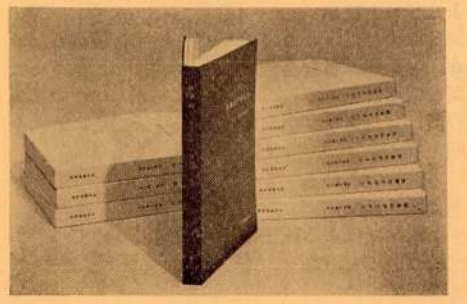
建築鉄骨の溶接設計

構造計算書について

設計資料・鋼構造設計規準案による断面算定表（1個の山形鋼・2個の山形銅・4個の山形鋼・みぞ形鋼・H形鋼・T形鋼・鋼管・山形鋼の引張耐力・ラチスの圧縮耐力）

標準形鋼規格・各種断面に対する最小二次半径近値表・アンカーボルト計算図表・電動クレーンの主要寸法表・山形ラーメンの公式表

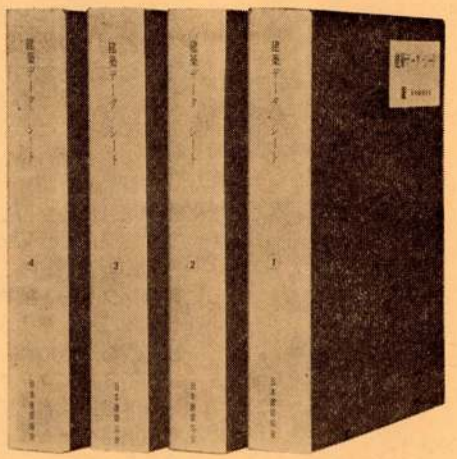
特別資料・各種鉄骨材料一覧表とその解説



◀建築データシート

1月号会告で発表いたしました「建築データシート」を建築と社会誌付録（会員無料）として，3月より20ケ月（600シート・1200頁）毎月刊行いたします。

建築データシートの特製ファイルを作成しますので，ご希望の方は「はがき」に氏名，勤務先，電話をご記入の上3月末日までにお申込み下さい。予価1部300円，送料，実費といたします。領布は5月頃の予定です。なお1ファイルには150シート～200シートが収納できます。



総　目　次

A 仮設工事	B 土工事
C 基礎・地業工事	D コンクリート工事
E 鉄筋工事	F 鉄骨工事
I 屋根工事	G コンクリートブロック煉瓦工事
H 防水・防湿工事	J 石・タイル工事
K 木工事	L 金属工事
M 左官工事	N 建具工事
O 硝子工事	P 塗装工事
Q 内装工事	R 雑工事
S 外部工事	T 電気工事
U 給排水・衛生工事	V 暖冷房工事
W 機械設備	X 特殊工事

求人広告

構造技術者及見習募集

構造デザインセンター

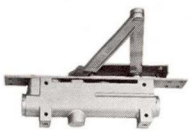
（構造図面・構造計算）

大阪市天王寺区上本町4丁目1の2

TEL（768）4475

NEW★STAR

NEW★STAR



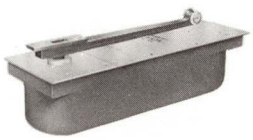
ドアチェック 60シリーズ



ドアチェック 70シリーズ



ドアチェック 80シリーズ



フロアヒンジ

その他
ラバトリヒンジ
ピポットヒンジ
ドアハンドル

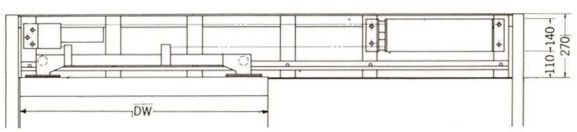


✳ 品質・性能ともに定評ある

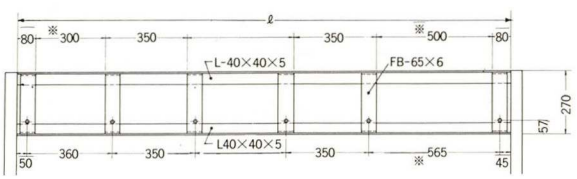
●スイング式・スライド式

ニュースタードアオペレータ

片引き戸内観図



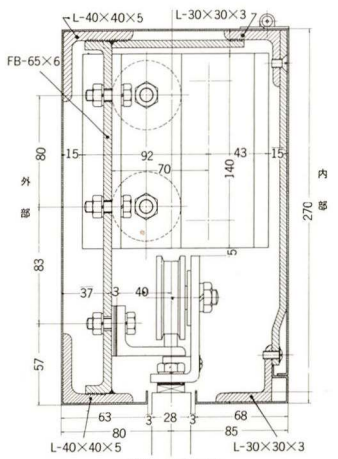
エンジン及ドア関係要領



レール取付板例図

※印寸法は守って下さい。
※印寸法NSL-4の場合は$^{535}_{600}$に変更されます。

上枠断面懸吊要領



※斜線部は客先工事分

■ニュースタースライド式ドアオペレーターの特徴

●油圧の長所と電気式の利点とを組合せた新製品です。●油圧装置がついているために閉る速度が「ゆるく」「なめらか」です。●バルブの調整で閉る速度が自由に変えられます。●閉る手前で一旦止って、その后ゆるく閉ります。●停電の場合、すぐに手で軽く開閉が出来ます。●価格が安く、別途工事がほとんどない。●取付工事、保守が非常に簡単です。

生産高日本一

日本ドアーチエック製造株式會社

本社工場 大阪市生野区巽矢柄町222 電話(06)(758)1251(代)
東京支店 東京都千代田区神田小川町2—12(信愛ビル) 電話(03)(293)4831～5
札幌出張所 札幌市月寒中央通り月寒314—1 電話(0122)(86)8255～6
仙台出張所 仙台市北6番丁187 電話(0222)(34)6049
名古屋出張所 名古屋市北区浪打町2—80—2 電話(052)(981)7531～3
広島出張所 広島県安佐郡佐東町緑井205 電話(08287)(7)1611
福岡出張所 福岡市天神4丁目4番24 電話(092)(74)2372・3312





《中西ビル》 外装 セルコートA吹付

壁材の《光和建材》が 化学製品のトップメーカー **ダイセル**との 技術提携のもとに 研究開発した 天然砕石吹付材料

セルコートA

現場での調合がいりません。

セルコートAは、天然砕石と特殊な合成樹脂（バインダー）を配合した「外装用吹付仕上材料」です。調合ずみの材料ですから、施工現場での調合作業がまったく必要なく、すぐに作業にかかれます。

各種の材料に適用できます。

セルコートAに配合した特殊な合成樹脂は、非常にすぐれた付着力をもっていますから、コンクリート、モルタル、石膏プラスター、ドロマイトプラスター、スレート、木材、合板、耐火ボードなど、各種の材質に塗装できます。

施工時間が短縮でき、経済的です。

従来、外装仕上げとしては、〝かき落とし〟や〝洗い出し〟などの施工方法がありますが、これらの方法は仕上げに長時間かかる欠点がありました。**セルコートA**は調合材料なので、現場ですぐに使用でき、そのうえ吹付け塗装ですから、施工時間が短かくてすみます。さらに、付着性のよい材料の吹付けですから、〝かき落とし〟や〝洗い出し〟にくらべて、材料が少量ですみます。

仕上りの美しさも研究成果の一つです

セルコートAを施工した仕上りは、天然石材、タイルなどを使用した壁面にくらべて、まさるとも劣らない、立体感のある効果が得られ、各方面で大好評をいただいています。

商品の容量と塗り面積は…

●**容量**…1缶18ℓ　石油缶入り

●**塗り面積**…1缶で10m²（約3坪）の吹付けができます。塗り面積は、配合された砕石により多少の差はありますが、2回吹付けで3.3m²（約1坪）に約10kgいります。

＊お問合わせ・ご用命をお待ちしています

大阪　光和建材株式会社

大阪市西成区玉出新町通4の15　(659)5101～5103

《光和建材》がおすすめする…
新しい吹付・左官工事材料

砕石コテ塗用樹脂……	**セルコートK**
樹　脂　壁……	**セルウォール**
防水工事用樹脂……	**セルタイト**
モルタル打ちつぎ用樹脂…	**プラスタイト**
樹脂吹付塗装材……	**プラスコート**

《ダイセル》との技術提携品

法令コーナー

日本建築協会法規委員会

質疑などの投稿をお待ちしております。

◇ 都市再開発法案について（2）

2. 都市再開発法案の目的

都市再開発とは近代社会に適応しなくなった市街地の部分，老朽化した市街地を近代的に体質改善することにある。外国では第2次世界大戦を契機として過去何百年の間手をつけ得なかった市街地の改造を行ない，新時代に適した都市構成を構築して市民の期待にこたえている。アメリカの場合でも，スラムクリアランスから都市再開発がおこり，社会政策としてとりあげられてきた。唯スラムを再建するにあたって，単に住宅を再建するということでなく，その位置に適応する方法で，すなわち土地利用経済上最も効果的な方法で再建する考え方がとられている。

したがって再開発の内容は，小は自分の住む家の修理改造から，街路，公園，緑地の整備，スラムの清掃などという環境改善を行ない，住みよく美しい町にすることである。そのため都市再開発を正しい方向にもってゆくには，都市の基盤にある都市社会ならびにその経済的な動向をみることが大切である。

日本において以上の目的のために，都市再開発法を制定しようとすることは，現在の官庁機構では各省に亘る大問題になって到底成文化することは不可能であろう。そこで現に物理的な都市建設の手法を受持つ建設省から都市再開発法を提案するとすれば，土地の合理的利用を最大目的とすることで限定されることとなる。

その目的の中でも現実に問題となっている過密都市の都市機能のマヒ状態解消が緊急を要する問題であるので，これを主目標とする法案となっている。一般に都市整備を考えるとき，(イ)土地の整備，(ロ)都市公共施設の整備，(ハ)建築施設の整備，などが互いにバランスをとりながら進渉してゆくことが望ましいが，法案では一応それ等が平行して整備し得るよう意図されているものの，(ロ)にやや重点があるものといえよう。

以上の趣旨から，社会的問題として解決されなければならないスラムクリアランスは法案の対象外であり，また建築施設整備のみの再開発事業は極端に限定された場合のみ実施できることとなっている。

3. 都市再開発計画

(1) 空間計画

道路，公園，建築物等がそれぞれの面積を有効に確保するため，立体的に処理し，かつ都市生活の中に十分の光と空気と憩の場を与え，さらに交通の利便を得ることと，その危険から守ることが重要な課題である。この思想から再開発は建物の高層化が必然であり，空間配置は重要視されなければならない。

法案では容積地区内でしかも最低限容積を定められていることを前提としている。（建築基準法では最高限となっている。）さらに現在低層建築が多数を占めている地区となっているので，再開発後の建築物が高層化し，空間計画の目標達成については，技術的解決によって可能であろう。

(2) 地域の純化

社会機構の複雑化につれて各種用途の混在がみられるが，本来ならば，生活環境の立場から各種用途の混在が及ぼす影響は一般に好ましくなく，また商業利便上も非能率的である。再開発計画はこれを整理し，周辺との調和を保ち得るよう目的毎に細分化した用途別地域の思想を必要とする。これによって地域の純化が達成できるので，法案では，地区選定の条件として「土地の利用が細分されている等により，当該区域内の土地の利用状況が著しく不健全であること。」としている。

(3) 交通計画

都市機能整備の中で道路建設が特に大きいウエイトを占めていることは当然であるが，日本の場合非近代的な都市型態の改善を道路建設にのみ求めようとする傾向があって，再開発の目的が道路建設のみという場合も起ることが予測される程，事態は深刻である。

また再開発地区内の交通施設整備のみでなく，都市全体あるいは地区周辺の条件整備を行なわなければ問題解決とはならない。

法案ではもとの都市計画があって，再開発計画はその都市計画に適合するよう定めることとなっている。

（大阪府市街地建築課長　椚座正信）

◇ 法令相談

問（1）大規模な工場等の敷地内避難通路について

答　同一の敷地内に2以上の建築物のある場合においては，延床面積の合計1000㎡以内ごとに区画して，道または隣地境界線に接する部分を除いて，その周囲に巾員3m以上の通路を設けなければなりません。（令第128条の二第2項）

ところで，巾員3mの通路がとれないとき，同条同項の（　）書の適用を考えて，増築する棟などを簡易耐火建築物にする場合があります。しかし，この場合も，3mの通路で区画された部分の延床面積の合計から，簡易耐火建築物の延床面積を差引いた残りの面積が，1000㎡以下にならなければならないことに注意する必要があります。

なお，（　）書中で1000㎡をこえたものを除いているのは，法第26条，令第128条の二第1項などによって，当該建築物については，防火上避難上の措置がとられているからであります。

また，同一敷地内に特殊建築物など令第117条に規定する建築物がある場合には，当該建築物の出入口などから道，公園，広場その他の空地に通ずる巾員1.5m以上の通路を設けなければならないことにも注意して下さい。（令第128条）

最後に念のため書き添えますが，通路は青天でなければならず，また要求される巾員は有効巾員でなければなりません。

問（2）臨港地区の建築制限について

答　大阪市の臨港地区には，商港区，特殊物資港区，工業港区の分区が指定されています。

そして，＜大阪港臨港地区の分区における構築物の規制に関する条例(昭40大阪市条例32)＞で，それぞれの分区内で禁止されている建築物または構築物について定められています。

この臨港地区の分区内では，港湾法第58条によって，建築基準法第49条および第50条（用途地域および専用地区内の建築制限）は適用されません。

したがって，すべての建築物，構築物の用途，新増改築などは，臨港地区分区内の規制をうけることになります。

現在大阪市では，港湾局管理部担当主幹（管理課運営係）において当規制を行なっておりますので，建築確認申請の提出の際には，同係の副申書を添付のうえ建築局に提出して下さい。

なお，その他，港湾に隣接した地域などに建築などの行為をする場合は，

① 大阪港港湾隣接地域内における行為の制限
② 大阪港海岸保全区域内における行為の制限
③ 堤防敷(河川敷)占用または水面占用の規制
④ 港湾局所管土地上の構築物設置の規制

などがあり，港湾局の許可を必要とする場合があります。

以上の規制もすべて，港湾局管理部管理課運営係が行なっておりますので，臨港地区も含めて詳細については，同係までお問合せいただきたい。

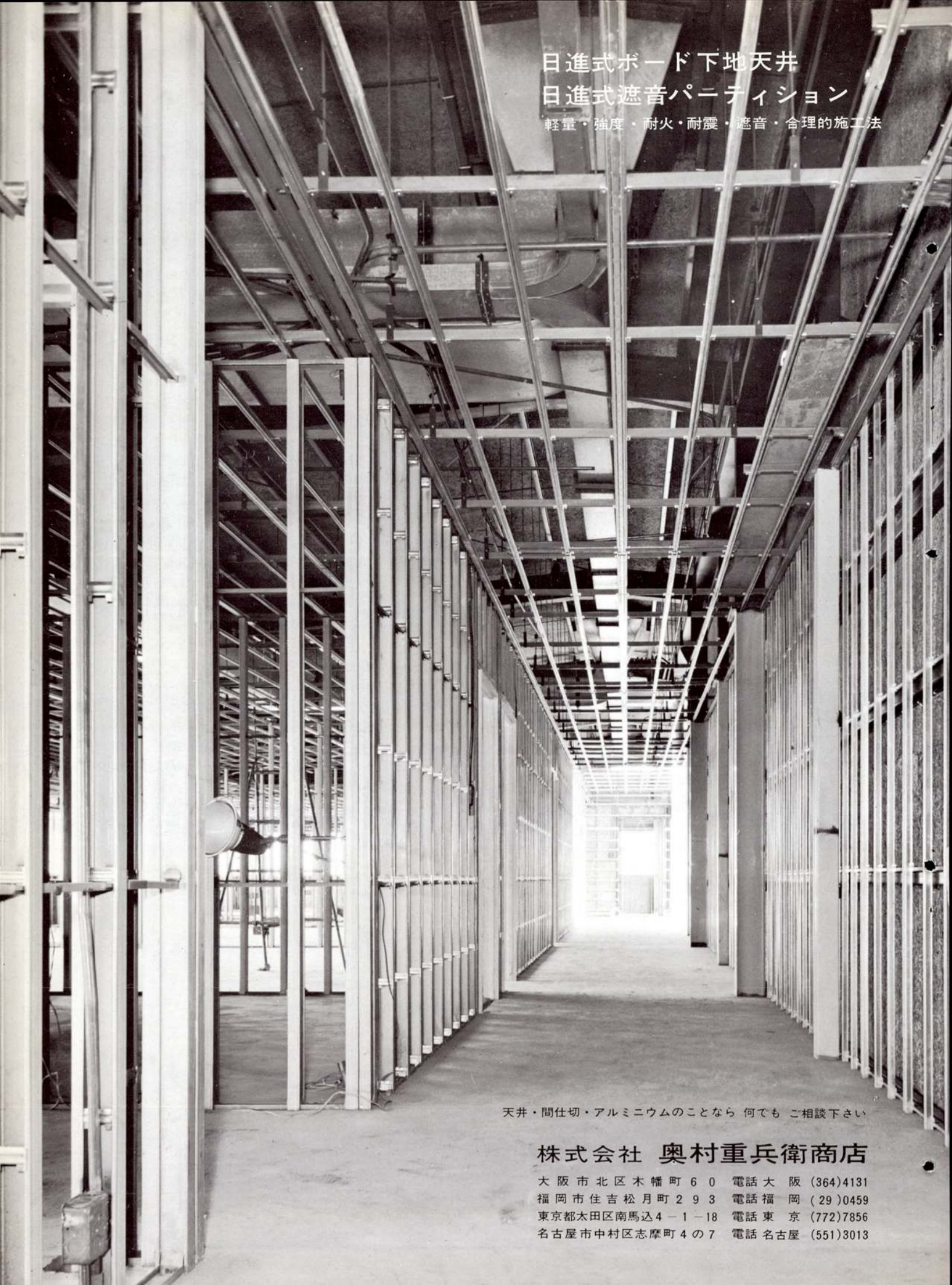
（大阪市建築局建築部審査課　平塚哲郎）

× × × ×

× × × ×

× × × ×

× × × ×



日進式ボード下地天井
日進式遮音パーティション

軽量・強度・耐火・耐震・遮音・合理的施工法

天井・間仕切・アルミニウムのことなら 何でも ご相談下さい

株式会社 奥村重兵衛商店

大阪市北区木幡町60　電話大　阪 (364)4131
福岡市住吉松月町293　電話福　岡 (29)0459
東京都太田区南馬込4－1－18　電話東　京 (772)7856
名古屋市中村区志摩町4の7　電話名古屋 (551)3013

読者の頁

投稿をおまちしております。掲載の分には規定の稿料を差上げます。

□ 血となり肉となる講座がほしい □

自己啓発がさかんにいわれております折，自分も生きる道〝建築屋〟になろうと道を踏みはずしたばかりです。建築と社会の雑誌にお世話になってからかれこれ7年になりますが，お蔭で実務の上でも大きな助けとなりました。雑誌「建築と社会」もいまでのB5判より大判がはばをきかすようになってしばらくになりますが，最近では何か，実務に役立つというような点が欠けているように思えてなりません……

以前と同じように「特集○○」はあるにはありますが具体性がない？と思うのです。私が最も望みますところは若い自分たちが読んで血となり肉となる講座を設置して頂いて，きめ細かな説明を加えて欲しいのです。私たちがぜひこの雑誌は残しておきたいという部数が一冊でも増すことを願うのです。（大阪市住吉区　光原　均）

編集より——ご指摘のように以前に比べて，内容が実務に役立つという点では不十分かも知れません。そういう実務的な希望が強い一方，また最近は，社会とか都市とかの関連で建築を考えていかねばならないという主張もあります。それで，昨年は「社会」を主要テーマにして建設資金などの特集も考えてきました。今年は「都市」を主要テーマにして，都市生活，いこいの場の特集をだし，幼児施設，教育施設，医療施設，都市供給処理施設などの特集も予定しております。技術の頁，法令コーナーなど若干のシリーズや，本号より付録として毎号「建築データシート」をつけるなど，技術上の実務的なものも考えておりますが，おっしゃるような講座も，紙数が許せば，考慮していきたいと思います。できれば具体的にどういう内容の講座（施工，材料，構造）をご希望か，お知らせねがえるとありがたいと存じます。

□ 建設会社の女性観 □

最近の日刊建設産業新聞の「轟音」欄に，建設会社に勤める女性の型がでていた。この「轟音」氏のみる各社の女性観は面白いので参考まで収録させてもらうとつぎのとおり。

社のカラーに染まる＝清水建設，竹中工務店，戸田建設，前田建設
明朗型＝大成建設，池田建設，銭高組
愛嬌型＝鹿島建設，藤田組
近代的＝熊谷組，大林組
真面目型＝飛島建設，五洋建設，西松建設
普　通＝間組，鴻池組，日産建設
健康的＝新菱建設，株木建設
開放的＝佐藤工業，三井建設

新刊紹介　「マイカー亡国論」　湯川利和著

三一書房・新書版
278ページ・290円

▶今年は明治100年，そして3C紀元元年だという。

ポンド切下げ，ドル防衛，日銀貸出規制…… と一連の不況政策が，わたくしたちをとりまいているはずなのに，消費景気は好調らしく，カラーテレビ，クーラーの売行きは上々だという。そして，カーについても新聞の広告にのらない日はなく，販売合戦はたけなわで，自動車生産台数はついに世界第2位にのしあがったといわれている。

社会資本が貧困で，まともに道路網を整備できる余力をもたないわが国において，現今のカーブームが無批判に迎合されてよいものかどうか。私ならずとも疑問がわこうというものである。

▶ここ2・3年，経済計画家とか未来学者とか名乗る人々がのしてきている。彼らは，先進国追随主義的にわが国の国民1人当りの実質所得の増加率をはじきだし，西欧での先行例にならって乗用車の普及率まで推定しているが，国情のちがい，国土条件のちがい，その他諸々の相違を無視して，そう簡単に自動車天国時代を予想してよいものだろうか。そしてまた，その道は，ほんとうに天国に通じる道なのか。それとも地獄に通じる道なのか。

「マイカー亡国論」は，こんな疑問にこたえてくれる貴重な新書である。

▶著者は「マイカーとは富める現代人を魅惑し，かれらを，現世の地獄へと招じ去る魔性のものである」と定義づけたうえで，アメリカにおけるマイカー増大の歴史を解析する。

1908年に誕生したフォードTは，アメリカの工業水準・国民所得・農村人口・鉄道未発達・馬車道路の相続にたすけられて，1,500万台も売捌かれた。

さらに高速鉄道を伴わないで大都市郊外が低密度開発され，道路がダンピング建設されて，アメリカの国土はマイカーなしでは存在し得ないものとなってしまった。

▶マイカーの全費用は，鉄道・バスの運賃に比べて，あきらかに割高であるけれども，マイカーの所有者たちは運転時の現金支出（ガソリン代・駐車料金・有料道路通行料金）だけを公共交通機関の運賃と比較して，利用すべき交通機関を決定する。

マイカーが社会にまき散らす不経済は，各個人にはほとんど気づかれない。結局アメリカには自動車がみちあふれ，アメリカの経済は，その全精力の2割をそのために費やしているのである。

▶1964年になって，ようやくアメリカにも「都市大量交通法」が制定される。激増する自動車交通に対処するためにである。

しかしながら，全人口の⅓がマイカー依存形態の郊外地域に散在してしまった現状からみて，鉄道再興はもはや困難視されている。ただし，サンフランシスコのBARTDシステムだけは例外である。湾と山岳にはさまれた高密度・線状のサンフランシスコの都市形態が，高速鉄道の再興を可能にした。

ひるがえって，東海道新幹線の成功は，わが国土の空間条件にそぐう交通システムを示唆するものだと著者は指摘する。無批判に西欧追随しないでも「マイカー文明を経ずして，マイカー文明をはるかに超えることができるのである」

▶かくて著者は，ロンドンのフックニュータウンなどを例にとりながら，マイカー非必需品化への道を探究し，最後にマイカー増大阻止こそ現在の日本に必要であると主張する。

本書は，アメリカ的マイカー主義がもたらす地獄への道を詳細に説明しているわりには，極楽への道が項目的提案にとどまっている点で，ものたりないが，勇気ある提案として敬服できる。

▶住宅公団大阪支所でユニークな7年間の業績を残し，現在，長崎造船大学建築学科の教職にある著者は，西山卯三氏の教示と示唆をもとに聡子夫人の助言を得て，半年間の苦斗ののち本書を完成させたという。自動車賛美論があふれる現今にあっては，その労が察せられる。

しかし，あらゆる階層に抵抗なく受入れられるには，本書の表現には，いまひとつ問題があり，「魑魅魍魎」「吝嗇」「恫喝」「顰蹙」など難解な単語も使うべきでないと思われる。

ともあれ，必読の快著である。　（岩本尚三）

□日本建築土木史年表・関西篇（その14）（明治11年8月7日～8月8日）□

明治
11年8月7日　西京伏見で人名救助事件2つ。下大手町紀州堀は泥が深く，3才9ケ月の子供が落ちて仮死状態に陥ったが，6才の少女と，荷問屋（運送業者）薩摩屋吉兵衛の雇人が助け，大手筋風呂屋町角大光寺の井戸には竹田口（地名）の女が飛込んだが，住職と寺の境内の借家に住む山崎小三郎が助けた。この4人が宮から貰った褒美は各1円50銭。

〃　〃　〃　警視本署大警視（東京警視総監）川路利良の布達130号によれば東京の行路病者の内，コレラとその類似症の患者は品川癖病院（東京湾のお台場上にあり，院長長谷川泰）に収容するとある。この以前および以後もコレラ以外の行路病者は，他府県に原籍があって東京に引取人のない者は区務所へ引渡し，原籍不明の者は東京監獄第二支署へ送付することになっていた。

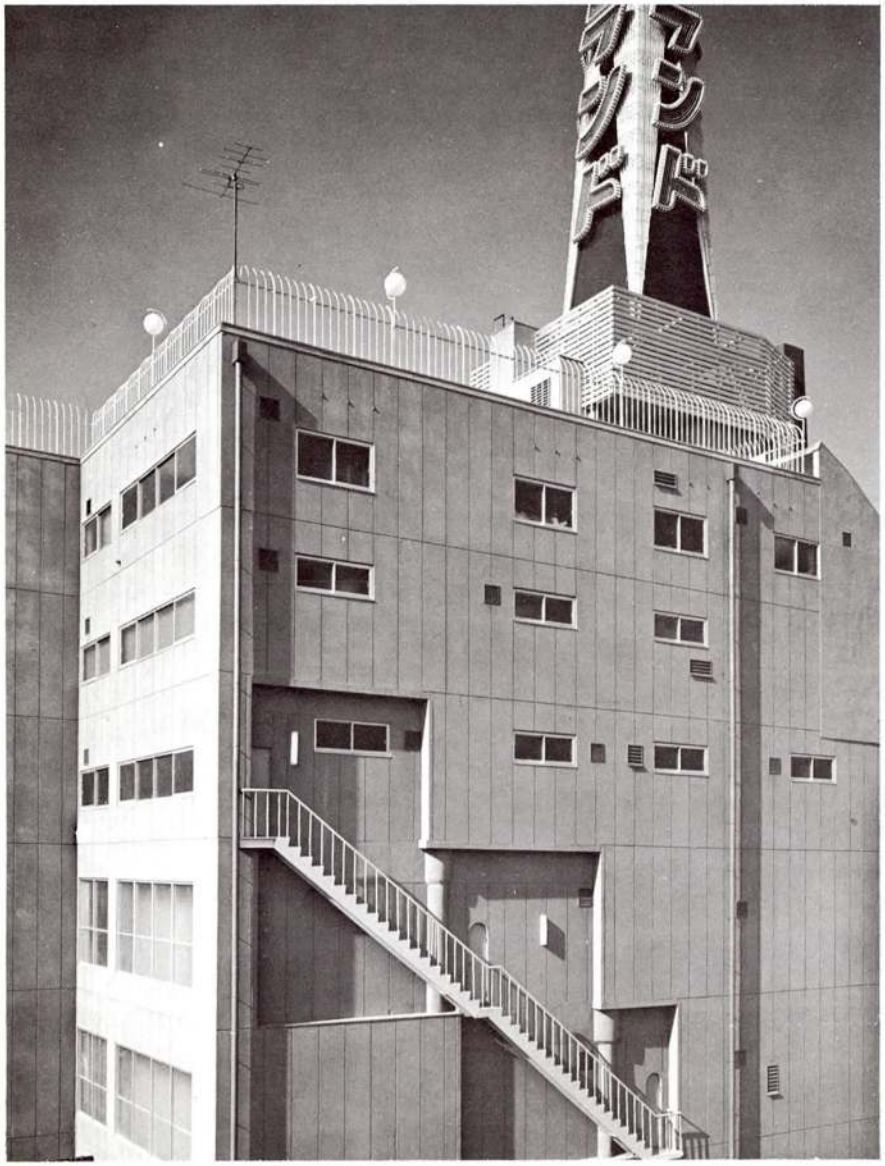
〃　〃　8日　明治10年9月5日夜の華族大原重実夫妻殺害犯人岐阜県下で捕まり，この頃東京に護送さる。

〃　〃　〃　この日より10日まで3日間，「有喜世新聞」に連載雑報記事「姉子清七咄し」が載る。大阪府下島の内千歳町袋物職人姉子清七が，お浅という妻ある身で，弟子の府下久左衛門町吉田亀次郎と，同町湯熨斗職（スチーム・クリーニング）山本卯八の娘お米を争って，お米とお浅が亀次郎に傷つけられ，亀次郎も自殺未遂という痴話ばなし。当時「有喜世新聞」はまだ連載小説を載せておらず，このような連載社会記事が後の連載小説の原型の一つになっている。（東京都北区神谷2ノ22ノ13　須藤　欣二）

すぐれた居住性を創造する

軽量気泡コンクリート

シポレックス



グランド観光ビル

設計　生美術建築デザイン研究所
施工　株式会社藤田組
場所　大阪市
使用個所　外壁

軽　　量（比重 0.5コンクリート¼の重量）

断　　熱（コンクリートの１０倍の断熱性）

耐　　火（法　定　耐　火　材　料）

◆シポレックスは工場、住宅から超高層ビルまであらゆる建物の屋根・床・壁・間仕切・耐火被覆に使用されますが次の建物には特に最適です

1　工期短縮を要するすべての建物
2　空調を要する工場・倉庫事務所住宅等
3　鉄骨大張間の工場・体育館等
4　軽量化を要する高層建築物・軟弱地盤の建物
5　鉄骨耐火構造の建物

SIPOREX

シポレックス販売株式会社

本　　社　東京都千代田区岩本町２ノ１ノ16（森川ビル）
　　電話　東　京（861）代　表　７　２　４　１
大阪支店　大阪市西区京町堀通１ノ125（東洋ビル）
　　電話　大　阪（443）代　表　７　７　４　１
名古屋支店　名古屋市中村区広小路西通３ノ２（大商ビル）
　　電話　名古屋（581）代　表　７　４　２　１

建築と社会

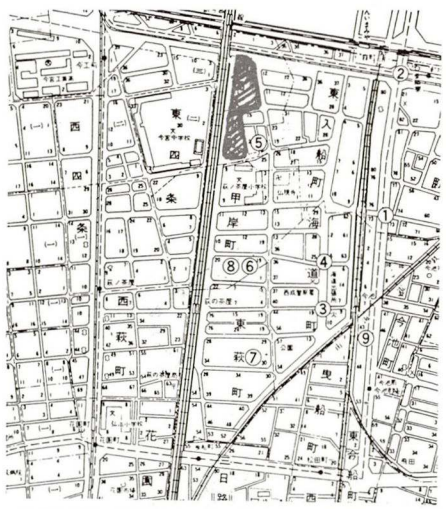
ニュース

ニュース原稿をお送りください。

■ 釜ケ崎に総合施設を建設

底辺労働者の街釜ケ崎は，民生，衛生，教育，労働，住宅などあらゆる角度からの対策が強く要請されているが，この要望を担うものとして労働対策を中心とした再開発事業が進められている。この計画によると，新今宮駅南，南海本線沿いの6,350㎡の敷地に28,000㎡のビルを建設する。このビルは，地上13階の高層建築で，1，2，3階は労働福祉センターとして就労斡旋所，相談所，集会所，寄場，駐車場，食堂，売店などをつくって，地区一帯の労働問題対策にあてる。

4階フロアーを人工土地にして，その上の南側に10階建の改良住宅180戸を建設し，地区住民の住宅供給とする一方，北側には4階建，100ベットの病院を建設する。なお住宅と病院の中央の空間は，児童公園としての機能をはたす。昭和44年に完成の見込み。



①愛隣会館　②愛隣寮　③西成消防署　④西成警察署
⑤西成労働福祉センター　⑥西成市民館あいりん保育園
⑦西成職業安定所　⑧済生会今宮診療所　⑨今池生活館
■ハッチ部分建設地

■ 大阪建築設計監理事業協同組合設立

社団法人大阪建築設計協会を母体として，時代の趨勢と技術改革に波長を合せ，さらには建築業界をとりまく長期展望のなかで，特に価値ある建築生産のパートを受持とうということで，昭和42年12月25日，大阪建築設計協会に属する17社の建築設計事務所が力を合して，標記協同組合を結成した。

さる43年1月30日に国際ホテルにて，その設立披露パーティが開催され，専務理事土居一雄氏の司会で，代表理事小川実氏のあいさつがあり，大阪市長（代理），田中一氏，小河吉之助氏，岩崎甚太郎氏の来賓，や各界代表からお祝のことばがのべられた。

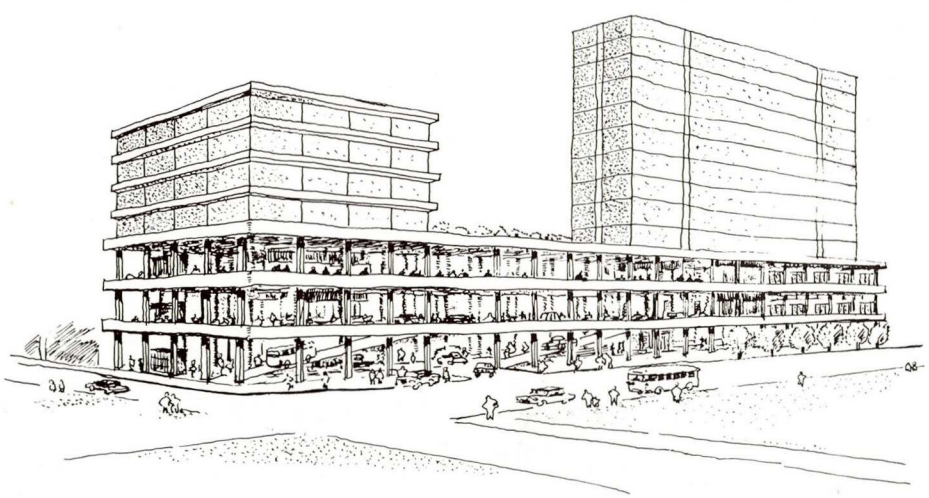
この略称：建築設計協同は，事業として，基本設計，実施設計などの一貫受託を行なうが，その場合，メンバー各建築事務所のバラエティある新作の中から適宜希望の案を選定していこうといっている。将来はコンピュータの協同購入も考えるという。

事務所：大阪市西区千代崎町2-24-2
電話　06-541-2570・8425

■ 1968年度建築年鑑賞 ——大分図書館にきまる

1968年度＜建築年鑑賞＞（第7回）はつぎのように決定された。

大分県立大分図書館
企画　大分県
設計・監理　磯崎新アトリエ
構造　東京大学大沢研究室
設備　早稲田大学尾島俊雄
施工　後藤組
1968年1月22日
建築ジャーナリズム研究所
代表　宮内嘉久
建築年鑑賞選定委員
藤井正一郎　浜口隆一
伊藤ていじ　川添登
神代雄一郎　村松貞次郎
平良敬一　山本学治



受賞作品ならびに選定経過・選評は来る3月末刊行予定の「建築年鑑'68」（建築ジャーナリズム研究所編集・発行）に収録される予定。

■ Gコラムを使用した万国博パビリオン設計コンクール入選作品

久保田鉄工㈱では標記コンクールを行なっていたが，このほど広募作品124点のなかからつぎのように入選作品が決った。（審査委員長：高橋慶夫）

最優秀賞　大林組設計部（竹村吉高，伊丹孝，森英治，打出英樹，藤谷芳男）
作品名：パビリオン日本の伝統
優秀賞プラス特別奨励賞　戸田建設設計部（北村定ほか）
作品名：EXPO会場を覆う林立する発展的空間
優秀賞プラス奨励賞　竹中工務店（代表者：野田七郎）
作品名：パビリオン
優秀賞　アトリエ4A：天野彰ほか
作品名：Gコラムを使用した近代農業館
優秀賞　竹中工務店（代表者：岩本博行）
作品名：いものの世界

なお，表彰式は2月29日ホテル阪神で行なう。同ホテルで2月29日，3月1日の2日間にわたって展示予定。

■ 大阪府住宅地造成事業に関する法律細則一部改正

大阪府では，災害の防止，良好な住宅地の造成を促進し，健全な市街地の形成を図るため，規制規模の適正な引下げを検討してきたが，1月16日より下記のように実施されることになった。

1　規制区域及び規制規模

	区域	規模
(一)	堺都市計画区域のうちの一部 寝屋川都市計画区域のうちの一部	0.1～1.0 ヘクタール未満
(二)	岸和田都市計画区域，堺都市計画区域のうち(一)以外の区域，高槻都市計画区域，箕面都市計画区域，池田都市計画区域，守口都市計画区域，東大阪都市計画区域，柏原都市計画区域，高石都市計画区域，泉大津都市計画区域，河内長野都市計画区域，茨木都市計画区域，枚方都市計画区域，八尾都市計画区域，富田林都市計画区域，泉南都市計画区域，岬都市計画区域，吹田都市計画区域，貝塚都市計画区域，泉佐野都市計画区域，寝屋川都市計画区域のうち(一)以外の区域，和泉都市計画区域，松原都市計画区域，大東都市計画区域，門真都市計画区域，羽曳野都市計画区域，藤井寺都市計画区域，美原都市計画区域，島本都市計画区域，摂津都市計画区域，四条畷都市計画区域，狭山都市計画区域，熊取都市計画区域	0.5～1.0 ヘクタール未満

2　工事の届出を必要とする造成工

(1)　昭和43年1月16日以前に道路位置指定申請を提出しているもので未指定のもの
(2)　昭和43年1月16日以前に農地転用許可申請書を提出しているもので道路位置指定申請を提出していないもの
(3)　①，②以外のもので，昭和43年1月16日以前にすでに造成工事に着手していたものと認められるもの

明日に挑む
建設技術



大林組

東大阪トラックターミナル
設計／日建設計工務株式会社
施工／大林組



クラスメート

34 〔大阪市立都島工業・昭和４年卒〕

座っている人(左より・敬称略)

長田　義広
（ＫＫ竹中工務店指導役）

脇田　繁雄
（宇部スレート工業ＫＫ大阪支店長）

笠谷　定夫
（ＫＫ笠谷工務店社長）

山内善之進
（ＫＫ日本デザイン社長・国際モード振興協会専務理事）

田中　治雄
（ＫＫ竹中工務店常務取締役海外開発本部長）

杉本　喜保
（南海建設ＫＫ）

小川　光一
（小川建築士事務所自営）

弘永　輝雄
（ＫＫ大林組本町工事事務所所長）

ロイヤルホテルにて

立っている人(左より・敬称略)

宮田太一郎
（ＫＫ山下寿郎設計事務所大阪事務所顧問）

盛　　道雄
（ＫＫ盛工務店社長）

長棟　正夫
（長棟建設ＫＫ専務取締役）

能口弥一郎
（ＫＫ大弥商店社長）

吉田　茂司
（島藤建設ＫＫ大阪出張所長）

福永　　薫
（ＫＫ福永建築設計事務所代表取締役）

梶原　重男
（高田機工ＫＫ取締役本社工場長）

保科　吉博
（東洋シャッターＫＫ　取締役総務部長）

佐藤　公男
（ＫＫ浅沼組広島支店取締役支店長）

市橋　晴男
（ＫＫ藤木工務店理事・積算課長）

吉田　　孝
（北野食品ＫＫ総務課長）

大阪市立都島工業学校建築科（修業年限６ヵ年）昭和４年卒。同窓会を飛鳥（アスカ）会と名づけている。今年は卒業40周年になるので、２月９日、ロイヤルホテルに集った。卒業時はＡ、Ｂ両クラスあわせて60名であったが、戦死、病死、行方不明等で、現在28名、そのうち19名が出席した。

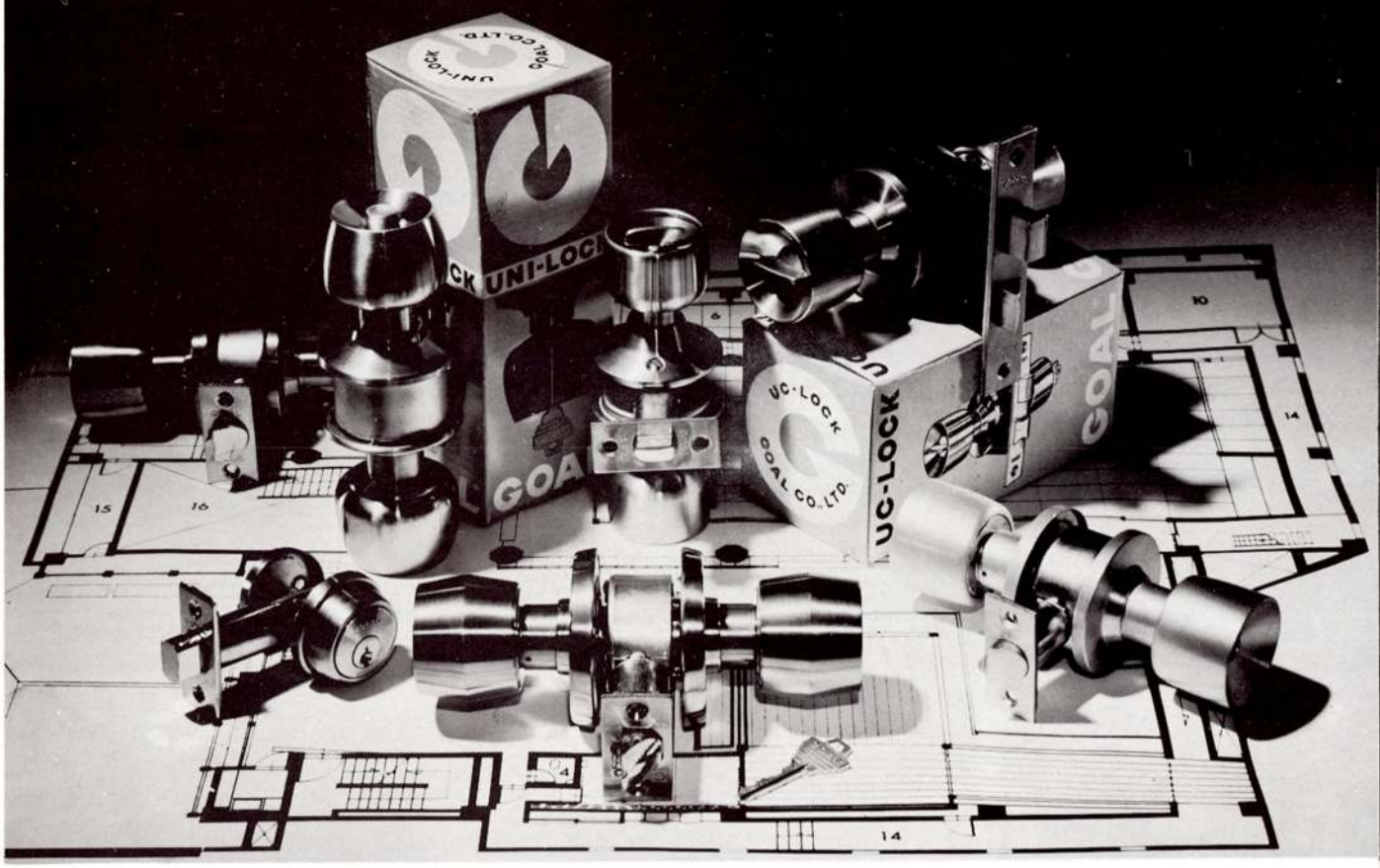
設計監理に進んだのは、**宮田**君・**小川**君と**福永**の３名で、施工関係では、**盛**君、**笠谷**君が社長、**長棟**君は専務になった。大手業社に就職して一番出世頭が、竹中工務店の**田中**君、浅沼組の**佐藤**君、つづいて**長田**、**弘永**、**市橋**、**吉田**(茂司)、**杉本**の諸君、建材および専業関係では、スチールシャッターの**保科**君、スレート屋さんの**脇田**君が活躍している。それに**梶原**君は主として高速道路の橋梁を施工してきたが、最近は高層建築の鉄骨と取組んでいる。

変り種は**山内**君で、テキスタルデザイナーとして世界的な名声がある。そして最近インテリヤデザインの分野も開拓しつつある。もう１人、**吉田**孝君は、阪急百貨店の傍系の飲食店の番頭さん。最後に**能口**君は卒業後住宅建築に取組んでいたが、戦後洋家具屋を経営、最近は室内装飾も初めている。（福永記）

GOAL®

"信頼"のシンボル

豊富な品種も自慢のひとつです



精密さ・堅牢さ・美しさ
三拍子揃ったユニロックは
信頼のできる錠(ロック)です

有名ビル・ホテルで採用されているのは
完全な品質管理と半世紀にわたる
鍵づくりの技術を高く
評価されているからです

建設省・日本住宅公団・日本電信電話公社
各府県市庁・有名建築設計事務所ご指定

ゴール ドアー ロック



ユニロック　最高級の錠 UHシリーズ

株式会社ゴール

本社・工場／大阪市東淀川区三津屋北通り四―三〇☎(三〇二)一七七一
佐賀工場／佐賀県神埼郡三田川町☎(神埼)三一七七
米子工場／米子市夜見町米子鉄工センター内☎(二二)九四七六
東京支店／東京都港区海岸3―17―2☎(四五二)六三四一
営業所／札幌・仙台・静岡・金沢・名古屋・広島・高松・福岡

建築の目

上田光雄
大阪市立大学教授・工博
富家宏泰
富家建設事務所長
山口吾郎
不二建設株式会社　取締役社長
西村庄市
工藤電気株式会社　取締役社長

正月号より6月号まで上記の4人の執筆者で担当してもらいます。

La vie est ainsi

先日、万年筆の売場に立ち寄って、手頃なのを一本取り上げて試し書きをしかけた時、出してある紙にフト目を止めたら手が止った。誰か先の人の手になる綺麗な四語の横文字が三回ほど繰り返して書かれ、次の行でLa vieがLe stiloに置き換えられている。「人生とはそういったものだ」と読める。いい言葉だなァと感じた。大抵の場合によく当てはまる。何億円か転り込んだ時にも、最愛の恋人を失った時にも。次の行で「人生」が「万年筆」に置き換えられているところを見ると、この人はホドホドで買ったのかな。帰りに考えた。La vieをLe bâtiment（Building）に、あるいは、L'architecture に置き変えたらどうだろう。これもなかなか便利な言葉だ。これなら、在りし日の帝国ホテルの旧館を見上げていってもよかったし、今も残る新館の前でもいえるから妙である。もっとも、その言葉の抑揚と、意味する内容は大分異なるとは思うが…。（U）

手摺のない階段

小さいロビーの白いキャストストーンのカーブした壁面から、まるで彫刻のようにけずり出された心憎い階段。白い壁、ハーフトーンの陰、黒い皮の椅子、素晴しい写真である。しかしこの階段には不思議なことに手摺がない。それがかえってわれわれを夢の世界にさそうのである。「新建築」2月号の表紙、白井晟一氏設計、親和銀行本店の写真。手摺のない階段が設計されて悪いはずはない。のっぺらぼうの壁面に彫刻のようにアクセントとして最大の効果を発揮するのであれば、それは建築家の魔法の一つである。手摺のない階段が法的に許されるのは、上階が特に倉庫等日常の用に供しない部分に通じる場合のみである。この写真の場合、正に上階は倉庫ギャラリー等で法的に適正な設計なのである。私はこの表紙写真をみて二つのことを考える。一つはこの白いキャストストーンの壁からけづり出したような階段に手摺を省略した設計者の並々ならぬ芸術性の高さと法的解釈の見事さ。

今一つは建築写真の、写真としての美しさである。

しかしこの写真に、二つの見事さとは別に、建築ジャーナリズムの向っている方向の危険さを感じるのである。建築の美、写真の美は素直に受け取っても、日本を代表する建築専門雑誌の表紙に手摺のない階段が登場するのは文字通り足元が危険である。（T）

人相哲学

人の人相というと大変いろいろ面白い話があり、私自身手相見に、同日同時刻位に3ヵ所同じ題目で見てもらったことがあった。割合に三者共同じことをいってくれたので、ある原則があり、それに従って視ていることが判った。当るも八卦、当らぬも八卦とはいいながら、その統計的な資料による総合判断は、あたかも電子計算機による算出法によく似ている部分の多いのには、ある程度信頼性があり、尚欠点もある。人相学というと、手相だけではなく、全身その対象になり、特に面相はその主たるもので、眉の太さ大きさ型等による判断などは、誠によく当るような気がする。ある銀行の支店長は相当なその道の達人で、貸出先の選定等、人相学的に合格せねば、その社長に貸さないそうである。これも一つの方法で、人相の悪い人は甚だ損をすることだろうが、誠にそれがよく当るそうで、われわれも毎日鏡を見て姿勢を正しく保たねばならないことになる。表に出ない姿勢もまた正さねばならない。（Y）

50周年を機に、日本建築協会へのお願い

人間の歴史は戦いの繰返しである。しかも常に平和を希望せぬ者はない。各自が自分の立場と利益のみを主張するところ、いかに口先で、理由をつけても、木に魚を求める結果に終る。われわれ建設業にはその分野が明確でない。設計監理者、総合請負業者、そして各専門施工業者がある。理想はおのおのその特技を生かし、他人の枠を侵さず、過ぎた競争をせぬところに楽しい業界があり、立派な建設が生まれるように思うが、〝競争がないと進歩もない〟と否定される。これ等三者は力を併せ相扶けあう立場にあるが、裏では醜い仕事の奪い合いが常である。ご承知のように、アメリカでは総合請負が建設本来の姿で、極めて円満に実施されている。日本でなぜそこがうまく行かないのか。その間努むべき義務の遂行が十分行なわれず、しかも無理な中間搾取が多い。多士済々の日本建築協会の大きな政治力を待望し、ここに平和を見出す方途の指針を是非この機に実現されるようお願いする。（N）



ABS樹脂塗料(仏国特許・日本など7国特許申請中)

ミリオンNo.1000

関西ペイント株式會社

建築と社会

Vol.49 No. 3 1968 目次



創立50周年記念事業記録号

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会 & 山田崇雄

会　　告　大阪商工会議所ビル・大阪厚生年金会館ビル見学会，新らしい型わく工法説明会，鉄骨のデザイン発刊，建築データシート発刊…… 13
法令コーナー …… 17
読者の頁　血となり肉となる講座を・明治建築土木史年表関西篇（その13）…… 19
新刊紹介　「マイカー亡国論」湯川利和著……岩本　尚三…… 19
建築と社会ニュース…… 21
クラスメート　34. 大阪市立都島工業学校　昭和4年卒
（福永薫・田中治雄・盛道雄・佐藤公男ほか）…… 23
建築の眼　担当：上田光雄・富家宏泰・山口吾郎・西村庄市…… 25
創立50周年記念事業記録号
①日本建築協会の発展とあり方について
座談会＝出席者：塚本猛次・松村雄吉・西村庄市・伴　秀雄・横田喜一郎・芳山芳蔵・佐野正一・岩崎甚太郎…… 30
日本建築協会の今後について思うこと……若い会員有志…… 36
②創立50周年記念事業記録
記念事業一般報告……塚本　猛次…… 39
財務委員会報告……鴻池　藤一…… 39
総務委員会報告……増井　敏克…… 40
記念式典・表彰式・祝賀会・物故者慰霊祭・関西の建築50年回顧展・モントリオール万国博視察・記念講演会・特別見学会・懇親ボーリング大会・懇親ゴルフ大会
記念事業記録写真集（アルバム）…… 45
大阪城公園内に建つ休憩所のデザインコンクール……岡橋作太郎…… 67
「創立50周年記念号」について――報告に併せて・補遺と訂正
……滝沢　真弓…… 68
記念出版…… 69
創立50周年記念事業と担当委員一覧表…… 70
技術の頁　66. 施工部門：立体トラスのリフトアップ工法……樋口　元一…… 71
建設業界史話12　いつまで草と石灰の話（その2）……宮村　次郎…… 74
月報　日本建築協会月間の動き（昭和43年1月分）…… 76

編集人　松井昭光
印刷　昭和43年3月20日
発行　昭和43年3月25日
発行人　福中定三郎
発行所　(社)日本建築協会
大阪市東区北浜3―37
電 大阪231―9648
振替口座 大阪39975
印刷者　網野栄
印刷所　(株)研文社
大阪市北区堂山町66
電 大阪361―2091
売価　1部 300円・送料共

KENTIKU TO SHAKAI No. 3 Vol. 49, March 1968

(Architecture and Society)

A Journal of "The Architectural Association of Japan"

Cover design: T. Yamada

Editor: *Akimitsu Matsui*
Publisher: *Teisaburo Fukunaka*
Published by
The Architectural Association of Japan.
37, 3-chome, Kitahama, Higashi-ku, Osaka, Japan.
Price: *single copy price* ¥300

CONTENTS

Column for Laws & Ordinances about Architecture 17
Column for Readers 19
Book Review 19
News for Architecture and Society 21
Class-mates 23
Essayes ("Kentiku no Me") ..... 25 by *Mituo Ueda, Hiroyasu Tomiie, Goro Yamaguchi & Syoichi Nishimura*

A CHRONICLE OF THE 50TH ANNIVERSARY OF THE FOUNDATION

1 Symposium——Concerning the Expansion and the Way of the Architectural Association of Japan 30
My Opinion to the Future of The Architectural Association of Japan 36
2 Records on Memorial Events of the 50th Anniversary
Memorial Event——General Report 39
Financial Committee Report 39
Administrative Committee Report 40
Memorial Ceremony, Commendation Ceremony, Celebration, Memorial Service for the Dead, 50 Year Retrospection Show of Kansai Area Arctitecture, Montreal Exposition Inspection, Memorial Lecture Meeting, Special Inspection Trip, Sociable Bowling Game, Sociable Golf Game
Record Album of Memorial Events 45
Rest House Design Contest within Osaka Castle Park 67
Concerning Commemoration Issue 50th Anniversary of the Foundation 68
Memorial Publication 69
List of Name of Committee 70

COLUMN OF ENGINEERING

66. Lift-up Construction Method of Space Truss ..... 71 by *Genichi Higuchi*

HISTORICAL STORY OF THE CONSTRUCTION FIELD

12. A Story of "ITSUMADE-GUSA" and Lime (2) ..... 74 by *Jiro Miyamura*

BULLETIN 13, 76

創立50周年記念事業記録号

1 座談会＝日本建築協会の発展とあり方

塚本猛次・松村雄吉・西村庄市・伴秀雄・横田喜一郎
芳山保蔵・中川文雄・佐野正一・岩崎甚太郎

日本建築協会の今後について思うこと／若い会員有志

2 50周年記念事業報告

記念事業一般報告

財務委員会報告

総務委員会報告／記念式典・祝賀会・表彰式・慰霊祭・関西の建築50年回顧展・モントリオール万博視察・記念講演会・見学会・運動会

アルバム＝50周年記念事業記録写真集

大阪城公園内に建つ休憩所のデザインコンクール

「創立50周年記念号」について

記念出版

巻頭のことば・・・・・・

本会創立50周年記念事業を終えて今後に思う

日本建築協会会長　東畑　謙三

大正6年3月30日，初代会長片岡安氏の提唱で，本会が創立されて以来，50年の長きにわたって，建築を通じて社会に貢献する精神のもとに，いろいろな活動をつづけてきたことは周知のところである。

幸いにして，役員，委員，会員の大きな努力のもとにその50周年を記念して数々の記念事業を開催することができた。一方では，先達たちのたどってきた業蹟をしのび，功績のあった会員を表彰したり，あるいは，物故会員の霊をなぐさめると同時に，他方では回顧展，講演会，見学会，デザインコンクール，50周年記念号，記念出版などの事業を進めてきた。これらの記念事業を通じて，建築界あるいは対社会的にいささかの貢献をつくしてきた。

その内容については，本号で詳述されるが，それらの記念事業を，この会誌に記録として会員に報告すると同時に，後世のための記録資料として，世に送ることができるのは喜ばしいことである。

わが日本建築協会は，建築の各界総合団体として，今後に課せられた使命は大きなものがある。50周年記念事業を終えたこんにち，新しき半世紀の第一年を迎えるつもりで，会員一同，さらに心を新たにして一層のけんさんをはげみ，斯界の要望に応えたいものである。



日本建築協会の発展とあり方について ＝座談会＝

佐野　建築に関するあらゆる部門のかたが集まっておられるという組織があることと，その人たちによってつみかさねられた長い歴史が，他の団体とはいささかちがった本会のもつ特色であり，かつ強味と思っております。50周年を迎えまして，つぎの段階に移るに当って，本会がこれからどういう発展をするものか考えなければならない問題があります。たとえば各部門ごとにそれぞれバックになる業務についての団体があります。本会はその業務には直接にふれないけれども，やはり業務を介して成立していると考えられるのですが，背後の業務団体は相互間に考え方の上で微妙な食いちがいもありましょう。したがってこれをバックとする五つの部門から成立つ本会としてはなにかと問題点もあろうと思われます。そこでまずはじめに技術部門の担当者であり，また本会副会長でもある塚本さんからお話をねがいたいのですが，本会のおかれている立場から見て，本会の性格はいままでどういうことになっているのか，また今後はどういうようにもっていったらいいのか，について総括的にお話をしていただきたいと思います。

構　　想

塚本　建築協会はある意味ではクラブ的な色彩をもつ反面，そのうちからなにかひとつのまとまりというか，目的を生み出していったらどうかという考えかたがあると想像をするわけでございます。まあずっと古くは技術なり，総合のかたが主としてやってこられました。戦後になってからは電気とか，管工とか，建材とかという方面のかたがやってこられた。そういうふうになって，実は数年前にわたくしは，たいへんでしゃばったことではありますけれども，建築協会のありかたはどういうものであったらいいかということを，1年か，1年半にわたって関係のかたに集まっていただいて検討したことがあるんです。その記録は，表には出なくて埋もっておりますけれども，そのときに一応なにかのビジョンを打ち出そうと思ってねらってたことは，技術のかたとか，総合あるいは電気，管工，建材や地方支部のかたには，各々協会に準ずるような会があるわけでございます。そういうものを総合した会のようなものを建築協会にさせていただいて，そうして建築協会はその上に立つ，というとはなはだくちはばったいんですけれども，その集まりのお世話役をするというような形にしたらどうかと。いまのような個人個人や賛助会員のようなものの組み合せでなしに，そういった，たとえば，技術は建築家協会，建築士会，総合ですと建築業協会，建設業協会とか，いろいろとあるんですけれども，そういうものの寄り集まりのお世話をしたらばどうか。そういう特定団体の集まりのさらに集まりを協会のほうにもっていったらどうかというようなことをねらいにおいたんですけれども，ついにそういうところまではゆかずに，そのままで終りました。

しかし，なにかそういったものが将来にないと，建築家というものも，おたがいに，寄ってはおりますけれども，われわれとしては，たとえば電気のかたと話す場もなければ，また管工のかたと話す場もない。また総合のみなさんと話す場も，もちろんないという始末なんです。たとえば万博なら万博の工事に対する総合のかたがたの対策とか，方針はどうだろうかというようなことについても，これはときどき講演会とか，そういったものでしか知るだけですから，もっとおたがい寄り集まるようなクラブのようなものができれば，たいへんいいんじゃないかということを考えているわけです。

そういうことで協会のこんごの発展ということについても，なにかすこし大きな気持ち，というとちとおかしいんですけれども，飛躍すべき時代が当然くるんじゃないかと思います。が差しあたりそんなことをいってもすぐとできるもんじゃないので，各会員や法人の会員が相当結びついて委員会という形で動いておりますので，その委員会の結びつきというものをうまくやってゆけば，相当の成果があがるんじゃないか。同時に電気の業界でもすくなくとも相当のクラブの施設をもっておりますが，建築においては情けないことには，そういった共通のビルといったものはないので，できればそういう形だけのものでもつくってほしい。さいわいにして建築6団体の協力で日本建築総合試験所が完成したので，これを例に関西においては立派な共同の建物をつくったらどうでしょうか。

佐野　塚本さんから本会が会館中心に事業をしたらというご提案があり，さきごろ発足した総合試験所を例にお話がありましたが，これは電気，管工，技術，建材，の全部門に総合関連した仕事でこれからお話をすすめる上にいいきっかけをつくって下さいました。そこでこれにはいろいろと問題があろうかと思いますので，まず総合部門の松村さんからお意見をうかがいます。

松村　ただいまの塚本さんのお話ですが，終戦直後に本会の再建で，私たちの仲間4，5人が集まったものきく会でいまの塚本さんと全く同じことを語り合いました。団体のうえになるものがここの会であるというようにもっていけないものかと，本会のための建設的な改革を話合った

と　き	昭和42年12月6日
ところ	日本建築協会集会室
出席者	（順不同・敬称略）
技術部門	塚本猛次
建設部門	松村雄吉
電気部門	西村庄市
管工部門	伴　秀雄
建材部門	横田喜一郎
京都部門	芳山保蔵
兵庫支部	中川文雄
司会	佐野正一
事務局	岩崎甚太郎



積りでしたが，そのとき限りわたしはいっぺんにへこんでしまいました。ほんとうは，20年前にそれはわたしたちが主張したところなのです。5団体でも6団体でもいいから，その上に立つものとして強力なものになってほしいのです。実はわたしども万国博にしても，労務の話にしても，いちばんに飛ぶこむのは商工会議所なのです。しかし建築の団体として団体の力でここから発言して頂ければ，もっとスムーズであり，かつ効果的だと思います。

塚本さんのお話を土台にして，本会の50周年を機会として，そういう方向へもっていってほしいです。朝飯会で夕飯会でもなんでもいいから部会長が会合する習慣を作って頂ければ，単独で部会長が相手の会長に，こう，こうですと話合うよりも，会合の席上でわれわれ総合施工業者が注意を受けたり，また設計家さんにもうすこし規格品を使った設計して頂けませんかと申上げやすいのですがね。どうも1対1でゆくと，"なにをぬかすんじゃい"と角が立ちますから，そういう総合的にものを判断して頂けるところをぜひこしらえてほしいのです。そのほかにはなにもいうことはありません。本会の存在の基本はそこです。（笑い）

佐野　電気部門の西村さんから，どうぞおねがいします。

西村　塚本先生のお話と似ていますが，昭和43年度には建設業法の改正がございます。それについて建設省からわたくしたちの全国的な団体の日本電設工業会へご下問がありました。そのなかで条項を見ると，やはり建築がアタマにあって，そうして空調衛生，電気とあって，そのつぎが大工，左官というランクなんです。空調とか電気とかは大工，左官それくらいのご認識しか建設省にはないわけです。それは単に建設省のみならず，やはり先生がたのなかでもそうじゃないかと思います。最近は大ぶんみなさん，ご認識をいただいたようなおことばはきくんですけれども，やはりその附帯工事という考えかたがすべてを支配しているように思います。それでこんどわれわれは建設省の問いに対して，答えは建築と同格に見てもらいたい。こんご建築のりっぱなものをつくるファクターとして設備は建築と同等であると解釈しますので，そういうふうにおねがいをしたいということが，こんどの建設業法改正のわれわれの主張の第一ポイントであります。

それから大阪の場合でも府にも市にも陳情したんですが，ご承知のように大阪市にいたしましても，建築局があり，その下に建築部，さらにその下にわれわれの設備の課があって，この場合に建築と設備は格段の差があり，強い発言権はないんです。極端な話が大学を出た古い人でも課長以上には電気屋，機械屋は出世をしないというのが実情です。これが総ての場合，設備が冷遇される原因であります。われわれ陳情書にして出しましたが，建築局という名を建設局に変更して，その下部に建築部，空調部，電気部として対等のものにねがいたいとお願いしています。

いまの松村さんのお話しよりしますと，しかられるかもわかりませんが私たちはその意味で当会も建築協会じゃなくって建設協会にしてもらえばと希望します。そしたら，設備工事，建材部門にしても会に対する協力の考え方がかわります。そして力が入ります。そして当会は一段高いところでご判断を願い，建設全体の指導的立場で，横の連絡機関あるいはＰＲ機関として活動を願うことがその存在意義をなお高めるものと思います。

佐野　塚本さん，松村さんのご意見は建築の各団体を横につなぎ合せることが必要で，本会がその世話役のような立場をとれというようなことで，西村さんの意見はそのこととは別にむしろ部門の立場をクローズアップしようというふうにうかがいましたが，いづれにせよ各部門が卒直な話し合いの場をもつということはたいへん必要なことなんです。似たような立場にある管工部門の伴さんからもご意見をうかがいたいと思います。

伴　みなさんのご意見は同感なんです。松村さんのお話の通り，あの当時そういうお話があったということを承っておりましたけれども，なんでそれがまとまらなかったのかなというふうに考えておりました。しかし建築協会にその後，われわれの設備すなわち電気，管工，それに建材などの部門ができまして，これが皆正会員になったんです。それは戦後のことですかな。戦前は総合のかたと技術のかたの集まりの場としか考えられなかった。われわれ会員になっても正会員にはなれず賛助会員という名目で参加するしか方法がなかったんです。それがたまたま戦後われわれの部門が包含されるようになったんです。われわれとしては非常に進んだといってありがたいと思ったのであります。

それから建築というものをですね。総合して考えた場合にわたくしは常に申しあげているんですが，建築は静的部分と，それから，動性の活動力ある部分との二つの集まりだと申しておりますんで，われわれ設備屋はその動的の部分のご用を承ってまとめておるというんです。その静的の部分，動的の部分，これが片方だけではおそらく建築としての用をなさないのじゃないかと思います。そうすれば建築というものを考える場合にはかならず，この静，動を一括して考えなければならない。こう考えておりますから，いまの塚本さんのお話のようにそれを一丸とすることができるんじゃないかと思いますし，それで進まなければ建築としてはなんにも用はなさないでしょう。ですから西村さんのお話のように，その上建設というふうなご意向も結構です。けれども，なにも名前を"建設"としなくても建築でも自由じゃないかと思うんですね。（笑い）だからそういう気持ちをですね。いまの静的のものと動的のものと一丸とするということに進むのが，当然建築関係にたずさわるものとして，いちばん大事なことだと思いますから，塚本さんのご意向のこと大賛成でございます。ぜひひとつ……。

佐野　本会にはもうひとつ大事な分野である建材部門がございます。この分野は本会の創設以来，重要な構成部門としての役割をもち，本会を母体として建材協会に発展しております。本会の関係部門のなかでいわばキャスチングボートをにぎっているといってよい，非常に大事な部門なんです。この部門の横田さんからご意見をうかがいたいと思います。



西村庄市氏　　松村雄吉氏



塚本猛次氏　　伴　秀雄氏

横田　ただいまのお話のごとくに，もともと私どもの建材協会というものは，この建築協会を母体にして発足いたしまして，戦前は武田先生を初代会長に戴き，また顧問の竹腰先生からは建材協会の発展ということについて，ご熱心なご助言なりご援助を頂き，特に三代目の会長に当られる池田実先生は三位一体ということを非常に強調されたのでありますが，ある時代において一部の方々からは，建材なんて，建築界の寄生虫かハシクレみたいなような存在として皆さん方と対等にお話をするような機会もなかったんでございます。戦後再び建築協会を母体として建材協会が再発足し現在では500社を超える団体となり，今日建築協会5団体の一員として皆さん方とお話の場を持つことができるようになりましたのも，やはり皆さん方のご理解と和ということでしょうか。それから会長さんはじめ頭に立たれる方のご人格ご指導というものによって育ぐくまれてきたんじゃなかろうかと，私は考えております。

前置としてどうも私どもの方のことを例に申しあげまして恐縮でございますが，この建築協会の在りかたということにつきましても，私も当初は先刻塚本先生のおっしゃったように5団体の会員を主として構成されている点からやはりある程度のリーダーシップを持った団体として，一応は考えておりましたが，どちらかというと，まあ各5団体の親睦団体的な一口にいえば，"共通の広場"のようにも思えるのであります。いまの協会の在り方として"共通の広場"でも結構だとは思いますが，将来この協会を発展させるという意味においては，"お世話役"というと口はばったいかも知れませんが，やはり統一性を持った連絡調整機関へと推し進めて行くことも必要ではなかろうかとも思います。これはしかし各5団体のご協力とご理解がなければできないことで，そういう意味において，私はもっとこの"共通の広場"というものを深く広くする必要があるんじゃなかろうかと思います。

次に，ただいまはこの建築協会も約6,000からの会員を擁する大きな団体ですが，会員との繋がりという点で，どうもいまの形の雑誌とか，あるいは年に数回の講習会とかの会合だけというふうなものではちょっと，うすいんじゃないかと思います。この雑誌の表題の"建築と社会"というのは，当初立案なすった方々のご意思がどこにあったのかは存じませんが，私ども考えますと，もうすこし"社会性"というものも盛り込む必要があるんじゃなかろうかと，といってもいま市販されている建築雑誌のような"社会性"じゃなくって，もっと観点のちがう"社会性"というようなものがあるんじゃなかろうかと考えております。また若いかたを育てる記事の内容を今少しふやすとか，近ごろはことに住宅難ということについて一般の皆さん方も建築というものに対し相当関心をもっておられるようですが，こういう方々に対しても，ある程度，建築協会はこんな仕事をやっている，またこんなご相談にも応じますという，実質的な社会への間口を広げる必要性もあるんじゃなかろうかと考える次第であります。

佐野　横田さんが言われましたように，本会がつねに心がけねばならぬことは社会性をもつことだと思うのですが，会員からはこの点で現在の会には何か欠けているという批判があります。また会員と会の動きとの関係もいささか疎通していないことがあるように思われます。そういったもうすこし，こうあってほしいというようなことについては，京都支部の芳山さんからご批判をいただいたほうがよいと思います。



司会・佐野正一氏

支部として

芳山　京都の市役所でも，やはりいまのお話のように建築の横の連絡がわるいということから連絡会議を毎年開いていました。やはり設備との関係はもうひとつうまくはいかなかったもんです。現在は設備課が独立して，電気屋さんが課長をしております。工事ひとつやるにしても，計画の総括は誰れがやるか，現場監督はどちらでもつかと，そりゃ場合によっては機械屋が総括的に担当しても一向に差支えないじゃないかと，いろいろと苦心をしてやって参りました。発注者側だけでなく建築協会も横の連絡に力を入れてくれることはありがたいと思います。京都の支部は会員は100名をすこし越えるくらいで，しかも毎年すこしずつ減ってきております。会員名簿を見ても年配の人がほとんどで比較的若い人は係長級が4～5人はいっているだけです。これじゃいかんのじゃないかなと思われます。じゃその原因はどこにあるかというと，京都の場合は，京都で事業をやるというときは，建設業協会や建築士会とほとんど一緒ですから，いつの場合でも建築士会にはいっておれば万事用は足りるということです。こういう状況で今はただ雑誌だけということになります。雑誌もちかごろは力を入れていただいて非常によくなってきておるのでございますが，それのＰＲがたりないのか，またはわれわれの努



中川文雄氏　　芳山保蔵氏



横田喜一郎氏　　岩崎甚太郎氏

力がたりないのか，会員の状況はかようでございます。

佐野　中川さん，兵庫支部としてどうお考えでしょうか。

中川　兵庫県も大阪とは近いんですから，別に地方色とかなんとかという考えはぜんぜんございません。年に1回くらいは集まりますが，ほかに協会支部としての集まりというものはないんです。このまえから支部長さんとも相談をしていろいろと支部の発展ひいては協会の発展という問題について考える必要があるとはいうておりますが，何分まあ本部に近いもんですから本部のおやりになることにみならっているというふうでして，本部として独自のことはぜんぜんやってはおりません。これからは一層そういうことを考える必要があるといいながらも，なかなかそれはやれないんです。支部の会員の声をきくというようなこともある面ではおそらくできておらない点が多々ありまして，支部会員のそういう意向をどういうように反映するかということもちょっとむずかしい問題だと思います。まあ本部のほうの方針が，決まりましたらそれを伝えるというような程度です。現状からいいましてあまりにも近いもんですから特別なことはございません。

佐野　"共通の広場"をもつということについて，もっと積極的な対策とは，どうしたらいいか，会誌についても話がありましたが，いったいその仕組みをつくるのにはどうしたらいいか。塚本さんに話をもどします。

専任できる人物を

塚本　行政の面で社会に訴え官庁に訴えあるいは政府に訴えるというときは個人の力ではどうにもならんので，やはり松村さんの説の建築業界の，西村さんのいわれた建設業界とまではいかんでも，まあ建設業界の商工会議所的なものをつくらなければいかんと思います。われわれでも現在，消防なら消防のかたと話をするにもメシでもたべながらやらんと話ができない。その場をつくっていただくというのが協会だと思います。建材のほうでもそうですね。というても，材料業者ひとり自分でもって総合試験所ができたから許可をとったということぐらいではなかなか伝達はしない。そうなるとやはりそういう場がほしい。これは電気のかたでもみんな同じだと思います。

そういう意味でいま佐野さんのいわれるように，じゃどうしたらいいのかと（笑い）いうと，かならずしもできないんだけれども，なにかいまの協会というもののありかたを考えて委員会制度をもうすこし強くするとか，なにか強引なものにしないと，ただ単純に寄り集まってしゃべるということだけではどうにもこうにもならないんじゃないかという気もいたします。たとえば大阪では例の工業会があり，非常にりっぱな会になっています。みな一致すればああいう力強い会ができるわけです。やはり建築界でも建築，建設といろいろの業界のかたもそういう場で連絡がとれたら，建築協会というものは有効になって参ります。総合のかたも設計のかたもいらっしゃいますし，われわれのほうでも施工のほうを知りたいもんですから，そういう会員とのつながりの方法というものを考えんといかんと思います。

それでいずれにしても，おたがい時間もありませんし，自分の商売をもってきて"建築協会一生懸命やれよ"といってもこりゃやずかしいんで，会長には30万円なり50万円くらいは出してもですね。その専任でやってもらうというようなことを考えていかんと，とてもできっこはないと思います。いまのままではおそらく逆に発展は望めないんじゃないんでしょうか。みんな不満はもっていてわかっているんですよ。だからこれはどうせおカネはいりますよ。がそれはしかし返ってくるんですから。なにかそういった大きなことを考えんといけない。ぼくは人物はあると思うんですよ。そういうふうなことをひとつ，自分の仕事をやめてそれに専任していただける人をね。そういうことから出発しないと，いつまでたっても発展についてはなんぼ考えてもいままでどおりじゃないんでしょうか。雑誌というものはなかなかむずかしくて，雑誌によって発展を望むというのは非常に面倒だと思います。第一にこりゃおそらく，松井さんにいっちゃわるいけれども，自分とこへ雑誌がきてペラペラとめくって，そのままおくという人が85パーセントくらいあるんじゃないか。ということは年間1冊ほんとうに読むかどうかでしょう。だからあれだけにたよってゆくということは，なかなかむずかしいし，やはりくちでしゃべったり，顔を見合せるということも大事じゃないかと思います。そうしてはだでふれてゆくというふうに。そういう現場へ行って教えていただくということじゃないかと思うんですがね。やはりなにか強引な手を打たないと，いい知恵は別にありませんけれどね。

それと横田さんのいわれた住宅相談などなかなか盛会でそういうものを常設するとかはぜひ必要じゃないかと思います。仮りにうちの事務所の人でも土地をもって1軒建てようと思っても，どこへたのんでよいか，わからない。いろいろ迷ったんですね。そりゃ大手筋にたのむとすぐにできますよ。だがぼくはそういうもんじゃなくて，適当なところへ適当なものをたのむようにしないといかんと思う。そういう意味で住宅の相談所は常設するとかというのは建築協会でないとやりにくいんじゃないかと思います。そういうようなものから手をつけてゆくということと同時に，建築協会の認識を高めてもらって大いにカネを出してもらうことでしょうな。（笑い）

常設機関と財政的基礎づくり

横田　住宅展をのぞいて感じましたが，住宅相談所のコーナーで皆さん非常に熱心に質疑応答をされておりました。あれを見てずいぶん皆さん

関心があるんだなと思いました。現に私自身仕事がら設計者の方も，請負の方とも多くの方々とおつき合いがありましても，さてどういうふうにお願いをしたらいいのかと，私自身解りかねる状態です。ましてや平素建築関係にはまったく無関係な市民の方というものは，さあ家を建てたいわ，さて設計はどういうふうにしてもらって何処へ頼んだらいいものか。そしてどこへその建築をたのんだらいいものかというふうなことはまったく五里霧中じゃないかと思うんですね。それを一寸アドバイスするような常設機関でもあれば，皆さんに非常に喜ばれるんではないかというふうにも考えます。

またこれはお話が前後して恐縮ですが，さきほどからの協会の発展の在りかたについてなんですが，結局私は根本的には財政的な裏づけの確立によって，独立性を保たねばならないのではないかと考えます。これは例になりませんが，商工会議所は資本金いくら以上は強制的に会員にして会費制度というものをピシャリ，ピシャリとやれるから，ああいうふうに真の独立性があるので，協会としては雑誌ひとつにしても広告を皆さんにたのんで回って貰って収入をあげなければならないという，あるいは寄附をあおがなければならないということになると，どうしてもその方面からのことばに語弊があるかも知れませんが，掣肘とか圧力というものをある程度受けるんじゃないかというふうにも思います。そこで独立性を保つために財政的な基礎づくりをいかにするかということが，根本の問題になってくるんじゃないかと思います。金さえあれば，なんだってできるんですからね。といっても矢張皆さんから納得して会費を出していただくためには協会としても充分期待に応えた仕事をしなくっちゃいけないということになってきます。そうなって参りますとまことに難かしい問題になりますが。

調整団体として

佐野　本会が創設されたころは，業務団体というものがあまり発達してなかった時代なんです。東京に建築についての包括的な会として日本建築学会があり，大阪でそのころ地理的または経済的に東京とは離れていることから同様な包括的な立場の本会が生れたわけでした。今日ではそういう専門分野別に業務団体ができあがっていて，事情がかわってきておりますから，これからは本会でないとできないといった問題を取扱わなければなりません。特に横田さんの例にあげられた住宅展の相談所などや政府に対する総合的な陳情とか，社会に対する働きかけ，ここでなければできない問題をもっと積極的にやる必要がありますね。それでこそはじめて会の存在意義というか，魅力というものが出てくるのだと思います。いろいろな業務団体が取扱う事業をてんでばらばらにやるよりは一度これをはき出してもらって整理する努力も必要だと思いますね。

75％は総合で

松村　わたしたちの20年前にしかられたのは，建築学会の支部というのがあるのに，日本建築協会も同じことをするのだったら，これは蛇足だ，日本にただひとつしかない日本建築協会なら，もっとその性格をはっきりしたものに作り変えた方が意義がある，いままでと同じようなことで本を出すだけなら建築学会に任かせたらどうかと批判したので，なんちゅうことというかとしかられたのです。日本唯一の特色ある会とすることによって意義があると思います。本会はどういう会員の集めかたをやってられるのかは知りませんが，わたしのほうの大阪の業界で申しますと，登録工事業者というのは，大阪だけ9,132社あります。そのなかでわれわれの協会に属しているものは293社で大阪の全業者の3パーセントに足りません。その3パーセントの協会が大阪の業界の窓口を以て任じています。大阪の府，市の指名者業になるためには"あなたはそこの会員か"と役所はまず聞かれるそうです。でないと市会議員や府会議員がへんなのを連れてきて陳情されるのに応じ切れないそうです。一応大阪建設業協会は関門通過の窓口に決められています。われわれはそんな陳情はいちどもしたことはないのですが，60年間真面目に協会を育ててきたために，それだけの信用を得たと思っています。そうして日本全土に対しても大阪の協会は中心的存在と自負しています。やりかたによって3パーセントの人間でこれだけのことができるのですから，いま6,000人の会員を擁しているということは，この団結は実に強い力と思います。その人たちは賛助会員あるいは各部会員ということにするか，また雑誌をタダであげるかでいいから。せめてここの経費くらいは5団体で出すくらいなことで，総合工事業者に75パーセントまで持たせてもいいんじゃないですか。結局は総合工事業者の仕事なんですからね。これは……，大きくいえば……（笑い）。そういうところから考えて，強化委員会をつくって各団体から二人ずつくらい出して，好きなこと話合って見てはいかがですか，もう一度ガツーンとしかられて見ます。明治百年記念に（笑い）。世の中も大ぶん変っていまっせ。なにか意味のある日本にひとつしかない団体がほしいと思います。学問は学会に任かせて，実務はなんといっても大阪じゃないかと思います。

大阪の実行力と底力

佐野　実務をもとにして考えることが必要ですね。

松村　大阪は眼先の営利は当てにしてはおりません。どんな種類のものでも大阪は寄附をしてきています。

横田　総合試験所にしても東京のはほとんど官公庁直轄のものばかりで，確か全国で8つの試験所のうち7カ所は東京で，あとのひとつは北海道の寒冷地のためのものだそうです。もちろん官公庁のご援助はありましたが，今度大阪で始めて，民間の協力でできたことはまったく独自の形態で誇るべきものだと思います。

松村　そうです。東京に作るものでも，向うにばかりカネをとられております。東京で使う大阪のカネはこっちのことで使いたいのです。ほんとうは。

塚本　底力は大阪にはあるんです。やろうと思えばね。やりかたの問題ですよ。試験所の問題でも銭高さんにはじめボロクソに言われてね。まあ注意をしてやれということで，おかげで建設省がなにかをいっても府や市，商工会議所でも援助をしてくれて，当初500万円しかとれなかったが，とにかくそれではめこみました。そんなんで行政や消防の問題といろいろ共通の問題もたくさんあります。そういう問題もとりあげないと，それに大工，左官，電工さんの養成所といろいろあります。それに大阪府立住吉工業高校では設備を主体に学科のなかにとり入れてやっています。あれは工業会でもやっているから協会でもやりたいからおカネを出してくれんかといっていたが実現せず，みんなから話があって府がとりあげたんです。あれはよい卒業生を出していますよ。いま松村さんのお話をきくと本座談会の裏づけはできましたね。（笑い）財政の問題で75パーセントもってやるって。非常に力強いお話です。ぜひこりゃひとつ。しかしこれはあまえちゃいかんから，もっとよく考えてね。

松村　そりゃ改革をするためにはそのくらいのことをいわんとね。（笑い）

西村　大阪の仕事は政治性がなくて中央に対する働きかけが弱いので，わたくしたちの電気屋もかたまって専任の人，代議士の出身の人を引ばってこようと思っていますが，これは実現すると思います。とても片手

間ではできませんので，専任の政治家を高給を出してでも入れたいと考えているところです。中央への働きかけの強化は必要ですから。

伴　そりゃたしかに関西地方の実行力は強いんです。協会をいかに強化するかについては，東京はお説のとおり理屈が先で，その点関西はいい方法と信じたら，すぐとそのペースにのってことを成就させます。われわれの業界でもそのとおりで，たとえば工事請負契約のときですね。保証人を立てなければならない，保証の組合じゃちと具合がわるいとわれわれの別の集まりをつくろうといい出して，まず実行ということで発足させて，大阪ではもう10年になりますが，いや独占禁止法にふれるのどうのと論議に時をすごし東京の発足はやっと41年にまとめたんです。この建築協会の強化も建築すなわち静と動を一丸として考え，実務と学問を併行させてゆくにはどうしたらいいか，いまさしあたりの案はなくっても，こういう日本に一つしかないという集まりをつくるんだということにむかって進めば良案が生まれると思います。

三つのありかた

佐野　三つばかりの方向があると思うのですが，個々の会員を対象にしたひとつのありかた，会員はそれぞれ背後の業務についての業界にはいっているわけですから，そういう業務体を考えて本会のありかた，これが次です。それから一般社会ですね。建築界が努力してＰＲしなければならぬ相手であり，また逆に建築界をはげましてくれる社会に対して本会のありかたは何かということです。この三つの実施方をいろいろ整理し組立ててゆく必要があると思います。本会の創立したころは三つのうちで第一の個々の会員を対象にしたあり方にとどまっていたと思いますが，業務団体がそれぞれ成長した今日においては，やはり業務団体というものを意識してやらねばなりません。しかし，業務団体とまったく同じことをやっても，意味がないし重複にもなります。本会の雑誌についても，最近は大型になり内容も充実してきたと思うのですが，本会の多角的なありかたを反映した方向でさらに発展してほしいと思いますね。

芳山　わたくしのほうは事業をやるにもカネがない。講習会を大阪でやれるときは京都から出ていかんならん。そういうことはなんとか……。

佐野　そういうものも一部の委員会で取りあげて，地方では施工技術に関する講習会をやったり，あるいはその他おりにふれてやってはいるんですけれどもね。さらに強化してやらねばなりませんね。

地方の講習会など

岩崎　最近記念出版として「鉄骨のデザイン」を編集中のところ，いよいよ昭和43年１月末には発行して，２月からは鉄骨デザインの講習会を開こうということになっています。大阪をはじめ京都や神戸など支部の所在地は特に重点的にやりますけれども，そのほか全国の主要都市にも回ろうと，そういうことを計画されています。おっしゃるようにやはり大阪ばっかし事業をやって地方ではなんにもやらんというのはいけないんで，ほんとうに雑誌だけが協会からのおかえしではね。次年度からはひとつ大いにそういう講習会も開こうじゃないかということになっております。

それから同じく記念出版の「建築データーシート」を会誌「建築と社会」の附録として，３月号から30シート宛毎月号に同封，向う20カ月に亘り計600シート（1,200頁）を全会員に洩れなく無料頒布することになりました。これは建築実務にもっとも必要な建築資材，工法の新らしいデーターシートでわれわれ建築技術者の必携の書でありますので，会員のみなさんから喜んでいただけるものと確信しております。実際に地方のかたには今のところ雑誌だけですから，これで協会への魅力が出てくることと思います。

伴　それと業界の記事を発表していただけませんか，そうすれば建築協会と会員の間は親密となります。

横田　各業界というか各団体のいろんな動きとか，あるいは投稿でも具体的には差さわりあることは，抽象的にでも出していただくと，会員の啓蒙にもなるんじゃないでしょうか。

松村　わたしのほうでも企業局の課長や住宅公団，市役所にきて頂いて建設業協会で座談会を月に１回か２回やっています。だからそういうことがあった，ということだけでも 出しておいて 頂いたらいいと 思います。協会だよりというような欄をこしらえて。

岩崎　いやわかりました。原稿がございましたらね。

塚本　はじめは取材に行かなければいかんでしょうな。命令で出せ，といってもそうはいかんから。先方と仲よくなれば出ますね。

総合の建築会館

佐野　いろいろお話がでましたが，本会の委員会活動を今日以上に積極的にすすめることと，五つの部門がそれぞれもっている問題をさらけ出していただいて，会として，ひとつの総合的なものにまとめ，煮つめて処理するような体制をつくることが必要なわけですね。そういう方向へ持ってゆくについて本会がはっきりした努力を打出し，また各々の業務団体においても配慮を願うということですね。

松村　ここが中心になってもらって 各部会から 二人ずつぐらい 出てこい，それが強化委員という格好にしてもらったらどうですか。

佐野　そういうような形で積極的に進めてゆければ会員のみなさまがたにも，また業務団体としても非常にいい方向だと思います。

松村　これは日本にひとつしかない会合であるということをもうすこし強調して，ほんとうに底力のあるもんに育てたいもんですね。

佐野　しかもそれが大阪の底力，商人精神です。

松村　そうですよ。われわれは政治性がないのだから，そんなことでもして政治性にかえなくちゃいけないと思います。

岩崎　最後に一言申しあげますが，さきほど塚本副会長が申されましたことですが，ある会合でも話が出ました，大阪に総合の建築会館を建てないかんと。総合試験所はすんだから，こんどは大阪に建築会館を建てるんだ。土地を物色しようじゃないか。もっともやないかと思います。日本建築協会が中心となって建築６団体が協力すれば実現できると思いますがね。

松村　保証会社は９階建です。あれを占領しては……（笑い）

岩崎　みなそこに集まって簡単に話ができる。あらゆる建材でもそこにゆけばみなそろう。そうしてクラブ式になっていてみな一層親しくなります。

西村　大工，左官の建団連でも，あんなりっぱな会館を建てていますからね。

松村　あれもこっちが大分カネを出さされました。大阪の守口に建設業の訓練所があります。大阪には徒弟になるような子供はいやしません。鳥取や松江からきたくとも宿泊の設備がないので集められないのです。それでわたしどもの協会で宿泊所を建てて府に寄附をしました。私ども裏づけする仕事をして頂ければ，出し惜しみはしませんが，大阪商人ですから無駄金は出せませんよ。

佐野　それではこのへんで。どうもありがとうございました。

日本建築協会の今後について思うこと

若い会員有志

当初，「日本建築協会10年後のビジョン」というテーマで，「若い会員の集い」で座談会を開催して，それの「まとめ」を発表するつもりであったが，歴代の主査に集まってもらう予定の出席者が少数であったため，「若い会員の集い」の名で発表するよりも，「若い会員有志」として，またテーマも「ビジョン」というより「今後について思うこと」という形で発表することとした。なおこの座談会の意見や下記参考資料，岩崎甚太郎氏のまとめなどを参照して現若い会員の集いの幹事の能勢次郎が私見を加えてまとめたもので，文責は能勢にある。

・座談会出席者はつぎのとおり

（順不同・敬称略　昭和42年12月22日　於建築協会会議室）

三　品　哲　夫（第1回若い会員の集い主査）
岩　本　尚　三（第6回若い会員の集い主査）
佐　藤　　泰（現・若い会員の集い委員）
能　勢　次　郎（現・若い会員の集い幹事）
南　　次　郎（現・若い会員の集い委員）
滝　川　公　策（現・若い会員の集い委員）
猪　沢　徳　忠（編集委員・兵庫県グループ）

・参考資料として，本誌昭和42年4月号「アンケート：わが日本建築協会の将来のビジョン」，昭和42年3月号「創立50周年記念号」収録の「委員会活動」の記事中の「運営審議会」と「企画委員会」の報告案などがある。

創設期，昭和前期，昭和後期と社会の変貌，進展と共に諸先輩が築き上げて来た50年という歴史の礎はたくましく大きい。この間に，あらゆる諸要素の発展と共に，所謂社会はめざましい発展，成長を示し，社会と共に歩む建築界も，その趨勢にかられ，ある意味においてこれもまためざましいほどの進展，成長を示して来た。日本建築協会創設期の社会情勢と今日の社会情勢とでは比較にならないほどの進展を示している。

過去50年の歴史において日本建築協会が骨子となして来た指針は変展する社会情勢下にあって，その語意の解釈のされかたの相違こそあれ，概念的に「社会と共に」であり「建築を通じて社会に貢献する」であった。過去50年間広義ではあるが，一貫して貫らぬかれて来たこの主題は，今日のこの煩雑な社会情勢下にあっても，あくまで日本建築協会の進むべき方向づけの一指針であって差しつかえなく，将来社会情勢がどのように変展しようとも，常にその主題は生きつづけるものであっておかしくはない。いつの時代においても，建築は社会と共にあり，「建築」と「社会」はどちらも切り離すことのできない強い相関関係にあるからである。

しかし過去においての建築界の動きは，全般的にみて社会の要求に応じてその要求のみを満足せしめるという一種の受動的な動きをしか示し得なかったのではないだろうか。社会の要求に応じて，という受動的な動きもまた必要なことでもあろうが，より積極的な社会への働きかけがあってこそ，初めて「社会に貢献する」が具現されるのではないだろうか。

急激な社会の進展は反面少なからず矛盾をも派生せしめている。人口の都市集密化に伴う，生活環境への悪化，交通問題，公害問題等，これから派生する数多くの建築に関連する諸問題に，なんの抵抗も，解決策も，そして提案をも示すことなく，ただ自己本位，営利主義のとりことなり，甘んじて今日ある目先の事象にのみ窮々としている現状は，大きく反省自戒しなければならない。

建築界全体がより積極的に社会に働きかける因子はいまや数限りなく面前にひろがっている。この数限りなくひろがる諸問題に積極的にたち向うことを，協会の今後の使命であり大きな

課題ではなかろうか。

だが一方，このように複雑多岐にわたって来た今日の社会において，提議されるその問題の多くは，単に建築関係団体単独では完全に解決はなし得ないものであろう。今や専業化してきた社会においては，より多くの人々の協力，協働が強く要求され，co-ordinateの場なくしては，問題の解決は全く考えられない現状となって来た。従来，建築協会は，その組織に建築の技術部門のみにとどまらず，建設業,管工事,電気，建材の部門をも含めもっていたという意味においては，狭義ではあるが，co-ordinateの場を持ちあわせて来た組織であったといえよう。このような協会の利点をより有効に生かすように，現状よりももっとその門戸を広く社会に開放し，より広いco-ordinateの場をつくり出すように努めることも，また一つの姿ではなかろうか。

一方対外的，社会的活動としてより広く，そしてより強く社会へ主張，提案するために，建築界全組織の統合，集約化もまた必要欠くべからざる問題であろう。

現在類似した団体は個々それぞれの活動をなし，適切な内容と成果を持ちながらも，その効果はきわめて社会性に乏しく，ただそれぞれ単体内での活動にとどまっている現状ではないだろうか。各単体内での活動に充当されたエネルギーを，より有効に建築界全体の成果として社会に開花させるよう努めねば，費やされたエネルギーの空費は余りにもむなしいといえよう。

ここに各建築関係団体の統合調整機関の充実を各団体個々の発展を望む前に考えなければならない問題の一つだと考える。

創立50年を期に，他団体に対して，積極的に団体の統合，協調調整の働きかけをすることも，日本建築協会に課せられた大切な課題の一つでもあろう。

しかしそのためには，協会自体もまた自己の内容の充実と確固たる地盤の形成に取り組まなくてはならない。

最近，ややもすれば会員の会への関心が薄れ，各部会活動の動きは渋滞気味でマンネリ化しつつある。現在の窮々打破をはかるために，内容の充実を急ぎ，成果ある対外的活動へと展開していくことが急務ではないだろうか。

内容の充実を計るための2，3の具体案として

① 会員個々の充実を計るための企画

② 研究的活動の具体化と活発化—<対社会的部外活動に直結する>

③ 興味ある企画の立案

④ 内部機構の再考

等があげられよう。

① については

（i）各関係界の内外情勢，新技術の導入等，広範囲な知識の導入のための情報センターの設置。

（ii）各関係界の交流を計った，技術的討論の場の開催。

（iii）各関係界業務の改善，進展についての調査，研究会の設置。

② については

（i）対社会的部外活動につながる諸問題の調査，研究機関の設置（理論的展開と具体策の提案等）

（ii）関係各界の改善，進歩についての討議，調査，研究機関の設置

（iii）講演会，説明会，展覧会等の内的充実

③ については

（i）会員作品コンクール，論文，設計コンクール等の開催

（ii）海外研修生の派遣

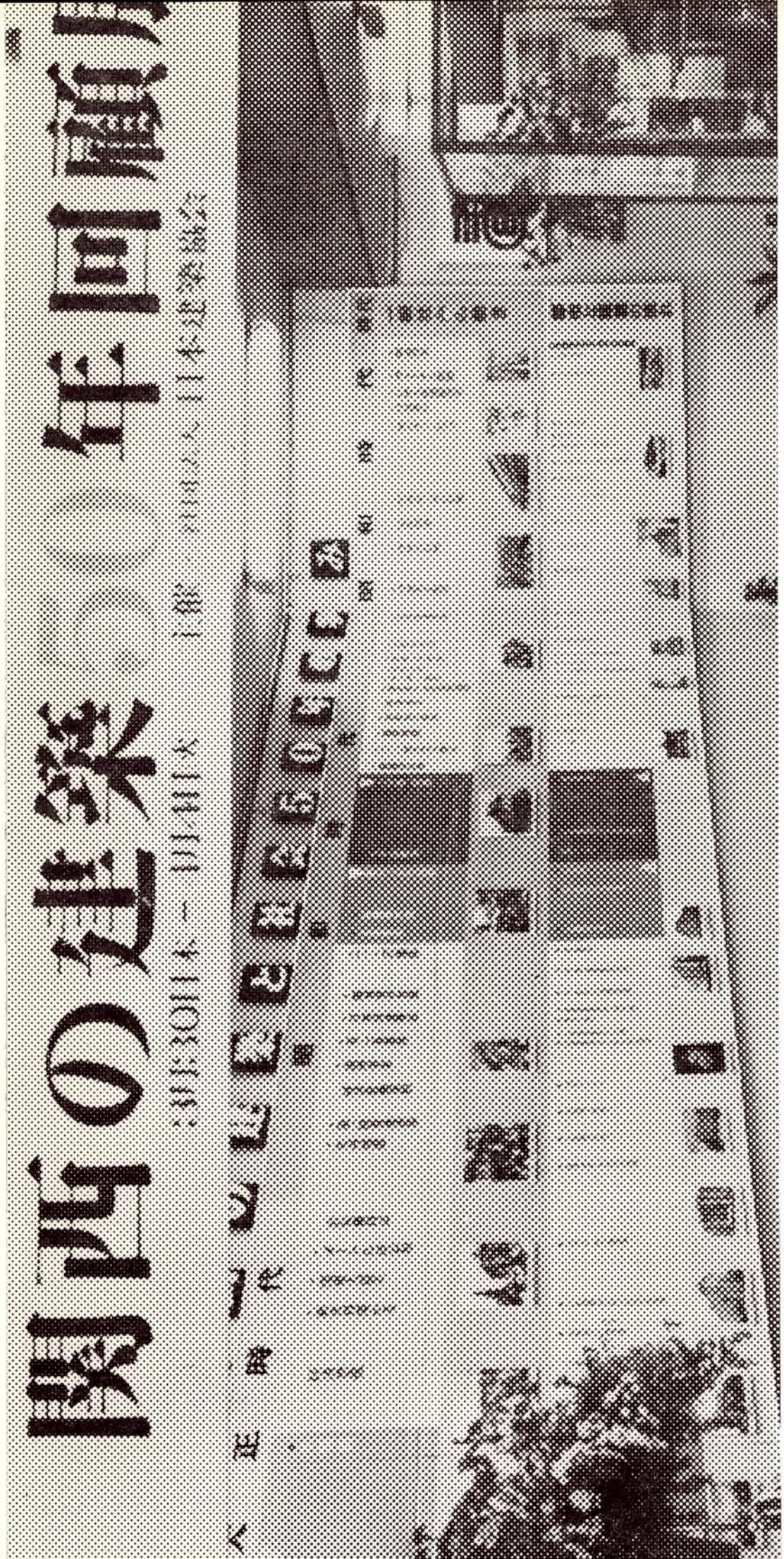
（iii）スポーツ，趣味等を通じての会員の交流

④ については

（i）年層の分離を排除し，広く会員が会に関与でき得る組織への再考

このようにして内的充実から外的活動えと動き始めることにより，自発的な会員の関心を呼び，そこに生れる会員相互間の親睦こそ真の親睦といえるのではないだろうか。

しかし，これとて会員個々の奉仕的精神と謙虚な研究的態度なくしては，とうてい実行し得ない問題なのである。会員相互が，協会の現状を把握し，あわせて「建築」が「社会」におよぼす影響の重大さを再認識し，積極的に参加するほかに，現状打破の道も，そして将来への道もないのではなかろうか。



建築の世紀

創立50周年
記念事業記録号

日本建築協会

記念事業一般報告

記念事業委員長　塚本猛次

本会創立50周年を迎えるにあたり，かねてより理事会において記念事業の実施について種々論議されてきたが，昭和41年5月12日の理事会において事業企画案について審議の結果，事業資金については45周年記念事業の剰余金を本事業費に振替使用の上，募集額については，45周年記念事業の際の募集額を上廻らないこととして，記念事業を実施することになった。なおこれが事業実施のため特別委員会の編成は塚本，竹中両副会長に一任された。

塚本，竹中（代理神谷新一）両副会長協議の結果，委員会の構成，実施事業の種目，各事業担当の委員長候補者，事業資金の募集目標額の案などを纒めて6月19日の理事会に附議し，審議の結果，事業の一部と予算の一部修正の上次のとおり決定した。なお委員会委員を後記のとおり，委嘱された。

記

1. 記念事業と担当委員長　（敬称略）

記念事業委員長　副会長　塚本猛次
同　副委員長　同　竹中錬一
財務委員会委員長　理事　鴻池藤一

事業資金の募集，予算決算の実施

総務委員会委員長　理事　増井敏克

記念式典，表彰式，祝賀会，慰霊祭，展覧会，講演会，見学会，運動会などの実施

記念物建設準備委員会
大阪城公園に建つデザインコンクール審査委員会
委員長　理事　岡橋作太郎

記念出版委員会
委員長　理事　田中良太郎

「鉄骨のデザイン」編集委員会
委員長　副会長　鷲尾健三

建築データーシート編集委員会
委員長　理事　中原茂

「建築と社会」記念特集号編集委員会
委員長　滝沢真弓

1. 事業予算　約700万円

8月19日「建築と社会」記念特集号編集委員会を始めとして，9月2日の財務委員会につづいて各委員会，小委員会，分科会，座談会などを開き各委員会とも準備活動を開始した。記念物建設準備委員会においては当初の企画である中ノ島公園内での記念物の建設は大阪市の許可が難かしくなったため，理事会の承認を得て公共建物のデザインコンクールを実施することに変更した。記念出版としては，図書「鉄骨のデザイン」のほか建築データシート出版を記念事業として追加することに昭和42年11月1日の理事会において承認を得た。その他実施された事業の内容経過などについては，この記録号の委員会報告をご覧いただきましたら幸せです。

事業資金の募集については，会員各位のご熱意により目標額を越す応募があり，諸事業を支障なく実施できたことは洵に同慶に存じます。

お蔭をもって本年1月出版の記念図書「鉄骨のデザイン」，および「建築と社会」記念事業記録号（3月号）と，附録建築データシート第1回分（発行目標20回毎回30シート予定）発行をもって，記念事業を滞りなく終了することができた。ここに東畑会長の本事業に対する終始変らぬご熱意に敬意を表すると共に，各委員会委員長はじめ委員各位のご労苦と会員各位のご協力，並びに協会の職員各位のご労苦に対して，感謝申し上げて一般報告といたします。

財務委員会報告

財務委員長　鴻池藤一

さきに理事会において創立50周年記念事業の実施案並びに事業予算が決定されたので，昭和41年9月2日委員会を開き事業予算の内容について検討を行ない事業資金の募集計画について協議した結果，45周年記念事業資金募集の例に倣い，各部門（建設，建材，管工，電気，建築事務所，個人）毎に募集目標額と各部門毎に担当の委員を決めて本格的に募金の活動を開始した。

一般経済状況は決して好調とは言えない時期にもかかわらず，会員各位の熱意と委員各位のご努力のお蔭をもって，募金目標額を上廻る583万5千円（既報「建築と社会」昭和42年2月号～昭和43年1月号会告欄に報告済）の応募があった。

事業費関係については，物価の一部上昇のため予算の超過を来した事業もあったが，事業を滞りなく実施できたことはまことにご同慶に存じます。これ偏へに委員各位のご努力と会員各位の熱意の賜ものでありまして深く感謝申し上げます。

今後「建築と社会」記念事業記録号の諸経費のほか委員会経費を必要としますが，1月末現在における収支計算を次のとおりご報告いたします。

記

50周年記念事業収支計算

（昭和43年1月末日現在）

収入の部

45周年記念事業剰余金	2,286,450円
事業資金寄附金	5,835,000
祝賀会，見学会等収入金	651,164
計	8,772,614円

支出の部

記念式典費 表彰式費 祝賀会費	1,952,392円
慰霊祭費	401,775
展覧会費	988,595
講演会費	124,532
見学会費	749,334
運動会費	213,978
デザインコンクール費	504,024
「建築と社会」記念特集号費	1,462,368
モントリオール万国博見学会費	405,018
宣伝費	50,345
人件費	614,120
準備並事務費	684,614
（2月～3月支出予定）	
「建築と社会」記念事業記録号費	300,000
委員会諸費	250,000
計	8,701,095円
収支差引残金見込	71,591円

総務委員会報告

総務委員長　増井敏克

50周年記念事業として，記念式典，表彰式，祝賀会，物故者慰霊祭，関西の建築50年回顧展，モントリオール万国博視察，記念講演会，特別見学会，懇親ゴルフ大会，懇親ボーリング大会を開催してきたが，以下にその事業内容ならびに参加者氏名を掲載して報告にかえたい。なお，これらの記念事業の記録写真を一括して，グラビア頁にまとめたので，あわせて見ていただければ幸いである。　＜記念事業の開催年はすべて昭和42年＞

記念式典

＜3月30日（木）2時→2時20分＞

於　太閤園　新館2階ゴールデンホール

開式の辞　矢野豊作（総務副委員長）
式　辞　東畑謙三（会長）－別記－
祝　辞　建設大臣殿（建設技官高木任之殿代読）－別記－
日本建築学会長　坪井善勝殿　－別記－
日本建築士連合会々長殿（中山元晴殿代読）－別記－
祝電披露　司会者（福中事務局長）
日本建築家協会　会　長　坂倉準三殿
建築業協会　理事長　竹中錬一殿
大阪府知事　左藤義詮殿
大阪市　建築局長　黒田泰輔殿
閉式の辞　岡本弘（総務副委員長）

式　辞

本日の創立記念日に当りまして，多数ご来賓のご臨席を賜わり，茲に意義ある創立50周年記念式典を挙行し，式辞を述べる機会を得ましたことは私の最も光栄に存ずるところであります。

顧りみますれば，大正6年3月30日故片岡安氏等数人の発起人によって関西建築協会を創立，大正8年1月20日に日本建築協会と改称し，今日に至るまで実に50年の歳月を経て参りました。

その間，現在の建築基準法の前身である都市計画法，市街地建築物法，士法の法制化に努めたほか，耐火建築促進法制定など，本会の最も努力したものであります。

大正11年には大阪において住宅改良博覧会を開催し，30余戸の住宅を建設いたしましたが，これはわが国住宅展のはじまりであり，広く社会に協会の存在を認めさせたほか，大正12年の関東大震災，大正14年以来，但馬，北但，福井などの地震，函館，静岡の大火などには調査団を派遣し，詳細な調査報告を行うなど，常に耐震，耐火建築の普及宣伝，災害防止に意を注いで参りました。

今や会員は6,000名を擁し，全国に6つの支部を設けて地域活動を展開し，本会の真価は今後の活躍に一層期待されるものと深く信じております。

これらに思いをいたしまして，建築界を形成します関係諸団体とはますます緊密な連繋と協力体制を強めると共に，わが建築界に関する学術，技芸，事業の進歩発達に貢献することを念願いたしております。

このとき創立50周年記念に際し，わが国建築界の進歩向上のため心を新らたにして，建築を通じ社会に奉仕することの所信を表明して，ご来賓各位のご支援ご鞭撻を賜わらんことをお願い申し上げ，式辞とする次第であります。

昭和42年3月30日

社団法人　日本建築協会
会長　東畑謙三

祝　辞

本日ここに日本建築協会創立五十周年記念式典が開催されるにあたり，一言お祝いの言葉を申し上げます。

今やわが国の建築界においては，建築物の大規模化，建築全体の投資量の増大などに伴って，従来の建築生産方式からの脱皮が促されています。また都市機能の多様化，流動化は，建築物の計画についても，単に個々の建築物の計画が優れておればよいというだけではなく，都市資産の一部として考えなければならないことが痛感されております。

これに対応するためには単に建築家の力のみではなく，広く建築生産関連分野の総合的な力の結集によらなければなりません。日本建築協会は建築に関する学術，行政，事業などあらゆる分野を含むわが国唯一の総合団体として，大正6年に発足以来，幾多の困難をのり越え，50年の長きにわたりわが国の建築技術の発展のみならず，建築行政，建築家の育成に寄与され，また建築を通じた啓蒙活動など広く社会に貢献されたことに対し深く敬意を表する次第であります。

おりから去る3月15日には昭和45年大阪万国博覧会会場の起工式が行なわれたのであります。

万国博は，体育のオリンピックに対するごとく，文明の世界的な祭典であり，その舞台となる建築の役目は，過去においてロンドンのクリスタルパレス，パリのエッフェル塔の例を引くに及ばず，最近のニューヨーク，モントリオールにおいても，現代の文明の集大成と未来への跳躍を示すシンボルとなっておりますことに思いをいたすとき，わが国建築界の活躍は世界の注目を集めていると言わねばなりません。

このようなときに日本建築協会が創立50周年を迎えられまし

たことは意義深いこととお喜び申し上げますとともに，これを機会に貴協会がますます発展され，この輝かしい歴史をさらに高からしめられるよう切望して祝辞といたします。

昭和42年3月30日

建設大臣　西　村　英　一

祝　　辞

本日の佳辰を卜して，社団法人日本建築協会が，めでたき創立50周年記念の盛典を挙行するに際し，友好団体を代表して御祝辞を述べる機会を得ましたことを，誠に光栄に存ずる次第であります。

憶いまするに大正6年，故片岡博士らの主唱によって貴会創設以来翌7年および8年にかけて両会が主となり近代国家に必要とする都市計画法，建築法令制定の運動を起し，遂に大正9年これを実現せしめたことにはじまる本会との関係を回想し，うたた感慨を禁じ得ないものが去来いたします。

爾来，幾十星霜，国運の消長と建築界も運命を共にしつつも，文化の進展は，建築界を隆盛の一途を辿らしめて今日に至ったことを思い，ひたすら，先輩諸氏の識見と撓まない努力とによって築かれた基盤のうえに，本日の建築文化が開花したものであることを信じ，深き感謝の誠を捧げるものであります。

科学の目覚しい発達により関東と関西との距離を著しく短縮し，手を携えることを容易にいたしておりますが，ここに到達するまでの本会の貴地域における活動はことごとく貴会の友好に満ちたご支援に俟つの他なかったことを想起して感謝申し上げております。

昭和22年11月京都に本会近畿支部を設置し，31年には貴会の本拠とされる近畿建築会館内に支部事務所を移し，貴会にその事務を依嘱するに及んで，とみに両会の兄弟関係は深まって参りました。

そして貴地域の建築界の活動も円滑になってきたのであります。

両会は性格，目的を異にするところがあっても，それぞれ発展を見るに至って活動拠点としての事務所の狭隘を告げて30年8月事務所の分離をはかりましたがその後も緊密な関係を保ち，相扶けてわが建築界の重要勢力である近畿建築界を中心に両会の使命遂行に寄与できたことを誠に欣快に存じております。

いまやわが国は経済的文化的に著しい発展を遂げつつありますが，それらの施設建設，さらに民生安定のための住宅問題をはじめ行政施策のうえでも，建築界に課せられた責務はますます増大しつつあります。

殊に3年後に迫った大阪万国博覧会は国力を挙げてその成功を期せんとしつつあるとき建築界の担当する分野はきわめて重かつ大であり友好団体の理解と協力とを緊密にして全建築界の総力を結集しなければならないことが焦眉の問題となりつつあります。

この折に半世紀の輝かしい歴史のもとに本拠を関西にもたれる日本建築協会は総合団体として，推進母体として，その面目を十二分に発揮され建築界の付託を果されるものと期待申し上げております。

ここに日本建築協会のいよいよのご健斗とご隆昌とをお祈り申し上げて創立50周年の御祝辞といたします。

昭和42年3月30日

社団法人　日本建築学会

会長　　坪　井　善　勝

祝　　辞

社団法人日本建築協会創立50周年のこの目出度い式典に参列してご祝辞を申し述べる機会をえましたことは，私の最も欣快とするところで先づして心からお喜びを申し上げます。

大正初期ご当地に現在の日本建築協会が誕生しましたのは，当時の先覚者を中心として全く自然発生的に芽生えたもので，これが今日の大樹に繁茂するようになった裡面に歴代の会長をはじめ役員その他関係者各位協力一致ご努力の結集した成果にほかならずと誠に感銘に堪えない次第であります。

ひと口に50年と申しますが満州事変に始まる長い戦争時代を経て宇宙時代の黎明期に至る今日までの経過を顧りみますと先輩各位のご研究ご遺業を受けついだわれわれの責任はいよいよ重かつ大なるものがあります。

当面の問題としましては3年後に開催せられる人類の進歩と調和をテーマとする日本万国博覧会においてわれわれ建築関係者のヴィジョンをいかに有効適切に具現するかにあると存じます。これがためには国をあげて総力を結集せねばならぬことは言うまでもありませんが，地元たる関西建築関係諸団体におかれましては打って一丸となりその中核体として推進せられるよう切望に堪えない次第であります。

以上所懐の一端を卒直に申述べましてご祝辞にかえさせていただきます。

昭和42年3月30日

社団法人　日本建築士会連合会

会長　　石　井　　桂

表　彰　式

＜3月30日（木）2時20分―2時50分＞

於　太閤園　新館2階ゴールデンホール

感謝状並に記念品贈呈

歴代会長

故片岡　安殿　　竹腰　健造殿　　故尾崎　久助殿

創立委員

故池田　実殿　　故設楽　貞雄殿　　故武田　五一殿

故波江　悌夫殿

歴代副会長

大林　芳郎殿　　鴻池　藤一殿　　銭高　輝之殿

名誉正会員

秋田喜代治殿　　井上　福蔵殿　　池田　宮彦殿　　石川　寛三殿

石田　信夫殿　　今林彦太郎殿　　置塩　　章殿　　久保田種吉殿

早良　俊夫殿　　作間日出生殿　　佐藤　四郎殿　　島田　良馨殿

鈴木　末尾殿　　滝沢　真弓殿　　内藤　多仲殿　　中沢誠一郎殿

伴　　秀雄殿　　伴野　貞三殿　　坂　　静雄殿　　藤木　正一殿

松本　儀八殿　　宮飼　克二殿　　村野　藤吾殿　　鷲尾　九郎殿

渡部　圭吾殿　　以上代表　池田　宮彦殿

多年役員並に委員

足立　　孝殿　　赤松　　修殿　　岩下　久哉殿　　内田　成之殿

浦辺鎮太郎殿　奥山清治郎殿　鬼武　信夫殿　恩田　一則殿
片山　光生殿　桐本　楠雅殿　佐野　正一殿　白石　博三殿
須賀豊治郎殿　菅谷　三郎殿　田中良太郎殿　高橋　慶夫殿
竹内　博文殿　竹口　信夫殿　恒岡　俊行殿　寺岡　真殿
中野順次郎殿　中原　茂殿　中村　綱殿　橋本　忠保殿
福田　朝生殿　福知　秀夫殿　星　広文殿　堀口　甚吉殿
増井　敏克殿　光安　義光殿　南　長吉殿　元木　貞次殿
森川喜代之助殿　山田　幸一殿　山邑　励二殿　山本　潔殿
山本　茂殿　若木望太郎殿　以上代表　堀口　甚吉殿

多年評議員
今村　騰殿

多年委員
伊藤　幸一殿　大井弘治郎殿　大津　敏晴殿　香取　礼三殿
駒　敬三殿　後川　春雄殿　平田作太郎殿　山田　忠顕殿
以上代表　山田　忠顕殿

図書出版
清野　清殿　井上　滉殿　石崎　浣雄殿　奥島　正一殿
上林　博雄殿　川島　宙次殿　小泉　昇殿　小西　岬殿
小林　清殿　清水寿栄次殿　白木小三郎殿　竹内　孝殿
西島　勇殿　野々村五四男殿　羽馬　栄夫殿　馬場　善雄殿
前田　敏男殿　宮川　達郎殿　森田　慶一殿　横尾　義貫殿
以上代表　小林　清殿

展　覧　会
海上　静一殿　黒谷　俊一殿　南部　知伸殿
以上代表　海上　静一殿

講習会講師
鬼頭　寿郎殿　岸田　成計殿　北山二十三殿　近藤　史郎殿
谷口　尚武殿　玉田　健殿　政岡　基次殿　松岡　照夫殿
矢野　豊作殿　安井　猛殿　武藤　藹吉殿　依田　潔殿
吉川　剛夫殿　渡辺　勇殿　以上代表　政岡　基次殿

工高生デザインコンクール
上田　光雄殿　笹川　季男殿　杉本　裕殿　鳥田　家弘殿
吉田　勇殿　以上代表　杉本　裕殿

多年支部役員
東海支部
石原　巌殿　川口喜代枝殿　黒川　巳喜殿　西村　勝殿
浜田　瑞穂殿

和歌山支部
小倉　清殿　辻本　喜次殿　前窪　芳貞殿　山下　宗一殿

京都支部
相原　弁一殿　池田総一郎殿　岡野　武司殿　木下　晴一殿
四方　靖郎殿　鈴木覚次郎殿　田丸　善則殿　高橋　政吉殿
富家　宏泰殿　仁張　市朗殿　森田　英一殿

兵庫支部
加藤　太郎殿　千葉　文雄殿　藤田　令二殿　山田　治司殿

中国支部
奥井忠太郎殿　佐藤　重夫殿　高原　一秀殿　松田　実殿
以上代表　池田総一郎殿

会員グループ
㈱浅沼組殿，㈱大阪建築事務所殿，大阪市建築局殿，大阪市高速鉄道建設部殿，大阪郵政局殿，㈱大林組殿，鹿島建設㈱大阪支店殿，日本電信電話公社近畿電気通信局第一建築部殿，日本国有鉄道大阪工事局殿，日本国有鉄道大阪鉄道管理局殿，㈱銭高組殿，大日本土木㈱大阪支店殿，㈱東畑建築事務所殿，日本住宅公団大阪支所殿，日建設計工務㈱殿，兵庫県建築部殿，㈱藤木工務店殿，㈱松村組殿　㈱安井建築設計事務所殿
以上代表　大日本土木株式会社　山本　茂殿

友好後援団体
一の会殿，大阪建設業協会殿，大阪府管工事業協同組合殿，大阪府電気工事工業組合殿，社団法人大阪府建築士会殿，社団法人日本建築学会殿，社団法人日本建築学会近畿支部殿，社団法人日本建築家協会関西支部殿，社団法人日本建築材料協会殿
以上代表　日本建築学会長　坪井　善勝殿

「建築と社会」誌多年広告掲載会社
関西三星タイル会殿，住友金属工業株式会社殿，田島応用化工株式会社殿，東洋リノリューム株式会社殿，日本アスファルト防水工事協同組合殿，日本シャッター製作所殿，美素工業株式会社殿，株式会社平川鉄工所殿，株式会社日立製作所殿
以上代表　日本アスファルト工業協同組合　井場　績殿

「建築と社会」誌・出版図書印刷会社
株式会社研文社殿，アポロ印刷株式会社殿
以上代表　㈱研文社　綱野　栄殿

多年勤続事務局長
手島　政男殿　大和　栄衛殿　以上代表　手島　政男殿

多年勤続事務局職員
安藤　省三殿　松井　昭光殿　三木ちえ子殿　吉田　悦二殿
以上代表　安藤　省三殿

多年勤続事務局嘱託
黒田　顕真殿　鹿内　武三殿　長沢　鉄吉殿　東出　清光殿
吉田　晃殿　以上代表　吉田　晃殿

感謝状受領者代表者挨拶
竹腰　健造殿

閉式の辞
岡本　弘（総務副委員長）

司　会
福中定三郎（事務局長）
出席者　183名

祝　賀　会

＜3月30日（木）3時→4時30分＞

於　太閤園　ガーデンパーティ場

開会の辞　山本　義樹（総務副委員長）
挨　拶　塚本　猛次（記念事業委員長）
開　宴
乾杯　東畑　謙三（会長）
余興　日本舞踊
木遣音頭（京都木遣音頭保存会）
万才三唱　坂　静雄殿
閉会の辞　増井　敏克（総務委員長）

表彰者以外の来賓出席者

建設省建設技官	高木　任之殿
大阪府建築部長	後藤　典夫殿
近畿地方建設局営繕部長	橋本　慎蔵殿
日本建築学会会長	坪井　善勝殿
日本建築士会連合会	中山　元晴殿
全日本建築士会	永瀬　義雄殿
日本建築学会近畿支部	谷口　尚武殿
日本建築家協会	伊東　恒治殿
大阪府建築士会会長	小河吉之助殿

京都府建築士会会長	大倉　三郎殿
兵庫県建築士会会長	森口　清殿
和歌山県建築士会会長	島村佐次郎殿
大阪建設業協会副会長	佐藤　音松殿
兵庫県建設業協会会長	山本　三二殿
京都建設業協会会長	大薮政次郎殿
和歌山県建設業協会会長	長井　長一殿
十日会会長	山本　末男殿
大阪市街地再開発促進協会会長	田中　勝己殿
大阪府管工事業協同組合理事長	南　長吉殿
日本建築総合試験所副所長	錦田　直一殿
日本建築学会近畿支部事務局長	沖田　誠一殿
大阪府建築士会事務局長	中村　昌作殿
大阪建設業協会事務局長	松森　英雄殿
日本建築材料協会事務局長	田村　史郎殿
今宮工業高等学校校長	稲葉　達雄殿
布施工業高等学校校長	荒武　善市殿
都島工業高等学校	益尾　辰雄殿
堺市立工業高等学校	宮本　章殿
大阪工業大学高等学校校長	川原　琢磨殿
日刊建設工業新聞社関西支社長	中山　豊雄殿
日刊建設通信新聞社支局長	成田　辰美殿
日刊工業新聞社大阪支社長	福田　良行殿
日刊建設産業新聞社大阪支社	砂川　哲男殿
産業経済新聞社事業部長	吉村　勝一殿
日本経済新聞大阪事業部長	加藤　孝次殿
	白杉嘉明三殿
	銭高　久吉殿
日本建築協会兵庫支部長	宮飼　克二殿
〃　和歌山支部長	栗林　一馬殿
〃　東海支部長	一圓　俊郎殿
〃　九州支部	松田　昌平殿
〃　副会長	鷲尾　健三殿
〃　評議員会議長	神谷　新一殿
50周年記念事業委員会委員長	塚本　猛次殿
〃　財務委員会委員長	浅沼猪之吉殿
〃　〃　副委員長	横田喜一郎殿
〃　総務委員会副委員長	岡本　弘殿
〃　〃　副委員長	山本　義樹殿
〃　運動会小委員長	窪田　裕殿
来賓出席者	183名
会員出席者	62名
計	245名

物故者慰霊祭

＜5月13日 2時～4時半＞

於　大阪中央公会堂3階集会室

祭　文

本日ここに祭壇を設けて，797柱の社団法人日本建築協会先亡各位の霊を祀り，本会創立50年記念物故者慰霊祭を執行するに当りまして祭主東畑謙三謹んで霊前に白し上げます

各位はご在世の時，本会の会員としてまたは事務局職員として，それぞれ本会の目的の達成に努められ，本会の発展にご貢献下さった方々でありまして，わたし達は，年とともに，いよいよ敬慕と感謝の念を深くしつつ現在に至りました

顧りみますれば，本年は創立以来年を閲すること早くも50年に相成りました

今や会員数は六千有余名に達し，全国に6支部を設け，いよいよ隆盛を加えて，各種事業の進展とともに国民文化の興隆に大きく寄与貢献しつつあります

この秋に当りまして，わたくし達は，今後さらに会員相互の親睦を深め，本会のなお一層の発展のため力を合わせて不断の努力を重ねる覚悟でございます

各位におかれましては，わたくし達のこの努力が一層よい実を結び得ますようにこの上ともご加護下さいますことを切にお願い申し上げます

本日ここに本会創立50年を記念して慰霊の式典を執行するに当り，先亡各位の本会に対するご功績を偲びつつ感謝の誠を捧げますとともに謹んで尊霊のご冥福をお祈り申し上げる次第でございます

昭和42年5月13日

社団法人　日本建築協会
会長　東畑謙三

当日お祀りした物故者芳名（50音順）

故青野　作壱 之霊	故青山　清治 之霊	故審良戸躍雄 之霊
故伊豆倉武一 之霊	故石原　信之 之霊	故稲角　滝彦 之霊
故入江雄太郎 之霊	故入山愛次郎 之霊	故上石　雄三 之霊
故梅本源重郎 之霊	故小笠原寿男 之霊	故小笠原祥光 之霊
故小野　俊昭 之霊	故尾崎　久助 之霊	故大明　義隆 之霊
故岡田　平蔵 之霊	故岡本多賀雄 之霊	故荻田真之助 之霊
故押川　新一 之霊	故加藤　勝彦 之霊	故加藤　義男 之霊
故硲崎　秀一 之霊	故神田　博司 之霊	故神吉　馬吉 之霊
故川崎　盛治 之霊	故河井　千浩 之霊	故北村　久男 之霊
故絹谷　祐規 之霊	故久保　幸一 之霊	故久保　徳二 之霊
故久米権九郎 之霊	故小阪　武夫 之霊	故古宇田　実 之霊
故古林　義敦 之霊	故佐藤正次郎 之霊	故佐野　俊三 之霊
故斎藤　省三 之霊	故斎藤　光夫 之霊	故坂井田克己 之霊
故坂本　広吉 之霊	故桜井謙二郎 之霊	故清水　栄二 之霊
故篠田　勝代 之霊	故島田　一 之霊	故島谷　政雄 之霊
故新海　悟郎 之霊	故角野千代造 之霊	故千賀　正人 之霊
故田中庄太郎 之霊	故田中　康介 之霊	故田辺　信 之霊
故高岡与三吉 之霊	故竹内　成夫 之霊	故竹腰　敏縄 之霊
故武田　経一 之霊	故武田　健三 之霊	故武田　真業 之霊
故寺戸常三郎 之霊	故百々　稔 之霊	故友田栄太郎 之霊
故鳥井　誠治 之霊	故中　義雄 之霊	故中西　六郎 之霊
故仲野梅太郎 之霊	故長尾　清一 之霊	故渚　宏介 之霊
故波江　悌夫 之霊	故二井内利彦 之霊	故野中　実 之霊
故波多野　充 之霊	故萩野　賢次 之霊	故萩原　香 之霊
故橋本　政一 之霊	故浜田　理一 之霊	故原田彦太郎 之霊
故原納　藤一 之霊	故平城　辰男 之霊	故福田　勇雄 之霊
故藤井　徳義 之霊	故舟橋　寛 之霊	故前田　直樹 之霊
故牧　毅 之霊	故牧原　敬典 之霊	故松井貴太郎 之霊
故松本　幸夫 之霊	故松本　幸雄 之霊	故松本芳太郎 之霊
故松本　渉 之霊	故三国　利通 之霊	故三宅　偉雄 之霊
故宮崎三之助 之霊	故村上　徹一 之霊	故元良　勲 之霊
故森西竜太郎 之霊	故森本　順三 之霊	故安田　信一 之霊
故安田　則也 之霊	故薮中　良善 之霊	故山内嘉兵衛 之霊
故山本竜太郎 之霊	故吉川　秀夫 之霊	故吉崎源三郎 之霊
故脇山　静夫 之霊	故渡辺　節 之霊	

今回新らたにお祀した霊（104柱）

故青木　友一 之霊　故青柳　貞世 之霊　故浅田　義克 之霊
故浅海　治平 之霊　故東　和市 之霊　故阿倍　礼次 之霊
故荒川　義夫 之霊　故伊東　五郎 之霊　故伊東　忠太 之霊
故伊藤幸太郎 之霊　故伊藤　正文 之霊　故飯田　紀造 之霊
故池田　稔 之霊　故池田谷久吉 之霊　故石原　政三 之霊
故板井　公威 之霊　故市川　進男 之霊　故今津　吉兼 之霊
故岩井　勘二 之霊　故植田　稔 之霊　故上山　元市 之霊
故梅阪　旦 之霊　故小野政太郎 之霊　故大隅　武夫 之霊
故岡　実 之霊　故岡村徳一郎 之霊　故落藤　藤吉 之霊
故加藤得三郎 之霊　故角尾　篤彦 之霊　故樫原　登二 之霊
故金田　茂 之霊　故上林　敬吉 之霊　故河村　新 之霊
故紀伊　健造 之霊　故木子　七郎 之霊　故木下　金蔵 之霊
故木村　捨蔵 之霊　故北山　米吉 之霊　故工藤甚五郎 之霊
故楠田　実 之霊　故栗原　信虎 之霊　故黒川　健二 之霊
故小泉為治郎 之霊　故小泉　雄 之霊　故小西　須一 之霊
故小松　四郎 之霊　故児玉　充弘 之霊　故佐伯与之吉 之霊
故佐竹　則蓊 之霊　故佐渡島英禄 之霊　故境　正一 之霊
故阪口芳三郎 之霊　故志垣　正次 之霊　故清水　一雄 之霊
故城口　亀吉 之霊　故周藤　馨二 之霊　故末広　実蔵 之霊
故田中　章 之霊　故田中　清一 之霊　故田中民三郎 之霊
故田中　留男 之霊　故田中　弘幸 之霊　故田中　正雄 之霊
故田中　義信 之霊　故田辺　平学 之霊　故高井　久治 之霊
故高丘　治季 之霊　故高戸　紀綱 之霊　故高橋喜平太 之霊
故竹内　六蔵 之霊　故竹林富三郎 之霊　故武内　富雄 之霊
故武田　久吉 之霊　故谷　民蔵 之霊　故常石　稔 之霊
故寺西　武吉 之霊　故戸塚　端 之霊　故富永　長治 之霊
故鳥井　信 之霊　故中川　了文 之霊　故中野　忠 之霊
故中村収次郎 之霊　故永瀬　狂三 之霊　故永野　三郎 之霊
故長田岩次郎 之霊　故西尾　寛治 之霊　故根岸　信 之霊
故橋本憲治郎 之霊　故長谷川富二郎之霊　故長谷部鋭吉 之霊
故長谷目　浩 之霊　故林　健太郎 之霊　故日高　胖 之霊
故日野　勝好 之霊　故久田　憲親 之霊　故平野　弥助 之霊
故布施　忠司 之霊　故福田　茂 之霊　故福永　顕文 之霊
故古川　隆三 之霊　故本田明三二 之霊　故本田　林八 之霊
故馬渡　豪 之霊　故松井　文一 之霊　故松江　秀季 之霊
故松原　長春 之霊　故松村　俊雄 之霊　故松本　吉平 之霊
故三浦　茂 之霊　故三原　清治 之霊　故森本　達雄 之霊
故八木　繁志 之霊　故矢田　茂 之霊　故安井　武雄 之霊
故藪中　一良 之霊　故山内　茂 之霊　故山岡　孫吉 之霊
故山上　正吉 之霊　故山口儀三郎 之霊　故山崎　鉄人 之霊
故山外　佐吾 之霊　故山中彦三郎 之霊　故山森　資一 之霊
故吉村清太郎 之霊　故和田　友一 之霊　故渡　実幸 之霊

昭和37年４月にお祀りした霊（126柱）

故安藤　謙介 之霊　故安藤　春雄 之霊　故安孫子三雄 之霊
故安間　立雄 之霊　故足立清一郎 之霊　故足立　芳助 之霊
故青木斎次郎 之霊　故赤松　重一 之霊　故明石　竜一 之霊
故秋吉　金徳 之霊　故浅野　幸吉 之霊　故天沼　俊一 之霊
故網永　庄八 之霊　故鮎川　衛之 之霊　故荒川　利一 之霊
故荒木　大作 之霊　故荒木　正巳 之霊　故有山福重郎 之霊
故井上　賢二 之霊　故井上　新二 之霊　故井上　忠吾 之霊
故井上　友一 之霊　故井上　貢 之霊　故井上　由平 之霊
故井尻　義雄 之霊　故井原　百介 之霊　故井平　重夫 之霊
故伊東　和雄 之霊　故伊東　輝治 之霊　故伊藤　英一 之霊
故伊藤　肆郎 之霊　故伊藤　真雄 之霊　故伊藤　谷蔵 之霊
故伊藤　為吉 之霊　故伊藤　義雄 之霊　故伊部　貞吉 之霊
故飯田松太郎 之霊　故生川　修 之霊　故生田種治郎 之霊
故池上　四郎 之霊　故池田栄三郎 之霊　故池田　勘三 之霊

故池田　唯一 之霊　故池田　晃也 之霊　故池田　実 之霊
故池野　逸郎 之霊　故石賀忠五郎 之霊　故石田勝之助 之霊
故石田　成男 之霊　故石田　敏樹 之霊　故石田　義雄 之霊
故石橋為之助 之霊　故石原　靖介 之霊　故磯田竹次郎 之霊
故板垣　嘉一 之霊　故板倉　達 之霊　故泉谷　四郎 之霊
故市村　光恵 之霊　故糸永　文古 之霊　故稲井　常夫 之霊
故猪瀬幸太郎 之霊　故今井　正雄 之霊　故今北　乙吉 之霊
故今西林三郎 之霊　故今村　次男 之霊　故今村　光三 之霊
故岩井長三郎 之霊　故岩尾　保衛 之霊　故岩田　愛吉 之霊
故岩田　末広 之霊　故上田寿一郎 之霊　故上田善三郎 之霊
故上西　五郎 之霊　故上野　三男 之霊　故牛村　喜勇 之霊
故臼井　正三 之霊　故内山熊八郎 之霊　故海野浩太郎 之霊
故梅原　格三 之霊　故浦　英之助 之霊　故遠藤　一次 之霊
故小川　政徳 之霊　故小川安一郎 之霊　故小沢　憲一 之霊
故小関　守一 之霊　故小田　林 之霊　故小野木孝治 之霊
故小原　力 之霊　故大石　忠夫 之霊　故大内　重夫 之霊
故大内秀一郎 之霊　故大浦　悦郎 之霊　故大江新太郎 之霊
故大岡　喜治 之霊　故大隈　重信 之霊　故大島鎌太郎 之霊
故大島弥一郎 之霊　故大杉　謙二 之霊　故大高庄右衛門之霊
故大塚　錦三 之霊　故大槻　竜治 之霊　故大西　幸七 之霊
故大西　正二 之霊　故大林賢四郎 之霊　故大林　義雄 之霊
故大原　忠隆 之霊　故大松　正之 之霊　故大道　勝也 之霊
故大森　喜一 之霊　故大森　茂 之霊　故岡崎　芳樹 之霊
故岡田大三郎 之霊　故岡田　達弥 之霊　故岡部　顕則 之霊
故岡本　忠行 之霊　故沖　尚助 之霊　故沖　盛 之霊
故奥田　芳男 之霊　故押鳴　六郎 之霊　故尾之江武義 之霊
故折居満寿介 之霊　故折田　義雄 之霊　故織岡　一夫 之霊
故織田　泰雄 之霊　故加々美武夫 之霊　故加藤喜三郎 之霊
故加藤　熊雄 之霊　故加藤　一俊 之霊　故加藤　茂 之霊
故加藤　誠二 之霊　故加護谷祐太郎之霊　故鍛治　弘 之霊
故柿崎　欽吾 之霊　故柿本　清治 之霊　故笠井新十郎 之霊
故柏谷　義男 之霊　故糟谷　謙三 之霊　故片岡　勇夫 之霊
故片岡　直輝 之霊　故片岡　安 之霊　故勝田才次郎 之霊
故葛西　万司 之霊　故葛野壮一郎 之霊　故門田　頼夫 之霊
故金田　兼吉 之霊　故金森又一郎 之霊　故上久保節男 之霊
故上谷　利夫 之霊　故上地　清治 之霊　故亀山　寅夫 之霊
故川勝　健二 之霊　故川久保梅治郎之霊　先代故川島甚兵衛 之霊
故川島　末吉 之霊　故川瀬　三郎 之霊　故川野　平造 之霊
故川人　繁一 之霊　故河合喜三郎 之霊　故河杉　親一 之霊
故河原啓太郎 之霊　故神戸　又七 之霊　故木内　定雄 之霊
故木田　延衛 之霊　故木原　佐吉 之霊　故木村音右衛門之霊
故木村　寛一 之霊　故木村外茂夫 之霊　故木村　義雄 之霊
故喜田　利義 之霊　故城戸　彦七 之霊　故貴宝院　隆 之霊
故岸本　幸治 之霊　故北野　勇 之霊　故北村　薫 之霊
故北村　万治 之霊　故橘高　寿 之霊　故衣笠　信夫 之霊
故清野長太郎 之霊　故桐田　登 之霊　故久保田繁亮 之霊
先代故久保田種吉 之霊　故久保田政周 之霊　故楠瀬　澈 之霊
先代故窪島　宗治 之霊　故下松　一雄 之霊　故国枝　博 之霊
故国川　正 之霊　故国永　清喜 之霊　故倉崎寛一郎 之霊
故黒沢　研 之霊　故黒住福三郎 之霊　故黒田　忠雄 之霊
故黒田　浩 之霊　故毛尾大三郎 之霊　故小池　鋼三 之霊
故小坂　信一 之霊　故小谷　利郎 之霊　故小嗣　精 之霊
故小西　一良 之霊　故小林　堅二 之霊　故小林　嘉高 之霊
故小林　亀雄 之霊　故小林　悉 之霊　故小森　稠 之霊
故小山　健三 之霊　故小山助太郎 之霊　故児島春太郎 之霊
故児玉広太郎 之霊　故後藤　新平 之霊　故五島　政雄 之霊
故高坂　辰夫 之霊　故高津壮太郎 之霊　故鴻池忠三郎 之霊
故合田　勝一 之霊　故郡　富太郎 之霊　故駒井貴兵衛 之霊

創立50周年記念事業記録写真集

写真と構成／記録写真グループ
近藤　護
原桂一郎
本郷　聡
木村久夫
村尾一彦

1　記念式典





2　慰霊祭

3　関西の建築50年回顧展





4　モントリオール万国博視察

5　運動会





6　特別見学会

〈日本建築協会〉

記念式典
表彰式

42. 3. 30. 於大閤園



1



2

1．式辞（東畑謙三氏）
2．記念式典
3．表彰式
4．表彰式風景



3　4





6



7



8



9



10



5

表彰式

42. 3. 30. 於大閤園

5．東畑会長より表彰状をうける故片岡安
　初代会長のご遺族片岡鉾太郎氏
6．元会長竹腰健造氏
7．前会長尾崎久助氏・ご遺族尾崎吉文氏
8．創立委員故池田実氏・ご遺族池田達雄氏
9．創立委員故設楽貞雄氏・ご遺族設楽貞三氏
10．創立委員故武田五一氏・ご遺族武田　琴氏
11．創立委員故波江悌夫氏・ご遺族波江巌氏
12．歴代副会長代表・錢高輝之氏
13．名誉正会員代表・池田宮彦氏
14．多年役員並に委員代表・堀口甚吉氏
15．多年評議員代表・今村騰氏
16．多年委員代表・山田忠顕氏
17．図書出版代表・小林清氏
18．展覧会代表・海上静一氏
19．講習会講師代表・政岡基次氏
20．工高生デザインコンクール代表・杉本裕氏
21．多年支部役員代表・池田総一郎氏
22．後援団体代表・日本建築学会会長坪井善勝氏
23．「建築と社会」誌・出版図書印刷会社
　代表・網野栄氏
24．多年勤続事務局長代表・手島政男氏
25．多年勤続事務局職員代表・安藤省三氏
26．多年勤続事務局嘱託代表・吉田晃氏
27．会員グループ代表・山本茂氏



11



12



13



14



15


16


17


18


19


20


21


28

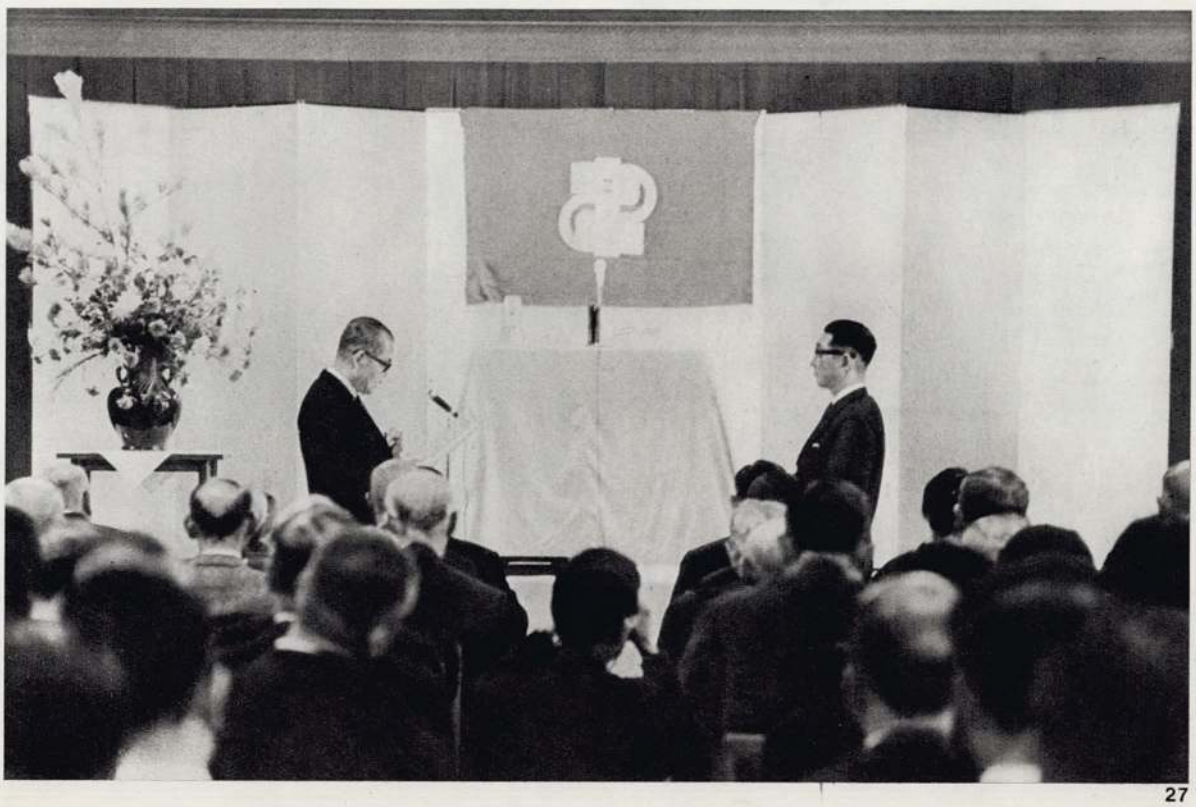

29


30

28．建設大臣祝辞（高木建設技官代読）
29．日本建築学会会長祝辞（坪井善勝氏）
30．表彰者代表あいさつ（竹腰健造氏）


22


23


27


24


26 25



31



32



33

祝賀会

42．3．30．於大閤園

31．塚本猛次記念事業委員長のあいさつ
32～42．祝賀会パーティ風景



34



35



38



39



40



36



41



37



42



43



44



45

物故会員慰霊祭

42．5．13．於中央公会堂

43．祭主祭文奏上・東畑会長
44．遺族代表謝辞・尾崎吉文氏
45．建設業界代表・銭高繁之氏の玉串奏奠
46．黙禱



46



47



48



49



50

47. 遺族玉串奏奠
48. 遺族控室風景
49. 慰霊祭風景
50. 茶話会風景
51. 中央公会堂会場入口
52. 記念撮影風景
53. 記念撮影後の語らい



51



52



53

関西の建築50年回顧展

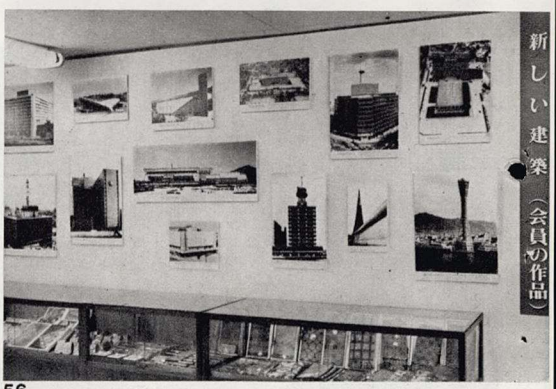
42．3．30～42．4．4．於阪神百貨店



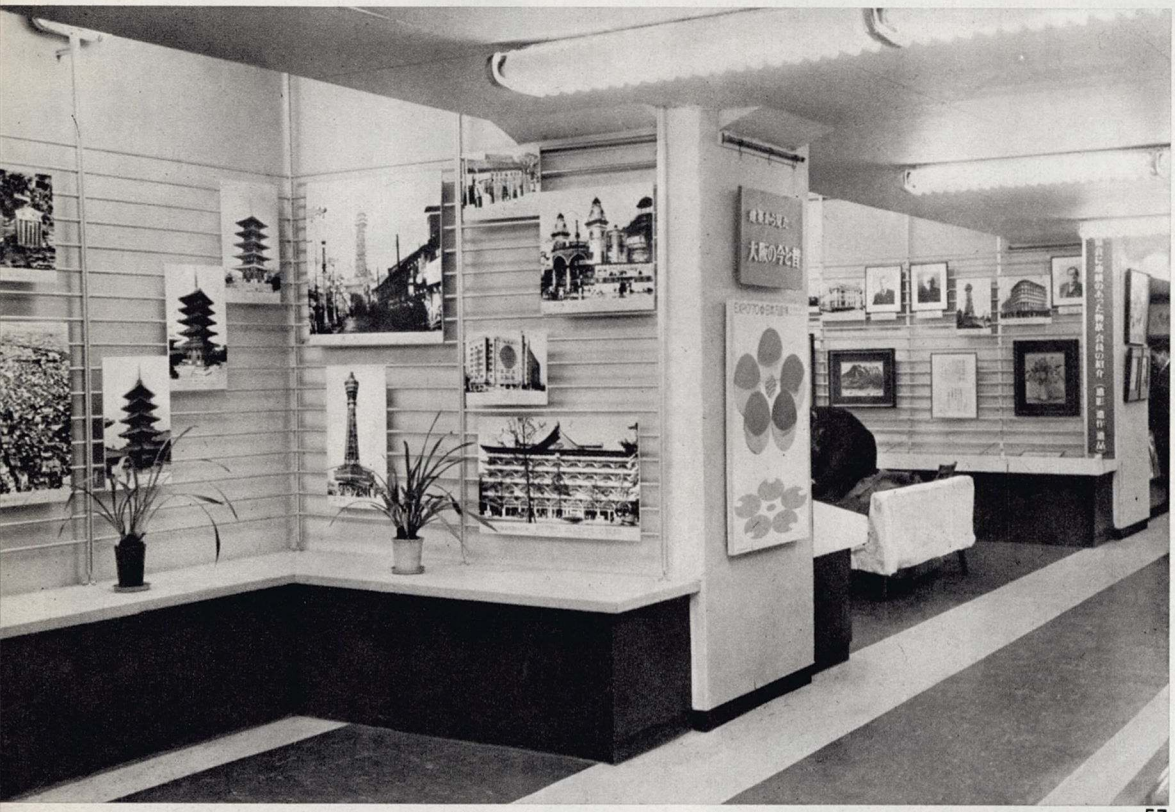
55



54



56



57



58

54．開展のテープを切る東畑会長
55．関西の建築と社会50年の歩み
56．建築からみた大阪の今と昔の展示
58．物故会員の遺作展示会場



59



60



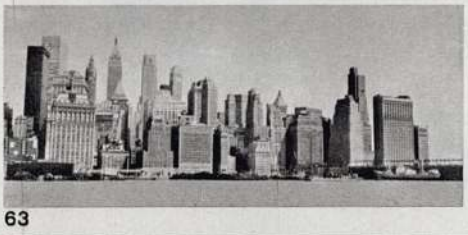
61

モントリオール万国博視察

42. 5. 24～42. 6. 6



62



63

記念講演会

42. 7. 24. 於関電ホール



65

59. 視察セミナー第1回（於大阪科学技術センター）
60. 出発直前（羽田空港にて）
61. モントリオール万国博・アメリカ館
62. 現地セミナー後の懇親会風景
63. ニューヨーク
64. モントリオール万国博視察報告会（記念講演会）
65. 同報告会での講師団



64



66



67

ボーリング大会

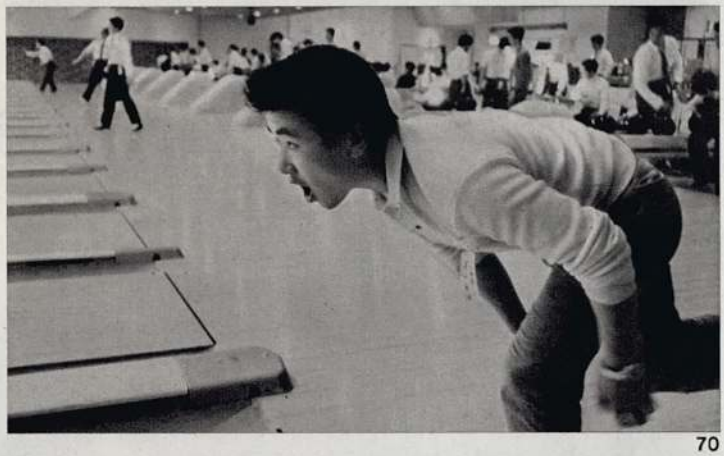
42. 4. 21. 於野田ボーリングセンター



68

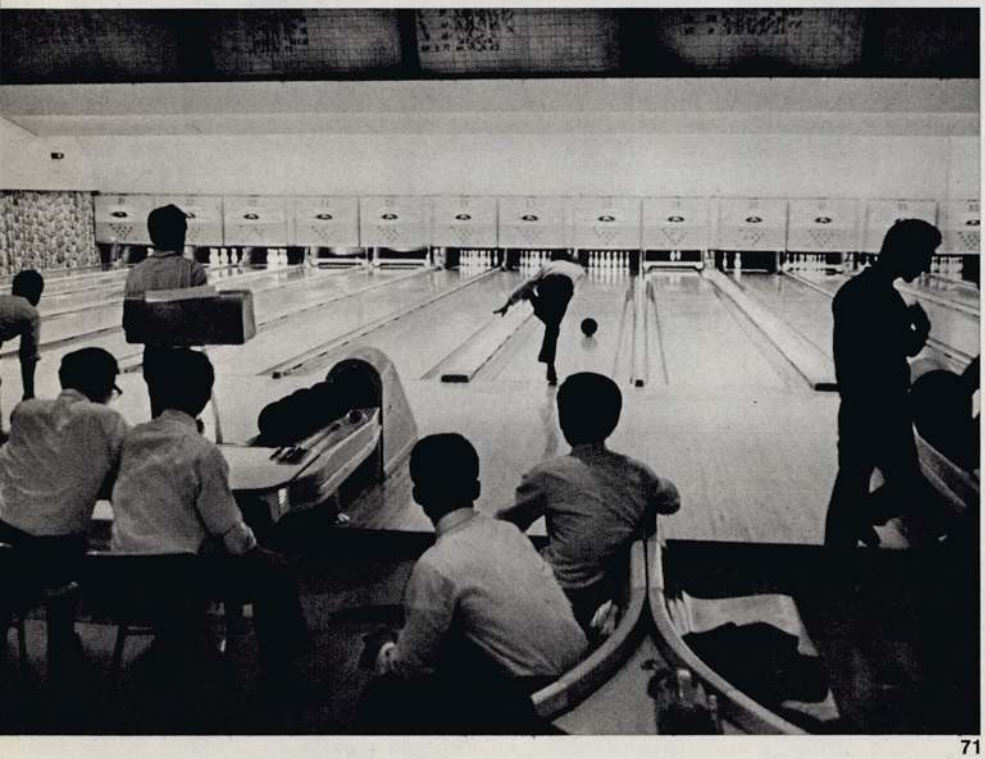


69

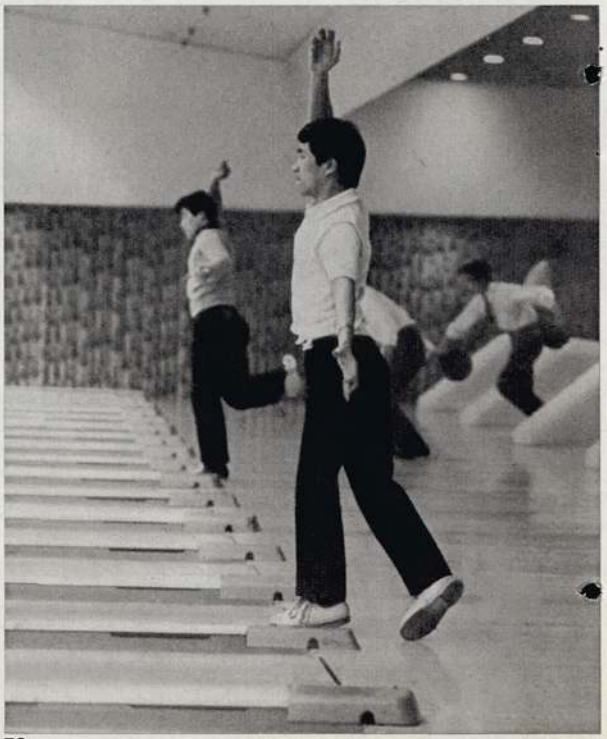


70

68. 増井総務委員長のあいさつ
69. 大会風景
70. 競技風景
71. 同　上
72. 同　上



71



72



73



74

懇親ゴルフ大会

42．3．29．於鳴尾ゴルフクラブ

73．村野藤吾実行委員会会長あいさつ
74．賞品授与風景



75

ボーリング大会

75．ボーリング大会賞品授与前の風景
76．ボーリング大会
77．競技風景



76



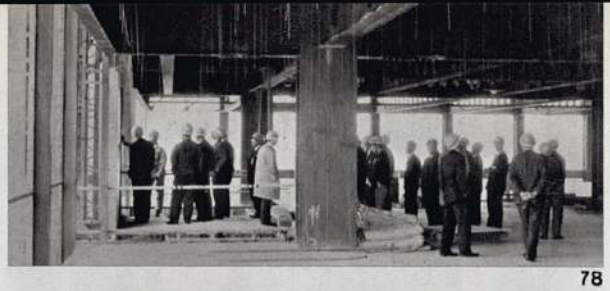
77

特別見学会

東京見学会

42. 3. 22～23.

78. 東京・霞ヶ関ビル見学
79. 東京・国立劇場見学
80. 東京・赤坂離宮見学
81. 同　上


78


79


80


81

淡路と高松見学会

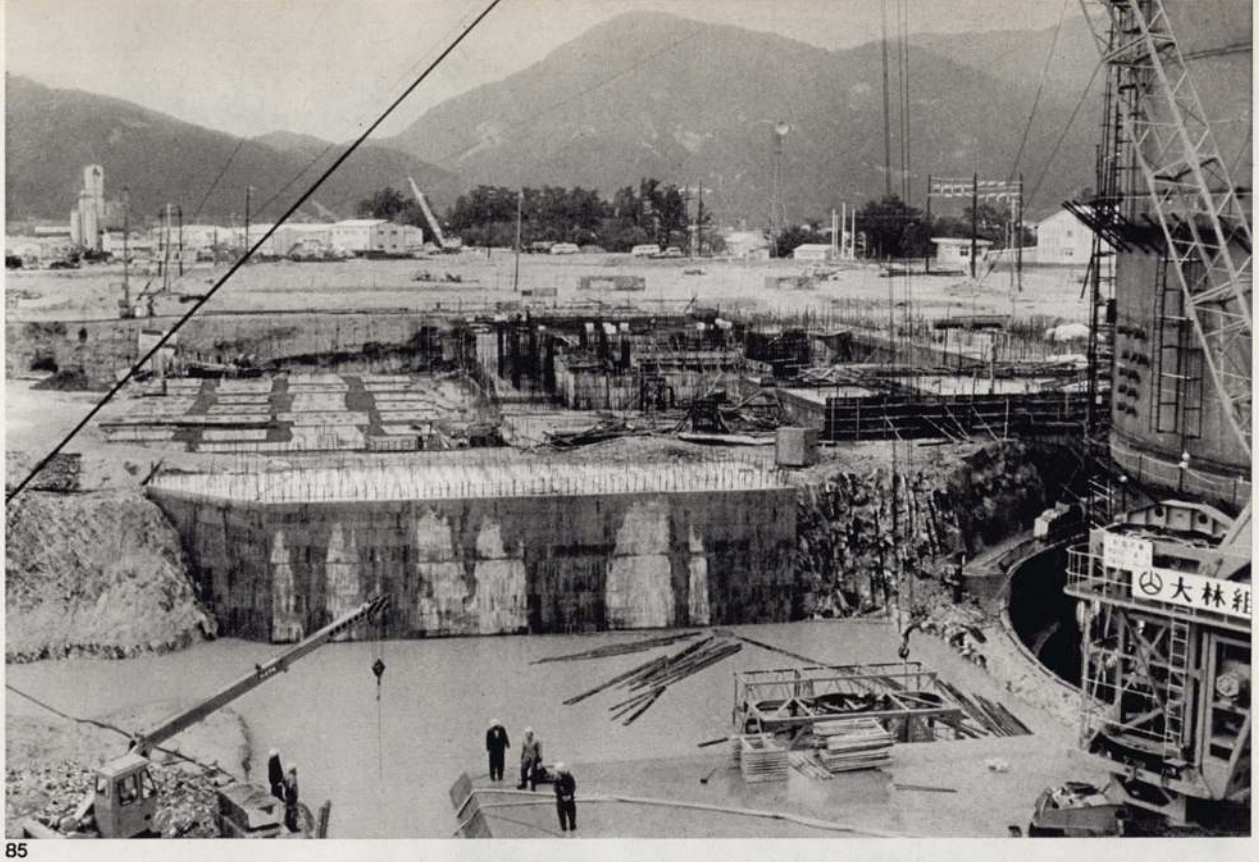
42. 4. 27～29.

82. 淡路と高松・戦没学生の碑見学
83. 淡路と高松・高松体育館見学
84. 淡路と高松見学会参加者


82


83


84



85



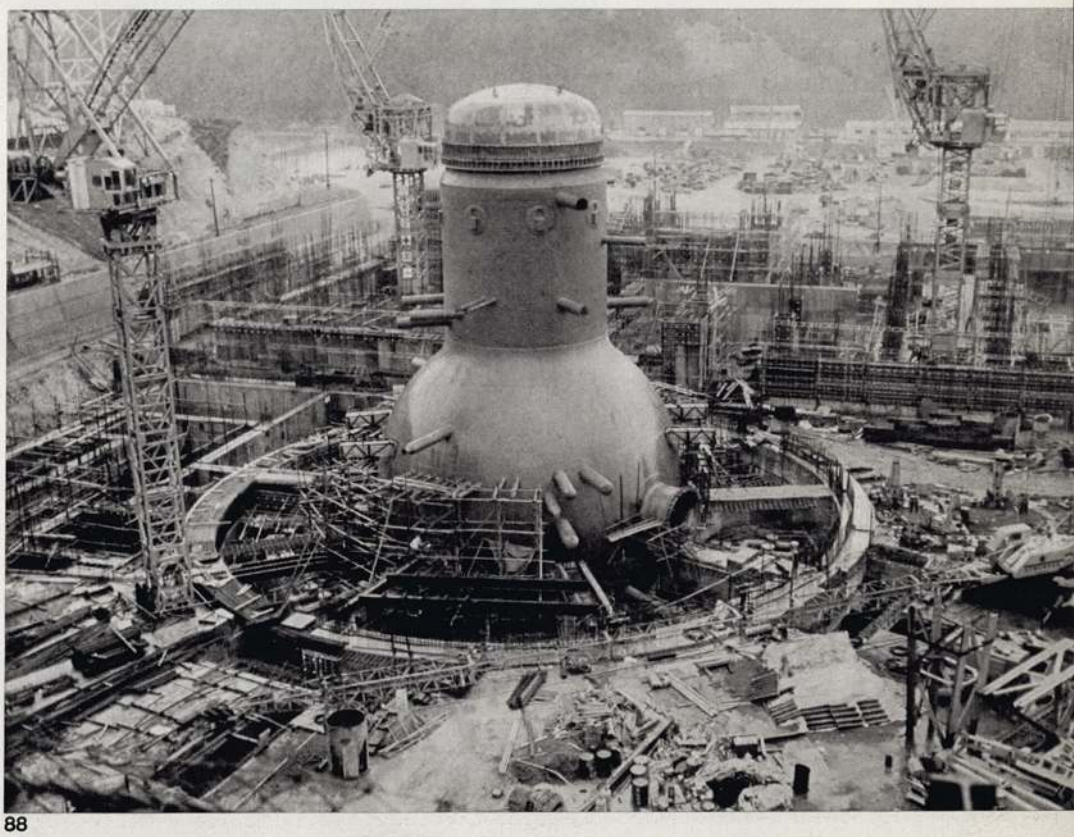
86



87

日本板硝子工場と原子力発電所見学会

42. 10. 27～28



88

85. 関西電力美浜発電所見学
86. 日本板硝子舞鶴工場内での説明会
87. 原子力発電所見学での説明会
88. 日本原子力敦賀発電所見学

桂・修学院離宮と茶室見学会

42. 6. 20



89



90



91

89. 桂離宮
90. 見学風景
91. 裏千家茶室前での参加者
92. 表千家茶室見学



92

故権藤　貢 之霊
故佐竹　信次 之霊
故佐藤松太郎 之霊
故佐伯　徳吉 之霊
故雑賀良之助 之霊
故坂本　譲 之霊
故桜井　督平 之霊
故沢田　清一 之霊
故志村　安馬 之霊
故宍戸　秋生 之霊
故下浦　光衛 之霊
故荘田平五郎 之霊
故新名　種夫 之霊
先代故須賀豊治郎 之霊
故末沢喜久男 之霊
故祐安　薫信 之霊
故鈴木　冬蔵 之霊
故瀬川　廉平 之霊
故関場　茂樹 之霊
故園部　茂 之霊
故田尻稲次郎 之霊
故田中亀太郎 之霊
故田中　綱 之霊
故田中　稔朗 之霊
故田中　譲 之霊
故伊達　多平 之霊
故高岡　逸平 之霊
故高田　昌平 之霊
故高野瀬藤太 之霊
故高橋　是清 之霊
故高橋　三男 之霊
故滝野鞆太郎 之霊
故竹下　正也 之霊
故武田　五一 之霊
故立島　幸助 之霊
故辰巳吉之助 之霊
故谷川　敬一 之霊
故谷口　廉児 之霊
故玉川　卓一 之霊
故津村　芳三 之霊
故築紫　太郎 之霊
故辻本　勇 之霊
故坪井　誠一 之霊
故寺川　三郎 之霊
故天満　勇 之霊
故徳政　金吾 之霊
故富田　勘治 之霊
故豊島　停雲 之霊
故内藤　太郎 之霊
故中井　孝夫 之霊
先代故中川　辰蔵 之霊
故中村角之助 之霊
故中村　英夫 之霊
故中山　義雄 之霊
故永田善次郎 之霊
故永元　乙吉 之霊
故長田増次郎 之霊
故成富　輝雄 之霊
故二階堂禎典 之霊

故佐々木源之助 之霊
故佐藤　彰美 之霊
故佐藤　茂助 之霊
故斎藤　敏夫 之霊
故酒井藤一郎 之霊
故坂野　兼通 之霊
故貞包　悦一 之霊
故清水　釘吉 之霊
故設楽　貞雄 之霊
故篠原　清孝 之霊
故下田　高三 之霊
故ジョサイヤコンデル 之霊
故須恵　徳朗 之霊
故須藤　員雄 之霊
故菅谷　一郎 之霊
故鈴木　省三 之霊
故鈴木与五郎 之霊
故瀬戸　文吾 之霊
故銭高　善造 之霊
故園部　文雄 之霊
故田代　守次 之霊
故申中　慶三 之霊
故田中　績 之霊
故田中　豊輔 之霊
故多賀　鈴彦 之霊
故伊達陶二郎 之霊
故高岡　信郎 之霊
故高寺市之介 之霊
故高山　長幸 之霊
故高橋　太郎 之霊
故高橋　茂 之霊
故竹内　兼次 之霊
故竹田　延朗 之霊
故武富　英一 之霊
故立木　誠三 之霊
故辰巳　吉政 之霊
故谷口　徳政 之霊
故谷村　信吉 之霊
故津田　悦治 之霊
故都藤次三郎 之霊
故佃　忠蔵 之霊
故筒井　二郎 之霊
故鶴丸　伝右 之霊
故寺沢　林吉 之霊
故土井助三郎 之霊
故富坂　昇 之霊
故友田　薫 之霊
故鳥越　良一 之霊
故直江　弘 之霊
故中栄　徹朗 之霊
故中島　彦六 之霊
故中村　喜七 之霊
故中村　庸二 之霊
故永田三次郎 之霊
故永沢　清信 之霊
故長尾　繁治 之霊
故鍋島　義忠 之霊
故南京仙太郎 之霊
故二宮　裕造 之霊

故佐々木　茂 之霊
故佐藤　正二 之霊
故佐納　盛登 之霊
故斎藤　久孝 之霊
故坂本己之助 之霊
故作山　義弼 之霊
故真田　光正 之霊
故清水芳次郎 之霊
故塩崎　政雄 之霊
故柴田　四郎 之霊
故下畑春太郎 之霊
故神保　豊治 之霊
故須賀藤五郎 之霊
故須藤　隼人 之霊
故杉本　助博 之霊
故鈴木　武 之霊
故砂本　清 之霊
故関　一 之霊
故曽弥　達蔵 之霊
故田口　正夫 之霊
故田代　正熊 之霊
故田中　勤 之霊
故田中　進 之霊
故田中　通夫 之霊
故多田　凡一 之霊
故高岩　静 之霊
故高木　正三 之霊
故高野　二夫 之霊
故高橋　栄治 之霊
故高橋　種夫 之霊
故高崎　斉蔵 之霊
故竹内　佐市 之霊
故竹中　利雄 之霊
故巽　純一 之霊
故辰野　金吾 之霊
故谷　隆夫 之霊
故谷口　利常 之霊
故玉川　貫治 之霊
故津田　敏雄 之霊
故塚　安治 之霊
故辻坂信次郎 之霊
故堤　多計士 之霊
故寺井　広義 之霊
故寺西藤五郎 之霊
故徳川　頼倫 之霊
故富田　勇 之霊
故朝永国次郎 之霊
故内藤　功 之霊
故直木倫太郎 之霊
故中川幸太郎 之霊
故中根　亀一 之霊
故中村　信義 之霊
故中村　亮吉 之霊
先代故永田　仁助 之霊
故永野　房吉 之霊
故長尾　勇造 之霊
故成田　一男 之霊
故難波江久通 之霊
故西尾　亮 之霊

故西岡　道信 之霊
故西村　利弘 之霊
故丹羽　七郎 之霊
故根本　繁士 之霊
故野沢　勉 之霊
故長谷川銈五郎之霊
故間　猪三郎 之霊
故畑　政七 之霊
故馬場　英一 之霊
故浜田日出穂 之霊
故林　仙造 之霊
故原田　千歳 之霊
故播野安兵衛 之霊
故久留　弘文 之霊
故平井　英一 之霊
故平林　美彦 之霊
故福井　房一 之霊
故福富　清 之霊
故伏見　紀一 之霊
故藤井　春三 之霊
故藤田友太郎 之霊
故藤田　竜三 之霊
故藤本　好雄 之霊
故古川　豊 之霊
故戸次　秀夫 之霊
故北条　時敬 之霊
故前田　松韻 之霊
故松井　清足 之霊
故松下甚三郎 之霊
故松村　武雄 之霊
故松室　成貞 之霊
故松森　修太 之霊
故三木　作 之霊
故三善　好人 之霊
故皆崎　舜亮 之霊
故宮本　徳一 之霊
故向山友次郎 之霊
故村山　竜平 之霊
故毛利庄太郎 之霊
故本山　彦一 之霊
故森田　茂三 之霊
故森山松之助 之霊
故八尾　金一 之霊
故安永　義章 之霊
故籔本久三郎 之霊
故山口　挺二 之霊
故山添　繁蔵 之霊
故山名　啓介 之霊
故山本鑑之助 之霊
故山本　延次 之霊
故山脇友三郎 之霊
故横井　謙介 之霊
故好井　博明 之霊
故吉川　智 之霊
故吉田　邦一 之霊
故米倉　威夫 之霊
故和田　登 之霊
故渡辺　正治 之霊

故西田　偉三 之霊
故西村　安彦 之霊
故蜷川光太郎 之霊
故野儀久四郎 之霊
故野田　義雄 之霊
故長谷川　真 之霊
故橋本　勉 之霊
故服部万次郎 之霊
故浜　芳雄 之霊
故浜脇　敬蔵 之霊
故林　良信 之霊
故原野　恵助 之霊
故桧垣　武弘 之霊
故姫野　武 之霊
故平塚　鎗吉 之霊
故平松　鶴吉 之霊
故福井　裕 之霊
助福永　謹吾 之霊
故藤井亀之助 之霊
故藤田重太郎 之霊
故藤田　治雄 之霊
故藤谷茂二郎 之霊
故船本　晋 之霊
故古谷　雅一 之霊
故別所　襖 之霊
故本田　義夫 之霊
故牧部　元良 之霊
故松井　光彦 之霊
故松田　亥作 之霊
故松村　雄造 之霊
故松本　禹象 之霊
故丸本　啓叫 之霊
故三橋国太郎 之霊
故光安梶之助 之霊
故宮川総三郎 之霊
故宮本　長治 之霊
故村田　篤 之霊
故樅山連次郎 之霊
故毛利　高明 之霊
故森下　新造 之霊
故森本　光昭 之霊
故八木　盛二 之霊
故矢木　英夫 之霊
故籔内　仁一 之霊
故山川健次郎 之霊
先代故山口半兵衛 之霊
故山田　源蔵 之霊
故山中鹿太郎 之霊
故山本辰五郎 之霊
故山本　正重 之霊
故湯川　浩 之霊
故横田左右衛門之霊
故吉井　長七 之霊
故吉木　久吉 之霊
故吉田　兵蔵 之霊
故米田　外次 之霊
故渡辺　武男 之霊
故渡辺　譲 之霊

故西野　春夫 之霊
故西林　慥爾 之霊
故根来　弘 之霊
先代故野沢幸三郎 之霊
故長谷川五一 之霊
故萩原　貞 之霊
故橋本　実 之霊
故花岡才五郎 之霊
故浜田　茂雄 之霊
故早笄　五朗 之霊
故原田金次郎 之霊
故板東　八郎 之霊
故桧皮　正隅 之霊
故姫野　磨 之霊
故平野　等 之霊
故広田　精一 之霊
故福島　増三 之霊
故福永　貞夫 之霊
故藤井　厚二 之霊
故藤田　茂 之霊
故藤田　元吉 之霊
故藤本　阡夫 之霊
故古市　好威 之霊
故古橋　郷丸 之霊
故北条　時一 之霊
故本間　乙彦 之霊
故増田　熊一 之霊
故松久保敬三 之霊
故松見　智雄 之霊
故松室　重光 之霊
故松本仁重郎 之霊
故三浦　尚史 之霊
故三好喜三郎 之霊
故水上　昌三 之霊
故宮川　豊蔵 之霊
故宮脇　福松 之霊
故村田　小上 之霊
故室原　政興 之霊
故本野　精吾 之霊
故森田　茂 之霊
故森本　三次 之霊
故八島　章 之霊
故安田　保蔵 之霊
故籔中　幸彦 之霊
故山口　正 之霊
故山下　一夫 之霊
故山田　静 之霊
故山本　修 之霊
故山本治兵衛 之霊
故山本由太郎 之霊
故依田新三郎 之霊
故横田　作蔵 之霊
故吉川時三郎 之霊
故吉住　義一 之霊
故吉野　修録 之霊
故和田　友吉 之霊
故渡辺　珍久 之霊
故職員各位 之霊

昭和27年4月にお祀りした霊（567柱）

慰　霊　祭

政岡慰霊祭委員長司会，祭主東畑会長，斎主御霊神社宮司により執行
終了後遺族に茶菓を供して懇談

次　第

1. 参列者着席
1. 神職着床
1. 開式の辞　政岡委員長
1. 修祓　一同起立
1. 招霊（菅掻）一同起立
1. 献饌（奏楽）
1. 斎主祭詞奏上　一同起立
1. 祭主祭文奏上　一同起立
1. 斎主玉串奉奠（奏楽）
1. 祭主玉串奉奠（奏楽）
1. 遺旅玉串奉奠（奏楽）
1. 来賓代表玉串奉奠（奏楽）
1. 撤饌（奏楽）
1. 送霊（菅掻）一同起立
1. 閉式の辞
1. 神職退席

祭主挨拶　東畑会長
遺族代表謝辞　尾崎嘉文殿
遺族記念撮影

当日の出席者

御遺族

阿部君子殿　青木トシ子殿　青山カメノ殿　荒川真佐江殿
井尻八重殿　伊豆倉重子殿　伊東哲郎殿　池田幸子殿
池田達雄殿　池田谷種明殿　泉谷保夫殿　稲角正子殿
今津義勝殿　入山繁子殿　上田八朗殿　小笠原祥介殿
小川波津枝殿　小原とみ殿　尾崎志ん殿　尾崎嘉文殿
大島キミ殿　大道荘市殿　加藤ヲトク殿　加藤久枝殿
加藤よし子殿　神吉和子殿　川崎きみ子殿　紀伊ミドリ殿
木村静江殿　久保イク殿　久保田種吉殿　国枝孝殿
栗原信英殿　小泉守殿　小西スエノ殿　小西裕一郎殿
古藤勝次殿　古林和夫殿　児玉晴代殿　佐野正一殿
佐藤正弥殿　佐野芳枝殿　志垣かほる殿　設楽貞三殿
清水英夫殿　柴谷仁人殿　島田尚一殿　鈴木君子殿
鈴木直枝殿　角野妙子殿　田中政二殿　田辺繁子殿
田辺淳殿　高岡吉敏殿　高戸直子殿　竹内緑殿
武田和子殿　谷口尚武殿　常石晃孝殿　寺西節子殿
戸塚新殿　友田英一殿　中西寿賀子殿　中間喜代殿
仲野富子殿　永田仁助殿　永瀬秀殿　渚房子殿
西尾孝殿　野沢幸三郎殿　野中卓殿　長谷部喜代子殿
林清子殿　原納操子殿　播野よつ殿　古川滋夫殿
本田すえの殿　牧原初子殿　松井梅子殿　松村俊彦殿
松本昇三殿　松本十四夫殿　三浦茂巳殿　三国泰路殿
宮崎義夫殿　元良とよ殿　矢木寿殿　安田善一殿
山口貞子殿　山口澄子殿　山下信雄殿　山外さく殿
山中喜佐子殿　山本成子殿　山本義樹殿　吉崎明殿
和田政男殿　脇山広三殿　渡テル殿

来賓並に会員

植田健殿　打波政信殿　大橋一夫殿　岡橋作太郎殿
岡本弘殿　奥島正一殿　垣内弘殿　木下健三殿
近藤護殿　佐々木保殿　坂内幾男殿　銭高輝之殿
田村史郎殿　塚本猛次殿　東畑謙三殿　中野孝治殿
中原茂殿　中村信夫殿　西村栄一殿　星広文殿
政岡基次殿　松井清開殿　松村志津男殿　松本宇一殿
三宅昭榮殿　道田泰治郎殿　村島彰殿　森川喜代之助殿
安田誠一殿　山本茂殿　鷲尾健三殿　福中定三郎殿
岩崎甚太郎殿

関西の建築50年回顧展

＜3月30日～4月4日＞

於　阪神百貨店2階丸善画廊
総入場者　6,792名

●展　示　品●

1. 関西の建築と社会50年の歩み（写真入年表）
2. 建築から見た大阪の今と昔
   大阪府庁舎　大阪市庁舎　大阪駅　天王寺駅　中之島　御堂筋　戦災と復興　天王寺五重塔　昔の千日前　大阪歌舞伎座　通天閣　心斉橋　心斉橋筋　道頓堀　個人住宅　共同住宅　浪花名所政府より新橋の風
3. 大阪の古い建築
   泉布観　造幣局　眺望閣　凌雲閣　日本銀行大阪支店　大阪朝日新聞社
4. 協会の創立発展に特に功績のあった物故会員の紹介
   - 初代会長（創立委員）　工学博士　片岡　安氏
     代表作品　大阪毎日新聞社　遺作遺品　掛軸，胸像
   - 元副会長（創立委員）　工学博士　武田五一氏
     代表作品　京都府記念図書館　遺作遺品　卒業証書，スケッチ，扇子等
   - 元副会長（創立委員）　池田　実氏
     代表作品毛皮センター（元せきぐち）　遺作遺品　短冊，集印帖
   - 元理事（創立委員）　波江悌夫氏
     代表作品　大阪城天守閣　遺作遺品　自画像（色紙），旅券，短冊
   - 元副会長（創立委員）　設楽貞雄氏
     代表作品　通天閣　遺作遺品　掛軸，辞令
   - 前会長　工学博士　尾崎久助氏
     代表作品　東京日本銀行本店　遺作遺品　油絵，色紙，銀時計，矢立
   - 元名誉会員　長谷部鋭吉氏
     代表作品　住友ビル（旧）　遺作遺品　南画
   - 元副会長　安井武雄氏
     代表作品　大阪ガスビル（旧）　遺作遺品　油絵，デッサン
5. 協会会員のなしとげた近代建築の粋
   関電ビル　新住友ビル　尼崎市役所　神戸ポートタワー　大阪富国生命ビル　奈良県庁　堺市民会館　松下電器体育館　大阪ロイヤルホテル　宝塚カトリック教会　甲南大学講堂兼体育館　国立京都国際会館　大阪ガスビル（新）
6. そ の 他
   会誌「建築と社会」の変遷　出版書物のいろいろ

モントリオール万国博視察

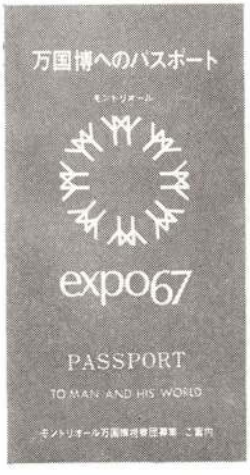
モントリオール万国博視察団の企画から解散まで

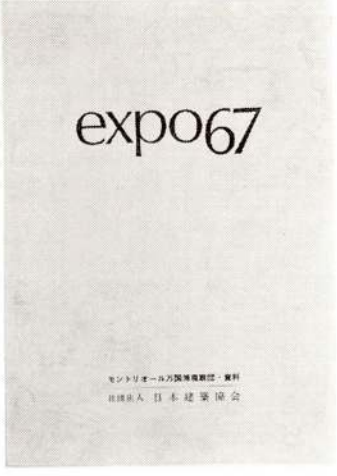
昭和41年7月9日，第4回事業委員会において，50周年記念事業として，モントリオール万国博視察団企画が提案され，担当小委員会（主査：

矢野豊作，委員：尾亀清四郎，田森信夫，小泉豊，鈴木洋也，坂内幾男）で企画の検討がおこなわれた。10月13日，第6回理事会で視察団事業が承認された。募集案内書（鈴木，坂内委員作成）を10月26日に発送（10,000部）。42年1月30日第1回幹事会（幹事長，中原茂ほか17委員）で資料，セミナー，旅程，アンケート各委員会を設けて具体的な研究に着手した。4月5日，於大阪科学技術センター8階小ホール「視察団結団式」「第1回セミナー」を視察団団長ほか役員の選任と，西山卯三氏を講師で開催した。5月15日，於前記センター401号室「第2回セミナー」を開催，講師中川秀夫氏で，視察参考資料頒布，現地セミナーの質問項目など全ての視察準備を完了した。5月24日3時30分より「歓送会」を，於羽田東急ホテル7階大ホールで開催した。東畑会長の歓送の辞，旅行中の注意事項などの説明などで会を終り，7時40分，カナダ太平洋航空402便で羽田空港を，バンクーバへ出発した。東畑会長ほか多数の見送りをいただいた。バンクーバ到着後は別記旅程により行動した。モントリオール万博視察では数々の収獲を得て，現地セミナー（建築と社会昭和42年8月号参照）も成功裡に終り，ニューヨークなどアメリカの主要都市での視察を経て，ロスアンゼルスを6月5日，日航51便4時25分発でハワイ経由6月6日羽田空港5時25分到着，税関後自由解散した。7月24日「モントリオール万国博視察報告会」に引続き「視察団解散式」於関電会館で65名の視察団員が集い，それぞれ旅行中の思い話などで懇親を深め盛会のうちに散会した。

【視察団・日程表】 ■昭和42年5月24日（水）→6月6日（火）・14日間

日次	月日（曜）	地名	現地時刻	交通機関	摘要	宿泊地
1	5月24日（水）	東京発 バンクーバー着	1940 1220	カナダ太平洋航空 402便	到着休養後市内見学	バンクーバー
2	5月25日（木）	バンクーバー発 モントリオール着	0915 1750	カナダ航空 850便		モントリオール
3	5月26日（金）	モントリオール			万国博視察 （セミナー開催）	〃
4	5月27日（土）	モントリオール			〃	〃
5	5月28日（日）	モントリオール			（設計，設備，施工等 各グループ毎に視察）	〃
6	5月29日（月）	モントリオール			（自由研究見学）	〃
7	5月30日（火）	モントリオール発 ニューヨーク着	0900 1025	カナダ航空 560便	午前中 自由 到着後 市内視察	ニューヨーク
8	5月31日（水）	ニューヨーク			ニューヨーク博跡利用 状況視察	〃
9	6月1日（木）	ニューヨーク発 ワシントン着		バス	フイラデルフイア，ボルテイモア視察後ワシトンへ	ワシントン
10	6月2日（金）	ワシントン発 シカゴ着	1500 1542	アメリカン航空 355便	ワシントン市内視察	シカゴ
11	6月3日（土）	シカゴ			シカゴ市内視察	シカゴ
12	6月4日（日）	シカゴ発 ロスアンゼルス着	0950 1139	アメリカン航空 191便	到着後 市内視察	ロスアンゼルス
13	6月5日（月）	ロスアンゼルス発	1000	日本航空	空路 東京へ	機中泊
14	6月6日（火）	東京着	1725	51便	羽田税関後 解散	





モントリオール万国博視察団班別名簿（順不同・略敬称）

〔1 班〕
（団長代理）
吉田安三郎
山崎正雄
（副団長）
岩崎甚太郎
遠山勇吉
（班 長）
西岡武治
森脇久嘉
高瀬昇明
光井良一
大和博一
上田博己

〔2 班〕
（班 長）
三木敏男
富田勇
梁瀬正男
石井正夫
高橋明
外山祝

〔3 班〕
（班 長）
畠中繁
宮崎弘夫
中本弘夫
森本光雄
大下順三郎
河野正男
山本博
湯浅政治

〔4 班〕
（事務局長）
谷口尚武
太田進一
（班 長）
戸田尚作
高砂正明
池沢寛
田中謙次
市田久策
西本良彦
石見武春
岩橋貞夫

〔5 班〕
（副団長）
中原茂
（班 長）
内藤一真
岡田圭司
来栖勲
釜瀬広志
小島一夫
杉江直己
西田芳弘
都築周
中東達男

〔6 班〕
（副団長）
島田啓太郎
木下正利
（班 長）
能勢次郎
内野憲次
川瀬二郎
堀木宗詮
小坂井正夫
汲川弥太郎
柴田周良
平松敬三

〔7 班〕
（班 長）
鈴木洋也
浜田守
岡田聿之
小原維彦
上田良治
中村静夫
出田三郎
平井十郎
木村秀志
森田恒次

〔8 班〕
（顧 問）
西山卯三
西山和子
（班 長）
山本純孝
中塚教明
盛道雄
盛久子
好川博
平井堯
三輪泰司
吉野正治

〔9 班〕
（班 長）
武曽一郎
村田幾久夫
藤田勇三
越智隆晴
松本憲夫
村田鞆二
三谷忠義
吉竹信利
宮田礼彰
山出敬二

〔10 班〕
（班 長）
祖川鶴市
山田正明
有永計一
藤田勉
井ノ口政雄
田部公文
佐々田利雄
松井雄三
丸橋博行
中川菊雄

〔11 班〕
（団 長）
高橋慶夫
小笠原祥光
（班 長）
今西茂雄
中野幸雄
今西絢子
末政清子
小林盛人
田村魏
木村隆
藤井良隆

（事務局）
山田唯美
（日本交通公社海外旅行関西営業所）
松井澄
福本孝三
山田弘
太原武彦
（カナダ太平洋航空大阪支店）
窪谷憲夫

記　念　講　演　会

（モントリオール万国博視察報告会）

＜7月24日（月）午後2時～5時＞

会　場　関電ホール
出席者　300名
記念講演　「モントリオール万国博を見て」
工学博士　西　山　卯　三氏（京都大学教授）

（講演要旨）

モントリオール万国博をゆっくり見るには少なくとも1週間から10日はかかる。カナダの人たちは，昼間の勤めがすんでから毎日見にくる人もあるようで，実に気ながに見ているようだ。私は3日間行ったが，ある1日は何かの記念日とかで86万人がはいったといわれていたけれども特に混雑したような気がしなかった。これは会場周辺が水に囲まれてオープンスペースが広い関係もあるが，人間が違うことがおもな原因ではないだろうかと思う。日本人はすぐにセカセカするが，向うの人は落着いて，長い行列をつくっていてもむしろ行列を楽しんでいるようで，恋人たちはキスをしながら楽しんで順番を待っている。いかにも万国博を楽しんでいる感じで日本のように押合いなどはしない。日本人のように何か一つでもよけいに見なければ損だという気持ちはないようだ。1970年に果して日本人はこのような心境になれるかどうか心配である。万国博を見た感じはあらゆる国が競い合っているということ，それを見ることが焦点になっている。

カナダでは各企業の業者もテーマのために非常な力を入れていることがよくわかった。その点では日本館はまずいと思った。それから万国博のふんいきをかもし出すために建物の外観が大事だと思ったが，しかし内部の展示では驚くほどのものはなかったように思う。展示方法は劇場形式のもの（対象が動き人は動かないで見せる方法）にしても，博物館形式のもの（人を歩かせながら展示物を見せる方法）にしても1日に入場者の十分の一くらいを　ばいている程度で，見られない人は不平不満が起る。日本の万国博でも新しい展示方法でできるだけ多人数に見せなければならないと思った。これで入場者を満足させることができれば大成功だと思う。大阪の場合〝お祭り広場〟は量的に入場者を消化しながら今までになかった形式で展示をする方法を考えなければならないが，わが国では展示といえば広告などによって発達してきたものだ。大阪の場合今までの観念ではなく，展示の形式を新しくしなければ無意味である。モントリオールでは見物して疲れた人々のために〝ミニレール〟がある。これは休息しながら会場を見せる施設でスピードと観覧を兼ねた施設だが，日本ではその計画ができていない。装置道路では休息ができない。モントリオールの展示は経費が安く，おそまつな感じがするが，内部の展示がおそまつになっては失敗する。最後に，万国博は現代のお祭りだと私は考えている。世界中から人々が集ってきて楽しそうにしている。人々はその環境に，ふんいきにひたり切って楽しんでいる―そういったものである。1970年のわが国では万国博を楽しむようなふんいきになっているかどうか。世の中が平和で人々が千里の会場へ出かけて，楽しんで時間をすごせるかどうか―これが万国博が成功するか不成功に終わるかのカギになるものと思われる。

「モントリオール万国博会場諸施設について」（スライド併用）
高　橋　慶　夫氏（大阪建築事務所社長）
谷　口　尚　武氏（大林組常務取締役）
三　木　敏　男氏（奥村組建築営業部長）
山　本　純　孝氏（安井建築設計事務所設計部長）
梁　瀬　正　男氏（近畿電気工事工事部長）
モントリオール万国博（映画）（株式会社　大林組提供）

特　別　見　学　会

第1回：東京の新建築見学会

この見学会は定員（50名）の3倍以上の申込があり予定を変更して3班に編成して延149名の方々に参加願った。

＜3月22日（水）23日（木）＞

〔行　程〕
第1班
第1日　皇居半蔵門前集合（10.00～12.00）新宮殿現場見学→解散
第2日　集合東京駅(丸の内)前発9.30→国立劇場見学(10.00～11.00)→千代田生命本社ビル昼食および見学（11.30～1.00）→霞ケ関超高層ビル見学（1.30～3.00）→東京駅前着3.30→解散
第2班
第1日　皇居半蔵門前集合（2.30～4.30）新宮殿現場見学→解散
第2日　（第1班と同じ行程）
第3班（2月23日（木）1日の行程）
皇居半蔵門前集合（10.00～12.00）新宮殿現場見学→国立劇場見学（12.30～1.30)→霞ケ関超高層ビル見学(1.30～3.00)→赤坂離宮見学（3.30～4.50）→東京駅前着5.20→解散

参　加　者（敬称略）149名
阿部亥十郎，赤井　保，浅江忠三郎，一圓　俊郎，井上　仁郎，井上　民治，井上　博建，井上　実，井上利三郎，井川健太郎，井手　重一，井手　正雄，井戸田国松，伊丹　久吉，伊東　健，伊藤　一郎，家村　佳成，生田喜一郎，石上　利吉，池　保，今井　三郎，岩佐　直則，岩住平治郎，上田　良治，上原　孝夫，植田　正一，内田　成之，瓜本　信之，小川　忠蔵，小田健治郎，小畑　幹雄，尾亀　住子，尾亀清四郎，大内　茂，大頭　隆雄，大下順三郎，大野　義輝，大東　一三，大森一太郎，岡田　孝男，岡田　聿之，岡橋　晴男，岡村　忠一，岡本　弘，岡本　博信，加藤　太郎，加藤　恒郎，加藤　毅夫，鍛治千代松，景山　正明，笠井　満夫，柏岡十三介，金子　敏男，紙谷清太郎，河野　正男，河東　義方，岸　清，岸本　昌三，久保田種吉，窪田　祐，黒川　己喜，小杉荒五郎，小西　元二，佐竹　鉄也，佐藤　四郎，斉藤　正義，酒井　徹郎，四方　靖郎，柴田　良弘，末政　清子，菅　陸二，杉村栄次郎，杉村正二郎，関原　猛夫，田坂　朋美，田島　武男，高田　秀三，滝腰　清政，竹内　潮，立花　量吉，築山　和雄，時山竜太郎，富山　有敏，友谷　信，直川　時雄，中垣　智，中出　俊郎，中島　和男，中島　一，中村　金三，中山　耕一，仲井　俊博，仲西孝子郎，長田　克己，西川　健一，根本　圭介，馬場　勇，林野　全孝，原川　一巳，日比与太郎，平田　一夫，平田作太郎，福田万亀雄，福田　雅人，藤原紀久雄，藤原　俊恭，藤村紀久雄，北後　寿，星　広文，星野　二郎，星野　光雄，細川　一雄，前野慶太郎，正岡　隆市，舛　賢治郎，増野　有蔵，松井　邦彦，松井　宗一，松下　一郎，松田　郎三，松本　儀八，松本　敏広，松本　与作，三上喜久雄，三木　敏男，三島　国男，三原　清敬，光安　義光，宮後　健，宮崎　俊宏，宮本　保治，向井　正也，元木　貞次，守田　浩，森上助二郎，森田　嘉一，森田　孝雄，八尾　実，安松谷隆志，山口　吾郎，山路利一郎，山出　敬二，山本　茂，吉田　邦彦，吉田　正春，吉田安三郎，和田　哲夫，若林　繁吉，渡辺　武士
事務局（福中，山田，三木，東出）

●上記見学会につきましては，鹿島建設殿，竹中工務店殿，大成建設殿清水建設殿に多大のご協力をいただきました。

第２回：高松の新建築と淡陶タイル見学会

＜４月27日（木）28日（金）29日（祭）－２泊３日＞

会　費　6.500円

【行　程】―全行程貸切バス１台使用―

第１日　大阪発8.30→神戸(長田)フェリー乗場10.00～10.30発→淡路浦港11.40→州本→福良12.30～1.30発→鳴門観潮（観潮船内で昼食)→福良着2.3→淡陶タイル淡路工場見学(3.00～4.30)→戦没学生の碑見学（4.50～5.30）→宿舎，やぶ万着6.00

第２日　宿舎やぶ万発8.30→阿那賀フェリー乗場9.00～9.30発→鳴門着10.00→高松駅前コトデンホテル着11.30（同所１階ホールで昼食）出発12.30→香川県立体育館見学（12.30～1.20）→香川県文化会館見学(1.30～2.20)→香川県庁舎(2.30～3.20)→百十四ビル見学(3.30～4.30)→宿舎庵治観光ホテル着5.00

第３日　宿舎庵治観光ホテル発9.00→小比賀邸見学（10.00～10.40）→栗林公園自由見学（11.00～11.50）→高松駅前コトデンホテルで昼食（12.00～12.30）→高松港フェリー乗場着12.40，乗場発1.06→宇野2.00→岡山2.40→姫路4.10→神戸5.20→大阪駅前着6.30→解散

参　加　者（敬称略）22名

審　忠夫，今林美津江，折戸　興市，奥田　収，大林　幹夫，大砂　輝男，江畑　克己，岸本　静和，黒田　哲朗，黒田　政光，近藤　護，酒井　徹郎，柴田　敏春，菅沼　道次，高松　俊王，高宮　修，中村　明，原田　奉紀，松本　桂三，柳原　達也，横田　文雄

事務局（福中）

●上記見学会につきまして淡陶株式会社殿および地元日建設計工務株式会社殿，竹中工務店殿ご関係各位に多大のご協力をいただきました。

第３回：桂離宮，修学院離宮，表千家，裏千家の茶室を見る会

＜６月20日（火）＞

この見学会は種々の制約があり，より多くの会員に参加願うため６つの班別のコースを選定いたしました。

A班	桂離宮と裏千家茶室	9.00～2.00
B班	桂離宮と表千家茶室	11.00～3.30
C班	桂離宮	1.30～2.30
D班	桂離宮	3.00～4.00
E班	修学院離宮と表千家茶室	11.00～3.30
F班	修学院離宮	3.00～4.30

会　費　ＡＢＥ班のみ300円（昼食代）

解説者　岡田孝男氏（帝塚山短大教授）

参　加　者（敬称略）100名

A班（15名）　池下　進，浦谷　治郎，小川　博三，杉村栄治郎，竹田　孝吉，中村　篤郎，西村　清，藤井　定，本郷　聡，松田　実，三木経一郎，山本　憲三，山中　敬，吉田　滋，米田　芳松

B班（15名）　秋吉　富夫，岩住平次郎，大橋　一夫，川村　統之，黒川　己嘉，崎山　宗威，富田　晋作，西田　一，能登路亨之，橋本　昌和，平井　種一，真崎南海男，村尾　一彦，村上　朗，山田　一義

C班（12名）　浅田勝太郎，安達　義晴，石川　晴夫，石橋　行男，尾路　義一，河津喜之助，古郷　康雄，下村　健治，中村　隆義，藤原　直樹，堀江　重光，柳　良治，

D班（９名）　阿部亥十郎，池村元之助，尾亀　住子，叶　利夫，小島　弘，坂井　茂信，野瀬孝太郎，橋本　泰弘，吉田　千秋

E班（22名）　東　介教，石井　実，家村　佳成，小川　忠義，大野　経男，大野　孝，加藤雄三郎，上加世田保，小森　紘次，里村　年人，白鹿　正徳，田畑　久雄，高宮　修，築山　和男，西　次生，七条　嘉治，豆田　徳子，光原　均，毛利　宣之，森田　久雄，山仲　康夫，横田　耕一

F班（23名）　井上　民治，市居　浩一，今井　雅博，今西　寿雄，大海　一雄，大鳥居総夫，奥村　正吉，鎌田　英俊，小柴　徹也，江津　照光，近藤　正芳，近藤　護，坂本勝比古，椎原　毅，都築　利夫，辻　増三，戸川　泰彦，中野　博之，中野　洋子，長山　昶，山下　司郎，山本　泰雄

事務局（福中，岩崎，山田，三木，北川）

●本見学会につきまして竹中工務店中出俊郎殿，同京都支店殿に多大のご援助をいただきました。

第４回：原子力発電所建設現場と硝子工場見学会

＜10月27日（金）28日（土）＞

会　費　A班　2.000円　B班　500円（第２日目のみ）

【行　程】―全行程貸切バス使用―

第１日（27日）

大阪発8.00→日本板硝子舞鶴工場着昼食および見学(12.00～4.00）→宿舎，美浜・ホテル銀泉着5.00夕昼後懇親会―宿泊

第２日（28日）

宿舎発9.00→関西電力美浜発電所見学（10.00～12.00）→昼食→日本原子力敦賀発電所見学（1.00～3.00）→敦賀発3.30→大阪駅前着7.30→解散

参　加　者（敬称略）30名

A　班　井村三太郎，飯田　賢次，今井　平，今井　雅博，岩下　明正，宇野　勇，植木文之助，内野　憲次，大森一太郎，岡村　忠一，喜多　聖泰，佐藤　和彦，竹花　末春，富田　勇，中村　信夫，鍋野　松男，伴野　貞三，前野　良規，政岡　基次，村尾　一彦，保田　兵衛，山村多計士，山本　真一，横田　文雄，吉田正次郎

B　班　伊藤　方一，島田啓太郎，大橋　一夫

事務局（岩崎，吉田）

・本見学会につきましては，竹中工務店殿，大林組殿および日本板硝子（株）大阪支店殿より多大のご後援をいただきました。

懇親ゴルフ大会

＜３月29日（火）スタート８時→５時解散＞

18ホールメダルプレイ

会　場　鳴尾ゴルフ倶楽部

会　費　6.000円

参加者並に成績

氏名	H	N	入賞	氏名	H	N	入賞
水間徳太郎	25	65	(１)	渋谷　幸雄	16	67	(２)
松岡　照夫	14	68	(３)	佐治　誠次	19	70	(４)
原田　守蔵	25	72	(５)	杉本　豊次	28	73	(６)
竹村　吉高	27	73	(７)	岩住　欣一	12	73	(８)

木村	留雄	28	73 (9)	岡田	昌治	13	73 (10)
日景	一郎	18	74 (11)	吉竹	信利	27	74 (12)
本田	令三	8	74 (13. B.G.)	田中	弘	22	74 (14)
松本	大平	28	74 (15)	中野順次郎		25	75 (16)
岩住平次郎		16	75 (17)	伊東	正也	26	75 (18)
今西	寿雄	25	75 (19)	柏岡十三介		12	75 (20)
雑賀	孝夫	16	75	伊藤	和美	26	75
片岡	好一	23	75	金森	梁雄	28	75
伊藤	重夫	27	76 (25)	今村	騰	17	76
佐藤	辰夫	12	76	橋本	慎蔵	25	76
尾崎	吉久	22	76	中橋	兵次	16	76 (30)
蟷川	智造	28	77	杉浦	博	25	77
多々見市蔵		23	77	田中	弥一	15	78
津田勝之助		7	78 (35)	和田正八郎		17	78
向井	健一	36	79	山口	吾郎	15	79
森馬	健次	27	79	恒成	一訓	14	79 (40)
村上	秀夫	19	79	井上	実	24	79
野中	駒市	18	80	米屋喜三松		24	80
多田	英之	11	80 (45)	岡本	行善	22	80
永原	義夫	28	80	伊藤	敬祐	21	80
能勢	次郎	28	80	木村	久夫	23	80 (50)
藤原	巧	21	81	生田	重政	20	81
松井	清開	28	81	高須洪一郎		14	81
池	保	27	81 (55)	木下	光雄	11	82
成田	辰美	22	82	樋口	茂	12	82
熊沢	六朗	18	83	谷山	俊輔	16	83 (60)
伊藤	三郎	25	83	佐野	正一	18	83
川崎	敬三	13	83	道旗	慶俊	8	83
吉村	英男	16	84 (65)	伊勢谷圭作		22	84
仁平	信也	19	84	桑原	潔	27	84
松尾陽三雄		15	84	大熊	芳郎	20	84 (70)
瀬尻	昌利	17	84	坪井	善勝	27	85
限田	正美	24	85	岡本	美男	19	86
室谷	山水	20	86 (75)	梶本	秀尾	11	97
窪田	祐	25	86	石川	良興	11	86
三宅	康介	14	87	島村佐次郎		10	88 (80)
井上鴻太郎		27	88	地頭	政人	13	88
西嶋徳太郎		25	88	小川	正	28	88
木下	国男	10	88 (85)	木村	悦也	22	88
南	長吉	17	89	伊藤	四夫	28	89
青木	茂一	24	90	直野	文吾	24	90 (90)
橋本	良平	26	91	伊藤	鉱一	28	92
村野	藤吾	27	92	島田啓太郎		19	93
山本	永造	24	94 (95)	伊丹	久吉	20	95
鷲尾	健三	22	95	大野	国義	28	95
岡本	弘	28	96	大野	平男	28	97 (100)
岩間	正壱	28	102	白石登喜男		28	105
塚本	猛次	28	113 (B. B.)	砂川	哲男	28	150

(賞)

1位　日本建築協会長賞（銀製楯）
　　水間徳太郎殿（水間組社長）
2位　日本建築協会ゴルフ同好会長賞（銀製楯）
　　渋谷　幸雄殿（渋谷金属産業㈱社長）
3位　懇親ゴルフ大会長賞（銀製楯）
　　松岡　照夫殿（大成建設㈱工事事務所長）
シニヤー賞　1位（輪島塗手文営）
　　日景　一郎殿（高砂熱学工業㈱専務取締役）

上記ゴルフ大会に次の新聞社から賞品の寄贈を受けました。
　日刊建設産業新聞大阪支社殿
　日刊建設通信　関西支局殿
　日刊建設工業新聞関西支社殿

懇親ボーリング大会

＜4月21日（金）スタート2時→5時解散＞

会　場　野田ボウリングセンター（大阪市福島区鷺州南1の32）
会　費　400円
参加者（敬称略）104名

阿部寅次郎，青山　明義，秋山　孝，嵐　吉治，井上　好明，
井原　唯雄，家村　佳成，石井　建光，石崎　行男，和泉　秀道，
岩井　禎延，岩田　正一，上田　稔，上野　貞男，清川　勲，
梅沢　晋一，江崎　盛男，江尻　敏明，小川　進，大平　森雄，
太田　泰秀，奥田　収，加藤　吉暉，継本　猛，柏原　博，
梶原　淳，川上　全成，川島　繁三，川島　春秋，川地　寿，
川場　四郎，川人　清，河野　稔，神崎　家次，北村　和男，
清政　宗英，久保　潔，倉本　利和，小北　実，小西　元二，
小林　正，小松　靖男，甲浦　邦彦，斉藤　剛司，坂井　幸夫，
酒井　典男，沢田　清，治部　陸郎，椎原　毅，城津　和男，
鈴木　貴成，田井中一男，田崎　善光，田原　則好，田淵　敏雄，
田淵　稜一，高橋　豊彦，辰野　秀明，谷　義美，玉咲　公志，
対島　富雄，中島　健二，中村　明，中山　昭朗，仲原　紘一，
仁木　正義，西　次生，西口　勝二，西野　忠明，西村伊佐夫，
西村　俊男，西脇　孝自，野田　宏，土師　俊晴，萩原　健一，
橋本　泰宏，菱田　貞雄，福山　嘉一，藤井　敬次，藤岡　武彦，
牧野　義之，松井　義則，松尾　行偉，松尾陽三雄，松下　忠生，
松本　桂三，村尾　一彦，村上　隆弘，村上　恒夫，森　孝司，
森沢　民夫，森本　勲，安田　次郎，保広　昭司，山田　文夫，
山本　竜雄，山本　寿雄，湯浅　政治，横尾　明平，横路　新治，
横山　忠一，米田　嘉之，依元　駿介，若田　耕平

(賞)

35才以上	1位	土師　俊晴	573	
	2位	松尾陽三雄	469	
	3位	横山　忠一	389	
25才以上	1位	太田　泰秀	543	
	2位	松井　義則	518	
	3位	川上　全成	512	
24才以下	1位	酒井　典男	494	
	2位	横路　新治	490	
	3位	山田　文夫	470	
ハイゲーム賞		土師　俊晴	232	
50位賞		森本　勲		
ラッキー賞		田原　則好		
キッチリ賞		江崎　盛男，小西　元二		
ターキー賞		酒井　典男，西脇　孝目，松井　義則，		
		玉咲　公志，石井　建光，嵐　吉治，		
		土師　俊晴，城津　和男，家村　佳成，		
		太田　泰秀，中村　明，野田　宏，		
		藤井　敬次，仲原　紘一，山本　寿雄，		
最多ストライク賞		土師　俊晴		
最多ガータ賞		田井中一男		

大阪城公園内に建つ休憩所のデザインコンクール

審査委員長　岡　橋　作太郎

本会の創立50周年にあたり記念となるべきものを，形で残したいという気持が会員の間にもりあがり，そのため昭和41年7月に記念物建設準備委員会が生れた。私は委嘱された9名（別記）の委員の中から選ばれて委員長となり，3回委員会を催した。最初は本会館から川をへだててそこに見える中之島公園内に創立50周年を記念するモニューメントを建設したらという案が出たが，そこは公共の敷地であり行政に役立つものでないかぎり承認を得られないということが分って断念した。

委員の中からいろいろとこれに代る案が出されたが，結局大阪市の公共施設をとりあげて本会々員に呼びかけ，懸賞募集により最優秀な作品を得て，本会より大阪市にその基本設計案を無償で提供することに話がおちついた。委員である市建築部長の西村栄一氏から「港湾局庁舎」その他相当な建築物の計画について説明があったが，本会のコンペ予算が僅かなことから見込がなく，もっと規模の小さい公共施設で適当なもの，すなわち大阪城公園に建つ休憩所をコンペの候補にすることで意見がまとまった。

そんなことで，大阪市から昭和42・43年度建設予定の施設につき内示をうけ，前記の休憩所をコンペとしてとりあげることに，42年1月23日の第3回委員会で確定した。

2月23日大阪市長宛本会の50周年記念物建造懸賞設計競技に協賛方願出，3月15日協賛承認の回答をうけた。また，5月22日大阪市から本会50周年記念本市公共施設懸賞設計競技の対象となる施設についての明示をうけた。すなわち

施設名称　休憩所
建設予定地　大阪城公園内（杉山地区）
概　要　(1) 規模（用地）162㎡＝9m×18m
(2) 構造　不燃構造平家建(鉄筋コンクリートにても可)
(3) 予算　5,000千円以内

その他の参考事項
(1) 大阪城公園（森林公園）にふさわしいもの
(2) 開放的であること

なお内示もあり構造は鉄筋コンクリート造と定め，その他は上記の通りの大阪市の主旨にしたがいコンペを実施することになった。準備委員会は5月18日開催の第4回からは大阪城公園内に建つ休憩所のデザインコンクール審査委員会と改め，これまでの委員の他に大阪市公園部長加藤一男氏のご参加をお願いすることにした。第1回の審査委員会においてデザインコンクール募集規定を審議決定し，会誌「建築と社会」6月号にこれを掲載，募集公告をした。7月3日には現場説明会を催し，雨天であったが40名の参集者があった。

デザインコクールは8月31日をもって〆切ったが，応募数は37点に達した。9月14日第2回審査委員会を開催し末尾に記載のとおり入選者を決定した。その席で実施設計は当選者安藤忠雄氏の勤務先池亀建築設計事務所にお願いすることにきめ，翌日池亀暢雄所長の承諾を得た。9月20日応募者全員に審査の結果を通知，9月28日入選者の表彰式を挙行し，東畑会長に代り私から夫々に賞状と賞金の贈呈をした。10月30・31の両日には本会館4階において入選作品を展示公開し，会誌の11月号には入選作品を発表し私の審査概評を記述した。

かねて依頼してあった池亀建築設計事務所の実施設計図書ができあがり，11月1日本会より大阪市へ提出した。また，市からの指示により12月27日実施設計図書一式寄贈の書類を市へ提出した。

実施設計図書は大阪市においてその後検討中であったが，中馬市長の決裁を得て，施工業者を決定の上工事に着手され，昭和43年5月末には完成の予定である。完成した休憩所は大阪市民に愛用されるはもとより，設計を担当した本会にとっても創立50周年の意義ある記念建造物として，日本建築協会の名声とともにいつまでも残ることを念願している次第である。

ちなみに本会々員である青年建築家のみなさんが業務のかたわら本会の記念事業にご協力下され，数多くの力作を応募されたとに対し，心から感謝の意を表する。

入選作品（以下敬称略）

当選案　1点　賞状および賞金　¥150,000.
安藤忠雄　池亀建築設計事務所勤務

佳作　3点　賞状および賞金各　¥20,000.
1　田村真二　㈱竹中工務店勤務
2　藤井詔一　日建設計工務㈱勤務
3　小佐田敏和
共同者　佐武加代子
安藤周春
森　英治
㈱大林組勤務

——入選作品4点は「建築と社会」昭和42年11月号参照のこと——

資料1

昭和42年12月27日

大阪市長
中馬　馨殿

社団法人　日本建築協会
会長　東畑謙三

「大阪城公園内に建つ休憩所」の設計図書一式寄贈について

ますますご清祥の段慶賀に存じます。
さて，先般貴市のご賛同をえて，本会50周年記念事業のひとつとして標記休憩所のデザインコンクールを催し，当選案を決定いたしました。今般，その当選案にもとづいて下記の実施設計図書一式を作成いたしましたので，ここに貴市にご寄贈申しあげます。

記

大阪城公園内に建つ休憩所設計図書
1．実施設計図　1
1．構造計算書　1
1．工事費調書　1

資料2

拝啓　貴会ますますご隆昌のこと慶賀に存じます。
さて，このたび貴会の創立50周年記念事業の一環として，建築を通じて社会に貢献する貴会の精神を遺憾なく発揮せられ「大阪城公園内に建つ休憩所」のデザインコンクールを催されこの当選作品を無償にて大阪市にご寄贈下さいましたこと，まことに有難く厚くお礼申し上げます。
このうえは貴会の趣旨を充分尊重して建設にあたり大阪市民に愛される大阪城公園内に建造して，市民に愛用せられる施設とするとともに，貴会の創立50周年事業の意義ある記念作品の建造物として末永く保存する所存であります。
貴会のご発展をお祈りし，お礼のご挨拶といたします。

敬具

昭和43年1月23日

大阪市長　中馬　馨

日本建築協会会長
東畑謙三殿

「創立50周年記念号」について —報告に併せて・補遺と訂正—

記念号編集特別委員長　滝　沢　真　弓

本篇は本号の趣旨による報告である。その中Ⅰの部は既報と若干重複するところがある。が，Ⅱの部は新規の追報である。この部は特に御留意願いたい。

Ⅰ 経過報告

昨・昭和42年は本協会創立50周年に当った。その前年，理事会は会誌「建築と社会」昭和42年3月号を——3月30日が創立記念日なるに因んで——「創立50周年記念号」として発行すべきことを議決した。しかもその企画特集は，単に会誌編集委員会のみの仕事ではなく，本協会全体の記念事業の一環とすべきものとされ，更めて「記念号編集特別委員会」なるものが新設されることとなった。その構成人員は諸委員会・各支部代表者等より選出された。が，特に委員長として老兵格の私が引っぱり出されることとなった次第である。

第1回委員会の開かれたのは，一昨・昭和41年7月20日であった。当日は，まず編集の基本方式について話合った。その席で了解した趣旨の大要を記せば——由来，記念号などにありがちの単なる過去記録の羅列ないし経験談の速記録等に止るものでなく，正確を期することはもちろんではあるが，取捨選択を施して簡潔に，何よりも見て楽しく，読んで要を得るに易く，という方針を以て進行するということであった。

以後，委員会の会合を重ねること数回，それと並行して，記念号に掲載の目的を以て，各界代表者による回顧座談会を三回行なった。委員会自身，さらに小委員会を設けて諸般の事項を分担した。たとえば，歴代役員その他の功労者たちの肖像経歴等の資料の聚集，過去50年間における委員会活動・支部活動・関連団体との関係に関する記録，本誌自身の変遷，総目録年表の作製等の仕事であった。その間つねに事務局当事者の労苦に並々ならぬものがあった。途中，会誌の大さ（型）の変更などあって多少の混迷も生じたが，辛うじて予定の期日にゴールインすることができた。その成果についてはすでに諸賢のご批判を幸した。ひとえに寛仁の徳を希うほかはない。

Ⅱ 追補と訂正

記念事業終了後——昨・42年5月23日——本委員会は「反省会」の意味で最後の会合をした。その主な問題は，既報をあらためて検討し，諸方面から寄せられた教示に基づいて，補遺ないし訂正を考慮することであった。その趣旨によって，今日までに判明した主要な事項をここに一括して追報する。

（1）名誉正会員，森山松之助氏の写真欄が空白となっている（記念号90頁）が，東京の森井健介氏の御厚志によってお写真の御贈与と御教示を得た。ここに補填の意味で追録させて頂く。



森　山　松之助

昭和24年4月2日逝去 80才
疎開先 山形県鶴岡市で死去

また併せて森井氏のご教示によって死去のときが不明となっこいた野村一郎氏が昭和17年7月28日逝去，73才の由も判明した。

（2）創刊号に掲載されていた三色刷の中央公会堂を主題とする中之島の油絵（記念号41頁）の作者については，創刊号に記載がなく調査の結果，記念号では古賀郷実氏と記したが，実は，小野寺秀夫氏の原作に古賀氏が補筆したものであることが判明した。ここに古賀氏の文面をそのまま借用させて頂く。

> 創刊号の口絵について　　古賀郷実
>
> 創刊号の口絵大阪中央公会堂の原画は当時片岡建築事務所の同僚であり，私の同窓であった小野寺秀夫君(後に田中と改姓)の作であるが，その表現が，かなり実物と異って描かれていたので,片岡博士の命により,止むなく私が修正加筆したもので，二人の合作といえないこともないが私の原作ではない。爾来50年の歳月が流れ，原作者の消息を知らず，これ以上の詳細を書けないのが遺憾である。

（3）「建築界と建築協会50年の歩み」（年表50年史）正誤

頁	年代	項　目	誤	正
66	1917	（日本）	コンドル日清生命	コンドル　日清生命
〃	〃	（〃）	佐藤・内藤開港記念横浜会館	佐藤・内藤　開港記念横浜会館
70	1932	（〃）	聖ロカ病院	聖ルカ病院
〃	1933	（〃）	グロピウス来日	タウト来日
〃	1934	（関西）	奈般駅	奈良駅
〃	〃	（日本）	軍人会館／伊東川元	軍人会館／伊東・川元
〃	〃	（海外）	典板の力学	曲面板の力学
〃	1935	（日本）	天皇機関税問題化	天皇機関説問題化
72	1940	（海外）	イリノイ工科大学／シース	イリノイ工科大学／ミース

（4）座談会記事中訂正，補足

1）　43頁右段下から7行目にある吉村邸が「昭和6年に国宝になって」とあるのは，昭和6年でなくて，昭和12年8月であった。

2）　43頁右段下より3行目にある「門真にある某医師の邸宅」は「葛岡享邸」である。

3）　波江氏の「感想一篇」中に建築協会の創立が大正7年とあるのは，大正6年の記憶ちがいであろう。（創立の重要な当事者のこと故，特に付記する次第である。）

（5）桜ケ丘の住宅改造博覧会の出品住宅の戸数について，27戸（45頁編集注）と25戸（67頁建築協会の歩み記事）の両説がある。記録には，当初の計画27戸と明記されているが，ある人の見学記には25戸となっている。27戸が正しいとは思われるが，未だ判定すべき確証を得ない。

（6）60頁の創立祝賀会パーティ，昭和38年3月30日とあるのは，昭和36年3月30日の誤り。

（追記）なお上記にも脱落，誤謬等が無いとは保しがたい。今後とも大方の御教示を待つこと切である。

50周年記念出版　1.建築データシート　2.鉄骨のデザイン

建築データシート発行

監修のことば

日本建築協会が創立50周年記念事業として建築データシートの出版を企画され，しかもこれを会誌「建築と社会」の附録として会員諸氏に配布されることになったことは誠に英断的かつ大変な努力を要する事業であると思います。これが出版のために特に「データシート編集委員会」が新設されて，その委員には官公庁，設計事務所や建設会社などの各界よりそれぞれ第一線の中堅技術者が当られたことはこのような企画に最も重要なことでありました。それぞれ本務のご多忙にもかかわらず，データシートの編集出版に対して，昼夜の余暇をほとんどこれに当てられてた多大のご尽力とそのできばえに深く敬意を表したいと存じます。

私はデータシートの監修を委嘱されまして，いくつかの工事種別毎に分けられた編集委員グループによって調整されたデータシートの原稿を一括して目を通すことになりましたが，材料や工法の種類が多岐にいたっているために，むしろ私の自分の勉強になりました。原稿執筆者はよく判っていながら読者には意の汲み難いような原稿は執筆者側とよく打合せ，理解しやすい表現に改めて頂きました。とかくかかるデータは日進月歩に変転するものであっても後日は古いものとなってしまう性格でありますので，結局絶えずデータの蓄積を続けて行くことが必要であろうかと思います。

建築関係に携われる諸氏がこのカタログの集大成であるデータシートを各自の業務上に充分活用されんことを望み，またその際，お気付の点がありましたら，よりよいものに育てるため，データシート編集委員会にお申出をたまわりますよう切望してやみません。

工学博士　坂　静雄
京都大学名誉教授
日本建築総合試験所長

発刊のことば

このたび日本建築協会では創立50周年記念事業の一つとして建築データシートの発刊を企画し，その編集を担当するために「建築データシート編集委員会」を設けて，約1年余の準備期間を経て，ここに予定通りデータシートを会員諸氏に「建築と社会」の附録として発刊できましたことは誠にご同慶に存じます。

この建築データシートは建築関係の業務に携わる技術者のために，設計・積算ならびに現場施工において各種の資材や工法についての知識の要点をカタログ的にしかも統一された内容形式によって編集されたものであり，さらにより信頼度の高いデータとするために，編集委員の各専門分野からの検討と権威ある監修者による監修が行われており，関係者の非常なる労作として実現を見るに至ったものであります。

またこのデータシートの企画に対して深いご理解とご賛同を得て原稿執筆に格別のご協力を賜わりまして各資材メーカや施工関係の会社や団体に対しまして深尽なる謝意を表するしだいであります。

以上の如く各方面多数の方々の協力の結晶として漸くにして誕生を見た建築データシートを会員諸氏は勿論，多方面に亘り第一線技術者の座右資料として広く活用して頂くとともに，さらに良いものにするためのご批判やご希望をたまわることを念願してやまないしだいであります。

なおこのデータシートの出版は長期間に亘って継続される予定でありまして，その間には新建材や工法が世に現われことも予想されますのでこれらについても追加修正を図って参りたいと考えております。

建築データシート編集委員長　中　原　茂

建築データシート発行計画

（詳細は正月号53頁参照のこと）

鉄骨のデザイン（実例と考え方）

発刊のことば

この「鉄骨のデザイ」の源は，昭和23年ごろ協会から出された「実際に役立つ鋼構造の計算方」という小冊子にまでさかのぼる。それが非常に好評であったので，その改訂増補版として鉄骨に関する啓蒙的な本が企画され，苦心のすえ出版されたのが，この「鉄骨のデザイン」の前身である「鉄骨構造計算と実例」であり，昭和34年8月のことであった。

この実例を中心にし，その計算書や図面に解説を加えたという試みが，読者に大変喜ばれ，たちまちにして売り切れてしまった。その上，このような本をもう一度出版せよという強い要望が，あちらこちらから出てくることになった。これが，この「鉄骨のデザイン」出版の企画に踏み切らせた直接の原因である。

そういう事情から出発したのであるから，今回の出版企画では，実例を中心にして，いろいろそれに解説を加えるということを，その第1の目標にした。しかし，当協会の使命から考えて，その読者層として，鉄骨構造を勉強しながら仕事をしようとしておられる大勢の方々を想定し，その方々の座右にあってお役に立つ参考書になることを，第2の目標に考えた。したがって，いま日本全国にますます普及しつつある鉄骨建築を将来担当していただけるはずの，数多くの卒業後間もない方にも良いようにというので，実例の選び方から解説の仕方までを工夫したつもりである。しかし，味わっていただきさえすれば，高級技術者の方々にも，何らか教訓的なものを汲みとっていただけるものと信じている。それは，書名を，一見キザにも聞える「鉄骨のデザイン」にしたのも，この本の第1の目標が，計算書や図面を中心にした解説という形式にあったとはいえ，あくまで，「建築のための，建築そのものであるべき」鉄骨のためにといった態度を貫いたつもりだからであり，このことからも察していただけるのではなかろうか。第3の工夫は，特別資料欄である。その主要部は，鉄鋼メーカ各社の絶大な御協力を得たものであるが，普通なら広告的なものになりやすいのを，はげしい商売を離れ，歩調をあわせて，中立的な立場を守って，いろいろ解説していただいた。これは，新らしい試みではないかと，ひそかに誇に思っている。

第4の，そして，最大の努力と工夫が，日本建築学会の，いわゆる新規準と称せられている「鋼構造設計規準案」に関してなされた。委員諸氏の，真摯な，そして，大変な努力は，特に，ここに大書されなければなるまい。新規準が，現行の建築基準法や旧規準と大きく変っていることは，その原案作成の過程において，すでに，われわれにはわかっていたから，当協会の使命から考えて，学会のその方向に協力すべく，委員諸氏の検討が続けられていたが，昭和41年12月，意外に早く，「建築雑誌」に発表され，しかも，確定案としての全国講習会実施も予定されているというので，種々協議のすえ，せっかく組版を終えていた全原稿をばらしてしまい，新規準そのものの研究，他の旧規準との関係検討，その実用化の工夫から出直して，原稿の書きかえまで至った。そのため，委員諸氏はもちろん，印刷所にまで，大変な御迷惑をかけることになった。その間，東畑会長名で学会へ質問状を出したり，学会側関係者の御解説を伺ったりもしたが，それでも，いずれとも決しかねる事項が，ないでもなかった。それで，それらについては，われわれ編集委員会の責任において，力をつくして検討した結果妥当と考えた判断にしたがうことにした。また，その実用化のためには数値表などを準備する必要がある。それは，電子計算機の助けなくしては不可能に近いものであったが，幸いにして，大林組，竹中工務店，大阪建築事務所3会員会社の御好意により，それらを本書に加えることができ，学会の新規準を前にしておられる読者諸氏の便に供することができた次第である。　（はしがき・より抜萃）

鉄骨のデザイン編集委員会　委員長　工学博士　鷲　尾　健　三

創立50周年記念事業と担当委員氏名一覧表

（順不同，敬称略）

	委員長	主査	幹事	委員
総括	塚本猛次 副委員長 竹中錬一 代理 神谷新一			
財務委員会	鴻池藤一 副委員長 浅沼猪之吉 〃 横田喜一郎 〃 菅谷三郎 〃 梶本秀尾 〃 佐野正一			伴一郎　田中政二　福田朝生　光安義光 木下晴一　故古林義敦　松田昌平　一圓俊郎 栗林一馬
総務委員会	増井敏克 副委員長 岩下久哉 〃 岡本弘 〃 佐野正一 〃 政岡基次 〃 山本義樹			
記念式典		矢野豊作	谷川丈夫	小泉豊　坂内幾男　鈴木洋也　田中隆
祝賀会		山本義樹	尾亀清四郎	審忠夫　木村博己　小川博三　原田守蔵 平田作太郎
表彰式		岡本弘	中原茂	佐々木保　篠原太郎　田森信夫　松村志津男 松村慶三
慰霊祭		政岡基次	村島彰	打浪政信　大橋一夫　松本宇一　道田泰治郎 三宅昭栄　植田健
展覧会		佐野正一	谷口尚武	上野賢三　近藤護　斎藤暢　西川幸之輔 坂井茂信　星野二郎　山本茂　嶋田勝次 熊取晃　柳原清信
講演会		岩下久哉	浅香久春	相川三郎　池田博　上田稔　田沢昭一 渡辺英秋
見学会		中出俊郎	金子敏男	駒日出男　中村信夫　林野全孝　森田孝雄
運動会		窪田祐	星野二郎	上野豊　木村輝久　佐藤泰　滝川公策 能勢次郎　南次郎　和田克朗
記念事業記録写真グループ		近藤護		木村久夫　原桂一郎　本郷聡　村尾一彦
記念物建設準備委員会 大阪城公園内に建つ休憩所のデザインコンクール	岡橋作太郎			後藤典夫　西村栄一　足立孝　浦辺鎮太郎 小川正　西嶋徳太郎　福田朝生　森忠一 デザインコンクール委員には上記委員のほかに　加藤一男
50周年記念号編集特別委員会	滝沢真弓		政岡基次 長谷川哲之助 野々村五四男 林野全孝	浅野清　近藤豊　内田成之　桐本楠雅 塚本喜八郎　堀口甚吉　嶋田勝次　武曽一郎 田中孝男　坂本勝比古　小西岬　土居一雄 岡本弘　故古林義敦　一圓俊郎　栗林一馬 井手正雄　宮飼克二　松田昌平　岩崎甚太郎 松井昭光
記念出版委員会	田中良太郎			伊藤克三　石崎浣雄　長沢徹夫　吉川剛夫
鉄骨のデザイン編集委員会	鷲尾健三		木田幸夫 宮川達郎	乾亮三　北村俊男　倉石秀夫　佐藤哲夫 長田正雄　西川幸之輔　前川陽一　森田康次 横井元昭　吉仲清　力武利夫　若林嘉津雄
建築データシート編集委員会 監修 坂静雄 顧問 増井敏克 〃 岡本弘	中原茂 副委員長 松村志津男	幹事 池田博 樫原章雄 篠崎一郎 宮武三郎	伊藤幸一 木村博己 西川幸之輔	上野豊　小川博三　岡田圭司　金子敏男 喜多聖泰　木村武雄　近藤護　酒井蔚聿 正法院陽三　田中隆　種村恒夫　堤兼雄 中村昭二　西谷清　橋本正章　浜田文和 真塚達夫　山田義信　吉岡源次郎　渡辺英秋

立体トラスのリフトアップ工法

樋口元一

表1 工事概要

建物名称	関西電力高砂開閉所77KV上屋
設計・施工	株式会社 大林組
構造	鉄骨造 平家 柱 H型鋼 屋根トラス鋼管 外装 屋根 壁 共 耐酸被覆鉄板
建築面積	680㎡（増築予定）軒高8.200m
施工時期	昭和42年6月 リフトアップ

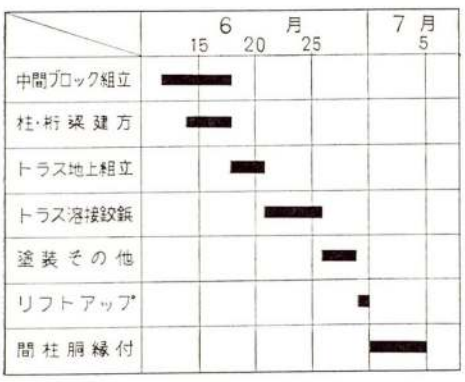
表2 リフトアップ諸元

揚程結果			
全揚程 6.95m	所要時間 3h 11m	速度 2.235m／h	
運転回数			
上昇高さ	0～1.5m	ストローク 25mm	60回
	1.5～6.95m	50mm	109回
リフトアップ	重量 32t	1ケ所最大 7.1t	

表3 リフトアップ使用装置（1ケ所に付き）

本例（手動）	参考例（電動）
スチールテープ25mm刻み1本	クライミングラム 2個
鉄ブロック1車（4T用）2個	（10T用最大ストローク 50mm）
シャックル 1個	油圧ポンプ 3.7KW
チルホールT-35型(3T吊)1個	同調装置
ワイヤ 16.3φ30m	P.C ストランド 16φ

表4 現場鉄骨工事工程表



1 はじめに

リフトアップ工法は，海外ではビル建築などに用いられているようであるが，ここにご紹介するのは，立体トラス版を地上で組立て，所定位置迄リフトアップすることにより高所作業を省いた実例である。電動油圧ラム使用例と手動ギヤ使用例とがあるが，本稿では，最近施工した後者について述べる。（表1）

2 トラス形式 大林トラスH1

立体トラスの施工法は，そのトラスの形状に応じて変るが，今回使用した立体トラスは大林トラスH1である。

このトラスは図1～2のよに六角形のパターンが基本となっている。図2の下弦面の亀甲型の各節点に，斜材を稜とし上弦面の三角形を底面とする，倒立した三角錐が並んでいる形である。このトラスH1の特性として，第一に面内で三方向に等方性を持っており，平面版あるいは曲面版として各種の平面計画に対し適合性が高いことである。本実施例では，これをタイバー付の円筒版として用いている。第二に同一長さの部材を用いた場合，他の形式に比較して少ない部材で平面を覆うことができる。したがって材を集中して使うことができるので，部材の挫屈耐力が増し効率がよい。また立体トラスの製作上，工数および工費に最も大きな比率を占めるのが節点部であるが，このH1トラスは節点の数も亦少なくなっている。第三にこの各節点に集まる部材の数が，一般のトラスでは8～9本に達するのに対し，すべて6本である。このことは複雑になりやすい立体トラスの節点の形態の単純化に有利である。このようなトラスの形式および特性を考えて組立法および接合方式を定め，以下に述べるような施工方法が採用された。

3 構造概要

実施建物は図3に示すように，柱頭をタイバーで結んだ片持柱により，円筒型屋根版を支持している。屋根トラスは部材に鋼管を使用し，節点部は図4の通り半球を接合した球形ジョイントになっている。鋼管部材は等方断面であるため，単材として圧縮力に有利である上に，取付部が材の回転角に無関係に設計できる。特に本例のような曲面版に使用する場合は好都合である。また球形節点はその直経が適当であれば，鋼管の溶接取付は容易であり，種別も最少限で足りる。本例では二種類とした。また鋼管端部処理が材軸直角切断のみとなり，部材の加工も最少限に止めることができる。

4 トラスの地上組立て

一般に立体トラスを現場で組立て形成するには種々の寸法が考えられるが，大別して，立体トラスの各個材を現場に搬入し，所定位置で直接組立て接合を完了する方法と，工場で種々の大きさのトラスのブロックを作成したものを現場に搬入し，所定位置で接合する方法とがある。前者は現場作業が増し，その能率および精度が低下し勝ちである。後者は工場作業の範囲がふえ，この面では有利であるが，工場接合部を多くすると輸送能率が悪くなる。実施例は第二の方法に更に現場中間組立ての工程を加えた。すなわちH1トラスの構成単位である三角錐2個を結合した写真1に示すユニットを工場製作し，これを現場に搬入する。このユニット4個を更に現場治具の上で接合し，図5に示す中間ブロックを作成し集積する。最後にこれを所定の地組構台の上に取込み，円筒屋根版を形成し，母屋取付および塗装を行なって地上作業を終る。この工程によると工場ユニットの精度は保持され，中間ブロックは工場作業に準じた状態で組立てられるので，最後の全体組立て時には接合箇所は少なく，寸法誤差の調整に煩わされることはなかった。また輸送の際には工場ユニットはコンパクトに積載され，能率的な輸送が行なわれた。

5 リフトアップ

立体トラスを所定位置で接合する作業は通常高所作業であり，安全性，作業性が悪く，これを補うに足る仮設設備はコストの面で望めない。したがって一般に作業能率は低下し，接合部

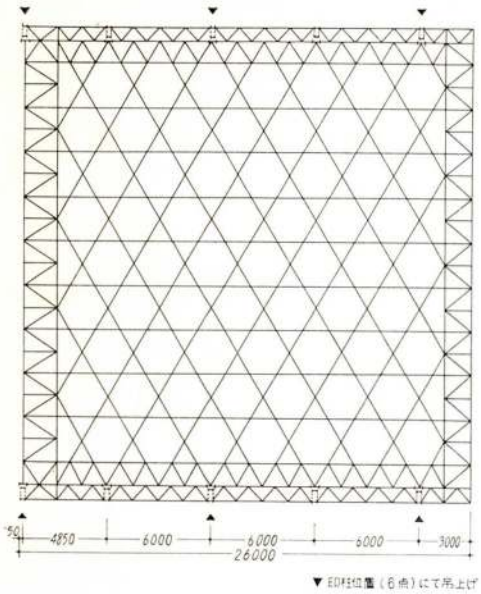


図1 トラス上弦面

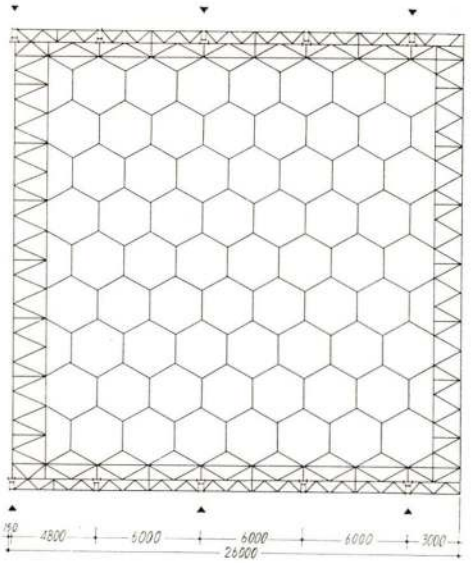
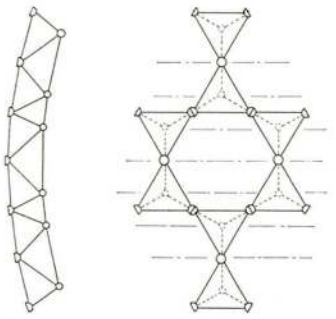


図2 トラス下弦面



立面　上面

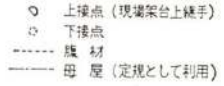


図5 中間ブロック

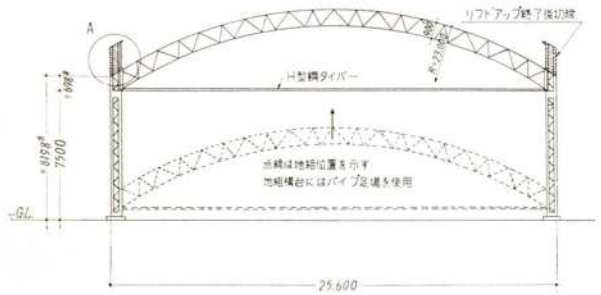


図3 軸組図

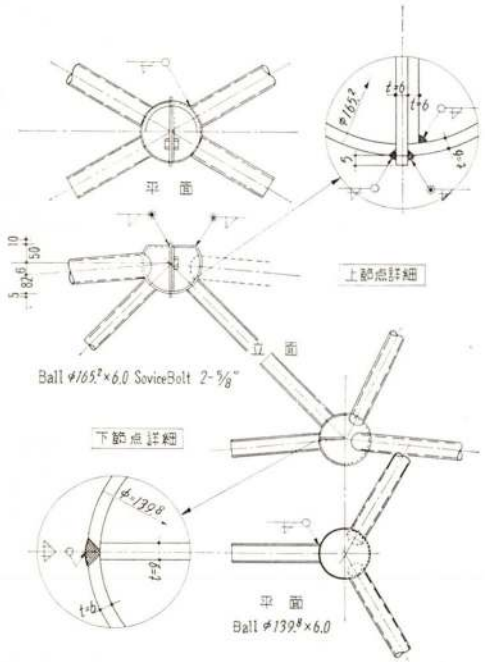


図4 節点部

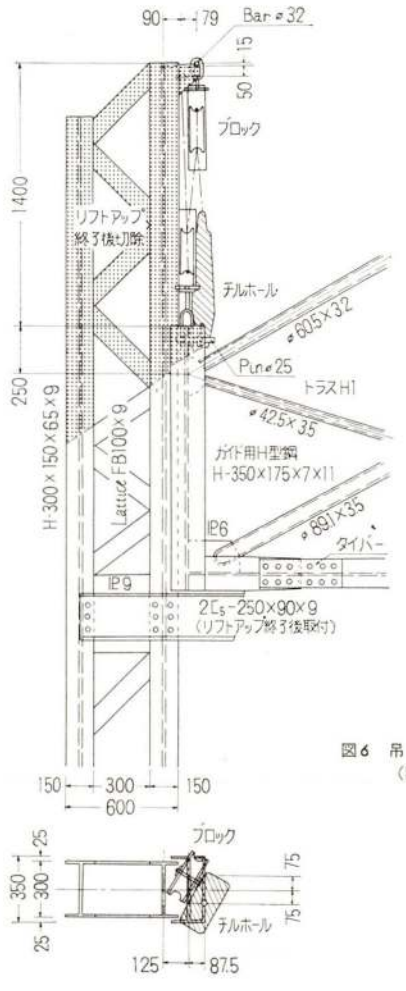
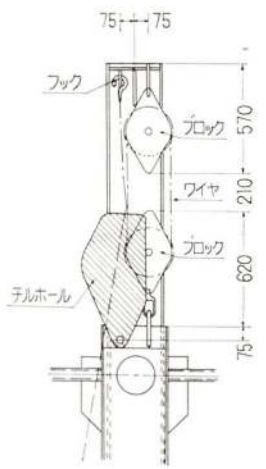


図6 吊点部詳細図
（図3のA部詳細）



の形式造も制約を受ける。これに対しリフトアップ工法によれば，これらの制約から離れて，工期の短縮，接合部形式の選択ができる。勿論この場合もリフトアップの工費が過大にならぬよう能率的な計画が必要である。

本工事においては，図3点線位置に地組されたトラス端部を柱にスライドする構造とし，図1に示す6ケ所で柱に巻上装置を設けて所定位置迄吊上げた。巻上機構は**図6**に示すように，柱頭およびトラス端部にそれぞれ吊上用ブロックを取付，柱頭からこのブロックを介してワイヤロープでトラスを支える。またこのワイヤロープのトラス終端に，チルホールが取付けられ，トラス上の作業員がこのレバーを上下すると，ロープが巻き込まれてトラスが上昇する。

あらかじめ柱には一回の揚程が標示されたスケールが接着され，トラスの揚程が読取られた。トラス中央に指令員が位置し各点に対し一揚程毎に運転指示を行ない，トラス全体の傾斜，不陸を調整した。リフトアップ中は，更に各部の水平，鉛直偏位も測定されたが，水平偏位は平均5mm程度であり，ガイドとなる柱とのクリヤランスは十分保持された。施工前に吊上時の各部応力，変形などは検討されたが，実施結果もトラスのシエル効果により剛性は予定通りであり，局部的な変形は認められなかった。リフトアップは工程中1回チルホール交換を行なったほかは，順調に進行し，実動時間は**表2**に示すように3時間程度，作業開始から終了迄の時間は測定，休憩など一切を含めて4時間30分であった。

リフトアップ完了後は直ちにブラケットが取付けられてトラスと各柱が固定され，間柱，胴縁の取付が行なわれた。

使用機械その他は**表3**に示す通りであるが，比較のために，先に平版型の大略同規模のH1トラスのリフトアップに使用した電動油圧ラム装置の例を示した。電動の場合各点の吊上げ，揚程調整はすべて自動的に行なわれ，ワンマンコントロールである。

6 おわりに

本実施例のリフトアップはこのようにして完了したが，この程度の装置で必要な作業精度は十分に保たれた。地組構台についてもユニットの工作精度から見て更に簡略化が可能である。全体として今回のリフトアップ工法は作業能率，安全性の面でも，また現場工費の面でも所期の効果を得ることができたと考えられる。本例では手動機械を使用したが前述の通り電動式でも施工例があり，傾向として手動式は装置は簡略であり，操作も簡便であるが，容量が制限される。電動式のものは大容量のものも能可であり，自動同調，ワンマンコントロールなどの長所があるが，取付，調整が複雑であり，設備費が増すようである。

使用装置は次第に改良されるであろうが，リフトアップ工法は，立体トラスの施工に対して，種々の好条件を与える工法であり，今後とも利用されるものと考えている。

（ひぐちげんいち：大林組建築本部設計部主任技師）

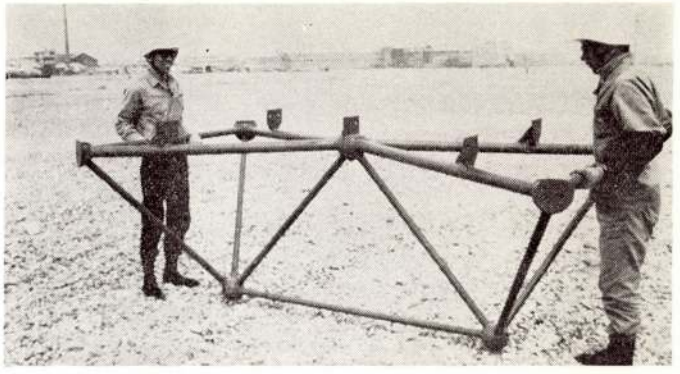


写真1　工場製作ユニット

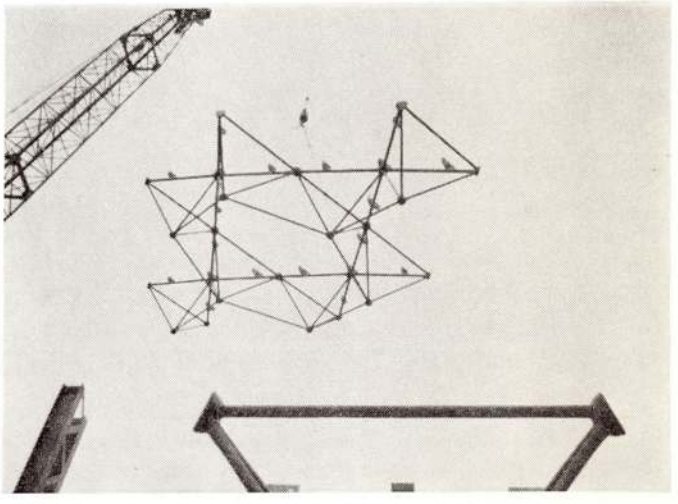


写真2　現場ブロックの建込

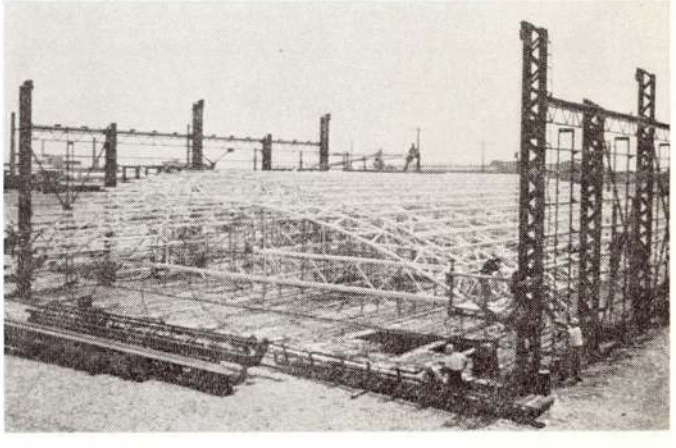


写真3　リフトアップ開始

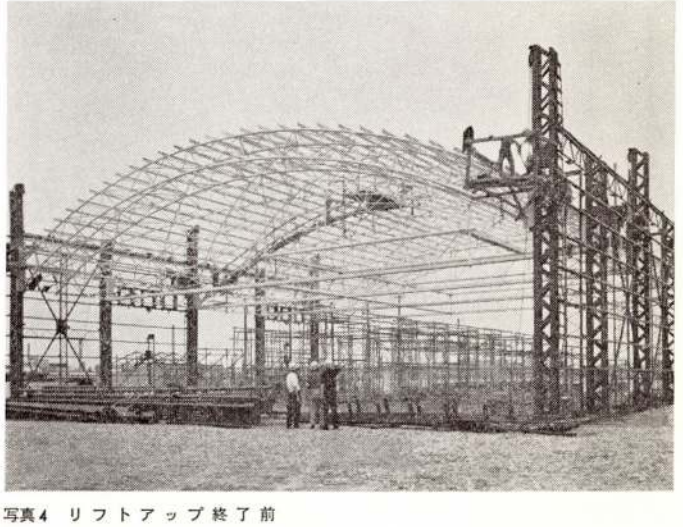


写真4　リフトアップ終了前

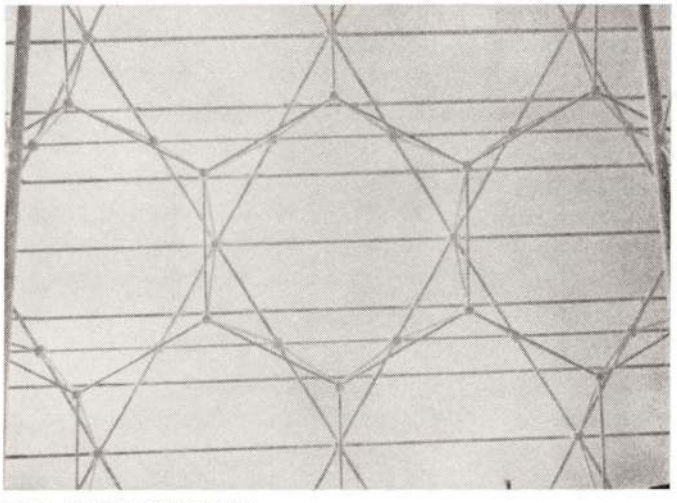


写真5　施工完了の大林トラスH1

12
建設業界史話

いつまで草と石灰の話（その2）

宮　村　次　郎

次に説話ではあるが，あまり古くもなく少しは参考になりそうなので，漆膠（しっくい）についての大閤記の大仏殿漆膠のことを紹介しよう。当時の大工事の現場の模様をのぞいて見る参考にもなると思う。

「手伝人は池田備中守……奉行は堺之今井宗久なり。仏像不出来已前蛎殻壱万俵取寄可申旨唐人さしづに付て勢州尾州へ取に下しけり。去共連々取聚めをかざる事なれは頓かには難調となん。其比江州守山辺之者とかや。廿五六才の時よりかみおろしなどし，世を逃れて有しが高野山の六伽藍共あまた建立し左様の事になん得たるよし聞召及れ後はこれを大仏建立の主となし賜う。内々望む所では有即仏光寺地形内に小庵を結び常住の住居として急しかば速成之便くははりぬ。殊に高野山下（しも）法師共は加様の事になれて大伽藍の手伝などに宜しき事共多かりけり。仏像大かた出来しかば漆膠（しっくい）をぬり初ぬ。東のかたに築山をつかせ虹梁なども，つなを車にて廻し引上げ毎事昔よりも自由なる事共多く有ぬ。千人許もして上げなん虹梁を百人許にて車を廻し引上にけり。」とある。ここで初めて漆膠の字を見る。

この大仏は川角太閤記によると，慶長元年七月十二日の大地震に，「漆喰にて仕りたる仏なれば地震に悉くわれ響き申し候を御覧なされ（註秀吉）さらば信濃の善光寺を移し奉れ云々」とあり，この書でも漆喰の字になっている。同書「仏像之事」の内に「震旦（中国）之仏像作り豊後に居たりしを呼上せ問けれは異朝にて大像の仏をば木像にして漆膠にてぬり立候へば百年はこたえ侍由云々」とあり，木骨漆膠塗像に決定したと謂う。（轆々史話図参照）

仏像の形から考えても塗物なら当然漆喰が考えられるが，下地は心配ないとして問題はノリにあったろう。日本壁には法隆寺の夢殿や奈良法華寺の須弥壇にも漆喰塗があった（日本建築史研究，福山氏P258）というが，法華寺の糊料は米が使われたらしい。しかし，膠の入荷もあり中国では壁に豚の血などを使うというから盛んに脱乾漆像を造っていた仏師達の工法を知っていたと思われ糊等の混和物は他にもあったとも考えられる。フノリなどの海草類のノリは，江戸初期位から一般化したという意見が多いが，海草類は奈良朝時代盛んに食用とされていたので，その粘性の汁が，奈良朝時代の工人の頭に糊料として考えられないこともない。当時すでに経師用の糊に布には米，紙には麦糊と区別されていたことが延喜式内匠寮の屏風造りの中にきめられていたことから見て，糊料に対する知識と関心の高かったことが判る。ただ喰う方が先だし平壁にはより手に入りやすい米ノリが使われたとも考えられる。

しかし大仏の漆喰塗となると，単に糊というより，ある程度の時間プラスチックの塗りやすい状態を保てるものでないと第一塗ることもできず，巧な仕事ができなかったに違いない。漆膠の膠をニカワと考えるかその他，米，海苔などとするかは，相当問題のあるところである。おそらく布海苔か角又類が使われ，温湿度通風などの状況で，糊量と水を調節しながら施工されたのでなかろうか。

桃山時代のものと推定されている岡山城西丸西手櫓修理工事報告書によると，漆喰調合を詳細に調査しており，ノリが不明だが，油の混入が明らかなので，文献を参考とし，石灰五升，蛎灰五升，苧麻真苧180匁布海苔（松前産）270匁荏油1合2勺の調合で試験塗したところ所期の防水性の強い漆喰塗ができたとされている。東山大仏造像の際には，この程度の知識はあったと思う。（註：天工開物には桐油魚油を入れるとしている）

ところが岡山城よりやや後に建造された江戸城の天守閣の外壁について失敗したらしい面白い説話が伝えられている。（東京市史稿皇城篇第一P1101）松平伊豆守が鈴木，木原両御大工頭に，「御天守の白壁度々雨風に落修復難致然間いかほど土落候とも見えざる様に下塗より白土にてぬり候に於ては右の破損つくろわずして不可見へ然るに是をぬり候て寒暑にあひても不損ねり土のつやこれ有るやとおたづね有ければ，しかと致したる証拠なきねり土の法斗也」とあり，さすがの智恵伊豆守も素人らしい質問をしたが，苔も徳川家の技師長や技監らしくない。そこで伊豆守は火事はなくとも破損のときは何れはあると思って，廿年来，「此心ありてねり土の法を吟味せしめ五色拵え廿年先より寝間の前にさらし置候内此ねり土の法不損能々と有之て張枕ほどのねり土かた五つ奉行衆の前に被出。此法を以て御天守を塗候へば其後御天守の破損無之と也」とある。（信綱記）

講談の種本のようなところもあるが，それだけに油漆喰の塗方がかなり技術的に幼稚であったことも否定できない。また永井信濃守の言葉として石灰は少し水をそそいで握りしめしこしこする程のものがよいとするといったと伝えている。よく判った者がおらず大名達が先づ普請に苦心していた様子が判る。幕府の諸制度が整い小普請方諸職人日帳にはところどころに油の字を愚子見記の内にも塩や苦汁，油などのことがあり，魚油も鯨油でよいともあって，徳川時代となると，漆喰塗も一般化したと思って間違いなかろう。ただ，石灰の原石は天工開物や佐藤信淵が早くも指摘したごとく，その成分は複雑であり，現在でもＪＥＳの建築4902はもちろん米国のＡＳＴＭ６～24でも規制しきれないところがあり，まして袋により内容が違うかも知れぬものを，何袋も一度に練合わすのが実状であり，せめて調合条件だけでも最善の状態に保ち難いことを思うと，当時のものでよい物ができなかったのは当然であったともいえそうである。

以上の話を取まとめると，石灰は白土として広辞苑にあげられた漠然として，しかも要領を得ている新村先生の解に，頭が下る思いがする。（先生はこれを書いていた八月十七日逝去された。）石灰は原石の持つ性質と価格の上から，他の類似品の進歩に比し，今後とも建材としての製品の精製には何か一応の限界があるように思えてならない。粉末製品では，価格の比較的安価なことはなお永く建材として残ると思うが，左官材料の主

役としては，書出しのあやふ草の運命とならねばとも物思っても見るのである。

さて鉄砲火薬の登場により戦国末の武将達の戦術も一変し，それを逸早く戦の主役に取入れた信長と秀吉に依って，天下統一が成るに至った。その最後に近い秀吉の北条氏の小田原城攻略の際落城した八王寺城は，屋根は草葺か板葺であったが，城壁の一部は膝喰であったことが明らかにされている。（甲野勇氏，後記す）そして同城の敗残の三人の武士が青梅在に入って，石灰を焼いて渡世するようになり，それが徳川氏の江戸城建設の石灰の主要生産者となるに至ったのである。

現在自動車の犇めく青梅街道は江戸城御造営御用の幟をはためかしてその石灰を江戸に運ぶために特に初めて開発された街道であることを知る人も今は少ない。江戸時代の石灰のことについては，この青梅の石灰が一番資料も整っており，併せて幕府の特権商人の在り方も明らかである。また江戸の急激な発展に新興の商人の活躍も目覚ましく，これらの人達の懸命の競走は，そのまま藩幕政治下の江戸商人の姿であり，わが業界としても，華かに伝えられる木場の歴史とともに，見逃せないことと思う。以下江戸の建材業者の典型的な例として，石灰とその商人に話を絞って筆を進めることにする。

天正十八年（1590）秀吉によって，八王寺城が落城すると，城主北条氏照の家臣木崎平次郎，川口弥次郎の両人は上成木村に佐藤助十郎は北小曽根村に土着して百姓となり（異説もある），かたはら従来からその地に手掛けられていた石灰の生産を初めた。八王寺城の遺跡の調査によると，城壁の一部は漆喰塗であったことからして，前記の三人は築城の時から，武士として石灰の製造に関係があったのかも知れない。（武蔵野文化協会誌，所載八王寺城と八王寺石灰，甲野勇氏，及同誌，近世における八王寺石灰について両論文は業界にとって貴重な研究資料である）

徳川氏が江戸に築城を初めると，城下町の建設とともに石灰の需要は急増した。幕府は早速上成木村，北小曽根木村に「御用石灰」を仰せ付けて，前記の三人に専売の保護権を与え思い切って生産の増大を推進した。時に慶長十一年（1606）で八王寺石灰は需要面の補償を得て，本格的な生産に入ったのである。ここにも武家出の知識人が業界の一つの途を開いている。このため，青梅附近の農家は農耕のかたはら豊富な林産物の搬出とともに，石灰の生産その原料燃料の伐採，採集，輸送の俵縄の副材料の生産などで，にわかに繁忙を呈するに至った。この勢に一時は薪伐採に手近な山が荒されるので，山持の人達が囲山として，薪の伐出しを制限する訴願が出されるほどであった。このような多量の石灰の需要に次第にもぐりの業者もできたらしく，「八王寺白土焼と被仰渡八王子と申焼印被下置」という御墨附きが下げ渡され，ここに初めて青梅附近の特権者の石灰が八王子石灰の名で売出される初めとなったのである。そして御用石灰の輸送のためには，同時に江戸えの通路に当る青梅村，下師岡村箱ケ崎村，小川村，田無村，内藤新宿（今の副都心新宿）を経て，江戸の滝之口（和田倉門の辺）の幕府の普請小屋まで宿継して運搬される助馬などの青梅街道の利がしかれたのである。余談になるが青梅材といわれた木材も，江戸建設の主役であったが，これは主として玉川の筏流しで下し，河口で江戸の木場の河並（材木人夫）に渡した。しかし端柄物や杉皮は駄送の場合も多かったらしい。江戸の小物材に四谷材四谷丸太といわれたものが青梅材などと併称されていた。現在の四谷から中央線の中野杉並区当りの材木であったことを考えると，夢のような話で，今だに所々に杉小立が残っているが，それと気附く人もない。

さてこれらの窯元は明暦の大火の際は一万数千俵の石灰を無料供出し，その後にも四万俵出荷した記録もある。石灰が町家にまで急速に延びていることを物語っている。この状勢に無免許で，石灰の生産をする者も相当に力をつけてきたらしく，窯元が幕府にその取締りを嘆願している。ようやく特権維持が経済の自由に負け色を見せてきたのである。しかも商業活動がいよいよ高度化してきたことを裏書きするように，江戸大伝馬町の赤塚屋平兵衛と三河屋勘兵衛が新生産者側の金主となって，幕府に年三千俵を税として納めることを条件に，新窯十カ所の増設が新生産者側に認可されるに至った。また芝増上寺の御用石灰を仰付けられたときには，御用石灰舟廻し金主として馬喰町や横山町の町人の登場があるなど，商業資本家が建材屋に喰込んできた。そして遂に正徳（1711）に入ってから，上成木村などから陸路川越の新河岸に出で，川を下って浅草蔵前まで舟運で送られる途が開かれている。川越から江戸えは，荒川の支流から荒川に入る水路で，智恵伊豆守の企画で慶安元年（1648）下新河岸から疎通し，「九十九曲りやあだでは越せぬ通い舟路の三十里」（陸路の二倍半）が通じていたのである（千住節）。しかし，この間青梅街道の陸送はもちろん行なわれていた。その後新旧業者の対立はますます激しくなり，独占のうま味は次第に薄れいくのも自然の勢であった。ところが享保年間（1716〜1735）になると，業界には泣き面に蜂式の事態が起った。それは安価な蛎灰が関西から大量に流入してきたことで，ただでさえ深川辺りで蛎灰が生産し初められた矢先に，追打をかけるような他所者の強敵の来襲による商戦となったのである。八王寺側は特権により蛎灰方も幕府に共に請願がなされ，その判決が享保十七年（1732）に出ている。「大岡越前守様御勤番中拾窯に御定被成下関八州無印之蛎殻灰取扱申間敷旨」とあり，さらに江戸蛎灰仲間に対し運上として一千俵を上納させることにし，八王子石灰仲間の内廃業窯八個分の運上二千八百俵を引受けさせてその分七十九両一分と永八十三文の金納によって助成させ，営業の株式を定めて，他国から廻送される石灰の売買を禁止して，石灰の仲買人四十余人を練売仲間（漆喰を作ること）に定めた。文意やや不明の点もあるが，とにかく蛎灰の他国からの流入を防止する対抗上，急速に江戸の業者によって生産が拡大されたようである。

練売仲間はいかなるものか明かでないが，文字通りに解釈すれば，生コン式建材販売のはしり的存在である。しかしこのような不自然な経済統制が円滑にいくような時世ではなく，商人の突上げに奉行も，蛎灰の流入の取締りには手を焼いたが，効果は上がらず，小舟で何処の河岸にも上げられる業者の跳梁にまかせる有様となった。そのような事態のところに，野州などの石灰が入荷するようになり，遂に寛延三年（1750）には野州他各地の石灰の自由販売を一時的に許可せざるを得ないようになり，それがまた元に戻されるという，不手際を繰越えす幕府と業者の窮状が続いた。そして寛政に入ると上州，常州，江州，濃州などの石灰が江戸に進出し，禁令になっていた石灰と蛎灰の混合灰も江戸では大手を振って流通するようになった。幕府も遂に匙を投げ寛政十一年（1797）六月に至って，「向後は関八州其外諸国共願出候はば吟味の上焼出方申付にて可有之候」と一般に石灰焼営業の自由を許したのである。八王寺石灰の特権を与えてから，実に191年目である。江戸城がようやく一部ができて秀忠が入城した年に特権が与えられており，その時の江戸の町は町家もまばらな時代である。それが延宝五年（1677）の60年後には大名屋敷520余小名屋敷2,870余，寺院850余，神社120町数900，人口は約百万人位であった。（註：享保八年の調査（1723）は町人数526,317とあり，武家関係の人口を加えると百万余となる）前記の石灰商の繁昌振りは，当然の結果であり，むしろ，よくもそれまで経済原則を無理押しできたものと封建制下の縄張りの強さに今さら感心する次第である。この無理が建材商に貴重な体験となったことは疑いないが，一方いろいろの意味で商人の経営理念に末永く好ましからぬ悪影響を与えたことも否定できないし，考えさせられる多くの問題を残したと思う。

石灰の話を終るが，文中他国ものの石灰の流入の実状は，商工業の発達や大消費都市江戸の建設業のようやく殷賑の状を示すもので，時に交通輸送の自由の拡大化は業界の道ようやく開けたかの感を深くするのである。大きく見て，封建制の無理が時勢に押し流されそうになって，何かの動機で大政治的変革近きにあるを思わせるものがある。神田鍛治町の絵草紙屋の裏店に清水喜助が大工業を初めたのは石灰が自由の営業布令の出た七年後である。業界の夜明け頃である。千数百年の永い間日当りのよくない生活に耐えてきた業界にも，いつまで草を書いた清少納言の「春はあけぼのやうやうしろくなり行く山ぎはすこしあかりてむらさきだちたる雲のほそくたなびきたる」の文章のような明るい先がよくやく見え出してきたのである。

日本建築協会 月間の動き

□昭和43年1月分□

建築データシート編集委員会

委員会
6日　12時半～5時　於会館集会室
出席者　中原，松村正副委員長ほか16名
議事　第一回出版実施に伴う編集打合せ
そのほか

原稿執筆打合会（基礎，地業工事）
11日　1時半～3時　於会館集会室
出席者　掲載会社　アサノボールほか20社
委員会　中原委員長　木村（博）
西川幹事ほか2委員
議事(1)掲載要綱，執筆要綱について
(2)執筆項目と内容　(3)原稿締切について

原稿執筆打合会（防水，防湿工事，屋根工事）
11日　3時半～5時　於会館集会室
出席者　掲載会社　工英社ほか4社
委員会　篠崎幹事ほか2委員
議事(1)掲載要綱，執筆要綱について
(2)執筆項目と内容　(3)原稿締切について

委員会
18日　5時半～10時　於会館集会室
出席者　中原，松村正副委員長ほか13委員
議事(1)第1回原稿執筆打合会報告
(2)第2回以降の原稿執筆打合会開催
(3)掲載依頼会社以外の掲載希望会社の扱い

A編集グループ及び編集デザイン分科会打合会
20日　1時半～6時　於会館集会室
出席者　西川幹事ほか4名

原稿調整打合会（基礎，地業工事）
22日　5時半～9時　於会館集会室
出席者　掲載会社　大林組ほか9社
委員会　西川幹事ほか4委員
議事　無音無振動基礎工法原稿の調整について

デザイン分科会
24日　正午～2時　於会館集会室
出席者　池田幹事ほか2委員
議事(1)第2回以降の原稿内容について

原稿作成説明会（防水，防湿工事，屋根工事）
27日　3時～4時　於会館集会室
出席者　掲載会社　旭化成ほか17社
委員会　篠崎幹事ほか4名
議事(1)掲載要綱，執筆要綱について
(2)執筆項目と内容　(3)原稿締切について

編集Aグループ打合会
29日　5時半～11時30分　於会館集会室
出席者　中原委員長，西川幹事ほか2名
議事　基礎，地業工事原稿調整作業

編集委員会

教育施設特集幹事会（第1回）
8日　5時半～8時半　於会館集会室
出席者　多胡幹事ほか3名
高等教育（大学）施設，初等中等教育施設について

委員会
12日　4時～6時　於会館集会室
出席者　政岡理事ほか6名
議事(1)2月号＝都市のいこいの場特集経過報告
(2)3月号＝創立50周年記念事業記録号経過報告
(3)4月号＝幼児施設特集経過報告
(4)5月号＝教育施設特集企画
(5)6月号＝都市医療施設特集幹事会の件

常任幹事会
12日　6時半～7時半　於会館集会室
出席者　多胡幹事ほか2幹事
議事　幼児施設関係行政一覧表，乳幼児施設の歴史，その他について協議

教育施設特集編集幹事会（第2回）
25日　5時～7時半　於会館集会室
出席者　鍛治特別幹事ほか5名
教育施設特集第1回幹事会案にもとづき協議

住宅委員会

住宅総務委員会
10日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　黒谷副委員長，坂井主査ほか3名
議事　委員会の事業活動について

住宅スライド作成小委員会
19日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　奥山主査，垣内委員
今までのまとめと今後の活動について協議

委員会
24日　5時半～8時半　於会館集会室
出席者　岡橋，黒谷正副委員長ほか11名
議事(1)住宅スライド作成小委員会報告
(2)住宅資料蒐集小委員会報告
(3)第5回よろず相談住宅展の構想そのほか

出版委員会

鉄骨デザイン幹事会
18日　2時半～5時　於会館集会室
出席者　木田，宮川幹事
議事　製本その他打合せ

事業委員会

委員会
23日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　政岡委員長ほか14名
議事(1)忘年懇親会の報告
(2)2月以降の事業企画について
(3)次年度委員会の構成について　そのほか

若い会員の集い小委員会
25日　6時～9時　於会館小会議室
出席者　能勢幹事ほか3委員
議事　最終事業企画，次年度委員，そのほか

説明会小委員会
26日　正午～1時　於会館集会室
出席者　近藤副委員長，推原委員
議事　最終説明会の企画

教育委員会

鉄骨構造設計講習会講師打合会
23日　11時～1時　於会館集会室
出席者　講師　鷲尾健三ほか4名
委員会　橋本委員長，辛木副委員長
議事(1)大阪会場での講習会について
(2)地方都市での講習会企画について

委員会
24日　正午～2時　於会館集会室
出席者　橋本委員長，辛木，谷口副委員長ほか4委員
議事(1)鉄骨構造設計講習会について
(2)次年度の事業企画について
(3)次年度の予算編成について

鉄骨構造設計講習会カタログ賛助会社打合会
31日　正午～1時　於会館集会室
出席者　日本鋼管
議事　カタログ配布打合せ

法規委員会

24日　3時～5時　於会館集会室
出席者　佐野委員長ほか8名
議事(1)士法，基準法，都計法，そのほかの諸問題について
(2)本年にとりあげるべきテーマ

建材委員会

26日　3時～5時　於会館集会室
出席者　堀内委員長ほか6名
議事(1)防露対策のまとめ　(2)今後の検討事項

表彰候補者推薦委員会

30日　11時半～1時　於綿業会館
出席者　中沢委員長ほか2名
議事　叙勲候補者の推薦について

6団体合同新年交礼会

4日　1時～2時　於コクサイホテル
日本建築材料協会の当番で恒例のとおり開催
参加者　466名

1月の入会者［敬称略］

〔団体会員　1社〕
共栄パーライト販売株式会社

〔口数増加〕
関西電力株式会社　旧1口　新25口

〔個人会員　64名〕

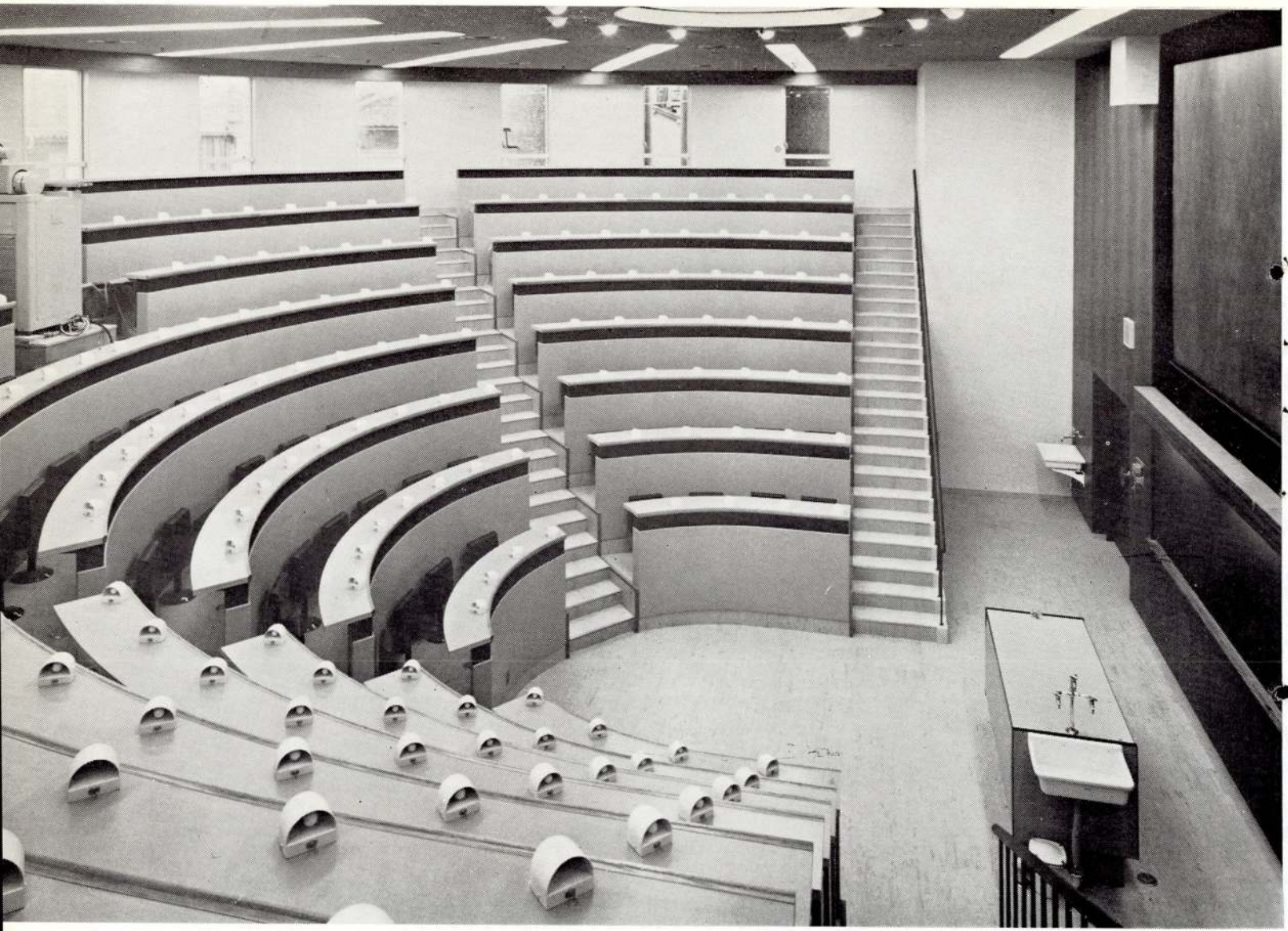
安東　篤行	近藤　達雄	人見　尤浩
浅井　英男	佐々木勝孝	平居　繁三
荒井裕喜男	坂本　和男	藤島喜久男
井原　唯雄	桜田　公則	福田　亨吉
池田　静治	清水　克治	福田　良平
石谷　史郎	寒川健太郎	星　利安
出田　肇	田中　修一	星　直延
岩本　勇	津田　茂生	本田　英生
上田　敦士	土橋　勝他	松原　孝喜
内山　義治	鶴川　隆造	三輪橋高司
大庭　剛志	出口　慶治	宮本　健司
加島冨美之	出麹　保	向井　文雄
神田　泰秀	殿西　幸弘	森下　陽治
桐石　正史	豊嶋　平和	森本　俊次
久保　昌徳	中山　英治	山之内泰夫
久保木　修	西谷　清	山口　定男
日下　英雄	西山　高明	山下　良計
熊田　大輔	根来　譲二	吉田　明弘
黒田　三郎	野波　治	和田　充弘
小竹　壮一	橋上　勝栄	渡辺幸太郎
小西　千年	東田　孝三	
国部　雅孝	久森金太郎	

〔准会員　40名〕〔氏名省略〕



大阪市立大学医学部付属病院第２新館

施　工　株式会社 奥村組



臨床第1講義室（175座席）

大阪市立大学医学部付属病院第2新館



6床室

内装壁タイル

淡陶株式会社大阪支店

大阪市西区阿波座中通1の9　電話（532）5301（代）

防水工事

内外工業株式会社

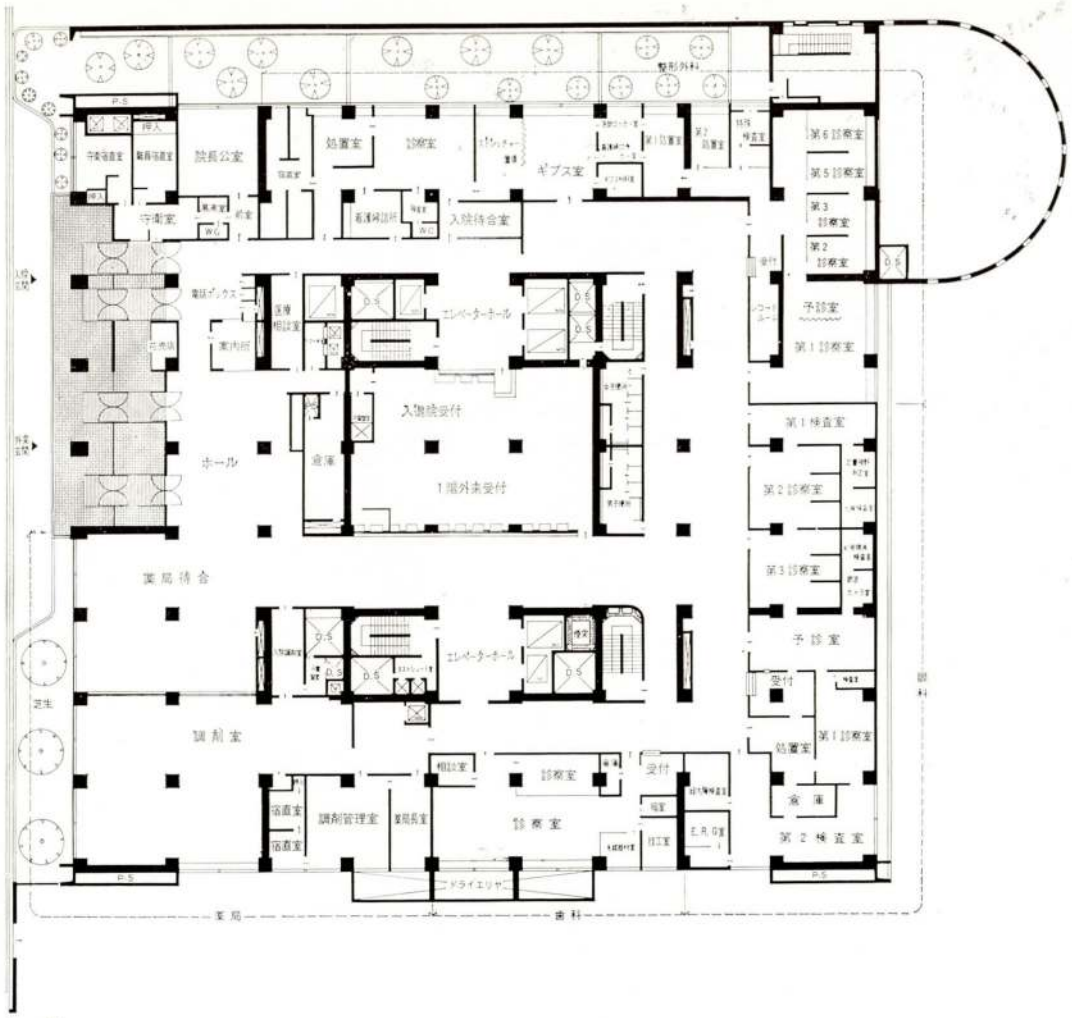
大阪市阿倍野区旭町1丁目1の30　電話（641）3434～6

オートドアー
ダイヤモンド印フロアーヒンヂ製造発売元
ドアーチェック
ピボットヒンヂ

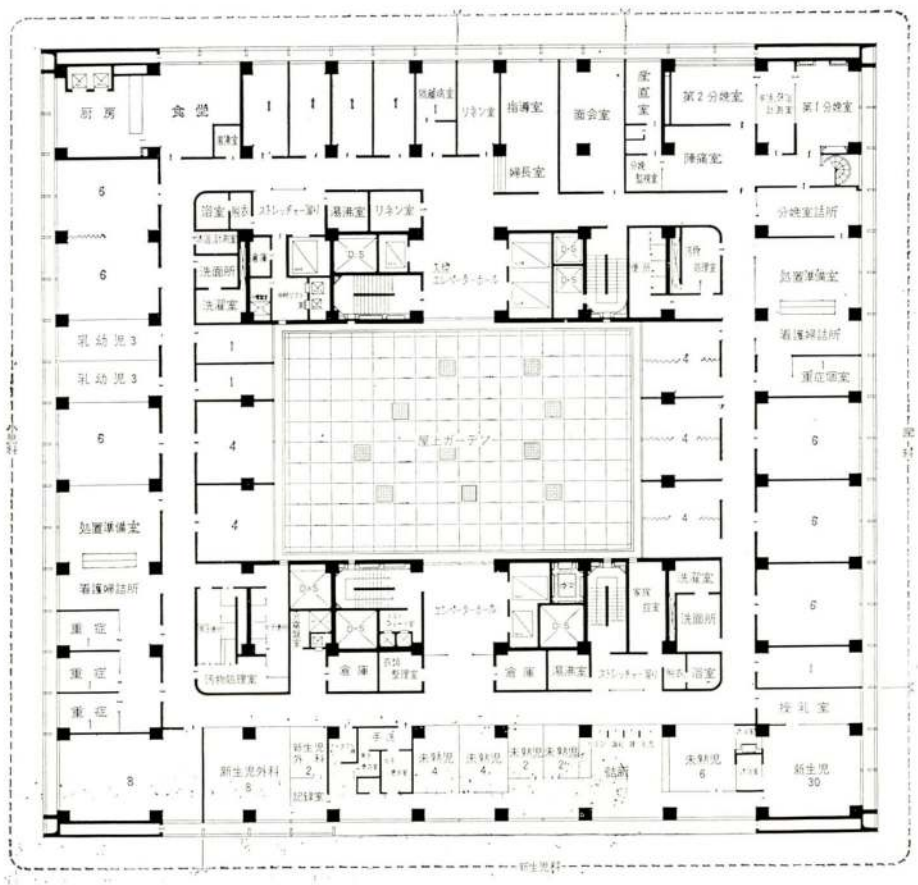
大鳥機工株式会社

大阪市北区富田町40新日清ビル7階　電話(361)5593(代)

大阪市立大学
医学部付属病院
第２新館



1　階



4　階

設　計	大阪市建築局 日建設計工務株式会社
監　理	大阪市建築局
所在地	大阪市阿倍野区旭町１丁目5番7号
敷地面積	4,848㎡
工　期	昭和４０年６月着工 昭和４２年11月完工
延床面積	本館 25,313㎡ 地下連絡道 328㎡ 合計 25,641㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造， 地下２階，地上７階（１部８階） 塔屋２階，建物の高さ軒高 29m 塔屋軒高 36.8m
外　装	磁器モザイクタイル及び小口磁器タイル貼，外部廻り建具アルミサッシュ，鋼製建具

内部配置

外来部門１階　整形外科，眼科，歯科，薬局，病客事務室（１階外来受付・入院事務）

２階　第１内科，第２内科，第３内科，小児科，神経精神科，皮膚科，泌尿器科，中央検査室，２階外来事務室

３階　第１外科，第２外科，脳神経外科，産婦人科，耳鼻咽喉科，麻酔科，外来手術室，中央採取室（予定）３階外来事務室

地１階　放射線科，薬局製剤室・管理室及び薬品倉庫，（臨床第１講義室，外来食堂）

病棟部門　病床 490床

４階　産科，小児科，（分娩室，新生児室，未熟児室，新生児外科室），110床

５階　眼科，耳鼻咽喉科，131床

６階　第１内科，第２内科，129床

７階　第１内科，第２内科，第３内科，120床

その他

８階　電話交換室，空調機械室

地２階　臨床第２講義室，中央材料室，職員食堂

臨床講義室第１　184㎡―175座席

〃　第２　117㎡―111座席



大阪市立大学医学部付属病院第２新館

玄関庇鼻及び天井スパンドレル工事

大阪アルミニウム株式会社

本　社　堺市下田町26番地　電話 堺 (62) 5551番 (大代表)
営業所　東 京・札 幌・福 岡・大 阪・広 島・名古屋

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　電話　大阪364代表 0206～9

室谷

内装資材専門店

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　(英和ビル)
直通電話　神戸(33) 0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル5階 502号室)
直通電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5　(電話㉒2923)

KANDAN

●空気調和設備　●給排水衛生設備
●各種送排風機　設計施工

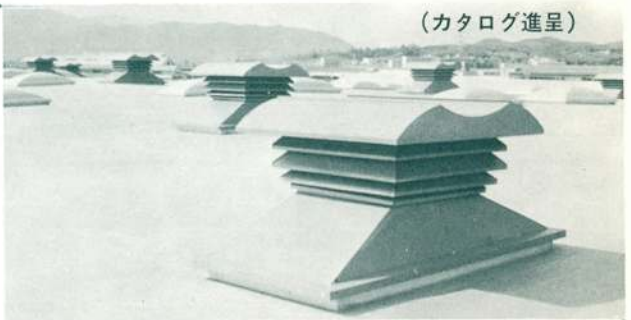
関西煖房工業株式会社

本社　大阪市住吉区万代東六丁目三番地　電話 大阪 (672) 大代表1281
出張所　名古屋・広島・福岡　工場　堺・和泉・名古屋

特許　岩元式ベンチレーター
(電動式並固定型各種)

岩元式ベンチレーター　A型・B型・固定型
岩元式連塔換気装置
新型　換気塔 NSライン　(強制換気扇付)
新型　換気塔 SFスーパー　(特殊装置による風量増幅 換気扇の能力を倍増する)
最新型　採光排気塔(風光)スーパーライン特殊増幅装置付
スカイライト工事・通風ルーパー
スチール及アルミサッシュドアー・各種シャッター製作施工
其の他　曲加工一式

(カタログ進呈)



岩元工業株式会社

大阪市東成区東今里四丁目40番地
電話 (981) 0616～0618

暖冷房・換気・温湿度調整・衛生諸設備
設　計　・　施　工

暁建設工業株式会社

代表取締役　田中喜久雄
大阪出張所長　猪俣英雄

本　社　東京都中央区日本橋通３－１　電話(201) 0181(代)
出張所　大阪市北区樋ノ上町５　電話(363) 4108～９
名古屋市中村丸ノ内２－17－10　電話(231)3046・6007
福岡市東湊町３８　電話 (74) 6863
(75) 5482

創　業　暖冷房・換気・温湿度空気調和　設計
大正二年　病院諸設備・給排水衛生・水族館設備　施工

株式会社 斎藤省三商店

東京店　東京都千代田区丸の内２の２　丸ビル６７６号
電話 212(代)3751
大阪店　大阪市西区土佐堀通１の１　大同ビル６１６号
電話 443代 3361
札幌店　札幌市北十条西１８丁目３６番地　電話 61(代)4371
名古屋店　名古屋市中区栄３の５番２９号　千代田ビル５１４号
電話 261(代)0641
京都店　京都市南区西九条春日町４８番地　電話 68(代)1781

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

C.C 株式会社 朝日工業社

本　店　大阪市東淀川区加島町357　電話 (302)2271～9(代)
大阪支社　同　上
東京本社　東京都港区芝浜松町2－7　電話 (434) 6171(大代)
支　店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　釧路・盛岡・横浜・神戸

冷暖房　6Sサッシ
給排水、衛生水道　環境衛生施設
電気　荷役運搬機械
厨房　化学鉱山機械

三機工業 株式会社 大阪支店

取締役社長　大前玉男
取締役支店長　樋口勝栄
大阪市東区北浜２丁目２２番地　電話 大阪 (202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支店・出張所　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、富山、金沢、静岡、高松

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区高垣町一・電話大阪371局7151(代表)
京都市東山区大和大路正面上ル　電話京都56局4945(代表)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸34局　５８９２

空気調和・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃商会

本　社　大阪市北区富田町16番地　電話(364) 代表7031
支　店　東京都千代田区神田小川町2丁目1番地　電話(292) 代表7751
広島市紙屋町１丁目２番22号　電話(47) 代表4535
福岡市大名１丁目８番12号　電話(76) 代表3795
出張所　名古屋・富山・金沢・福井・京都・松江

電気・空調・給排水・衛生設備・設計施工

大阪電気暖房株式会社

取締役社長　菅谷知巳

本　店　大阪市西区江戸堀１－６０　電話 (441) 8231 大代
支　店　東京・名古屋・福岡
営業所　北海道(札幌)・東北(仙台)・北陸(金沢)・中国(広島)
出張所　京都・神戸・岡山・高松・熊本・横浜
新潟・富山・福井・津

須賀工業株式会社

空気調和　衛生設備

大阪市西区土佐堀通１丁目１４　電話 441—5171
支店－東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所－広島

営業種目●空気調和設備●給排水衛生設備●塗装設備
●蒸気噴射式冷凍機／設計・製作・施工

空気調和のケンザイ 株式会社 建材社

KIZAI

本社・東京支店＝東京都中央区銀座西6－3 ㊒(572)7411 代
大阪支店＝大阪市北区中之島２－22 ㊒(203)3721 代
名古屋支店＝名古屋市中区錦２－２－13 ㊒(211)1535 代
出張所＝札幌・仙台・北陸・神戸・広島・松山・九州

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設　計　施　工

第一企業株式会社大阪支店

大阪市北区北同心町１丁目５７
電話 (351) (代表) ２８０８
本　社　東京都文京区本郷１丁目１２－５
電話 (811) (代表) ６２９４
支店出張所　名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設　計　並　施　工
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町１１番地
電話　大阪 (443) ５０４１～５番

東京本社　東京都千代田区大手町２の８番地(日本ビル)
電話　東京 (270) ７４１１番 (代表)
札幌営業所　札幌市南大通西4丁目1札幌道銀ビル　電話 札幌㉒5756
金沢営業所　金沢市高岡町２番１６号　電話 金沢㉑2074
福井出張所　福井市御幸２の１　電話 福井㉔2436
高松出張所　高松市２番丁９　電話 高松㉑5195
岡山出張所　岡山市大供３８０の１　電話 岡山㉔5486

温湿度調整装置、暖　房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町３０　電話 (361) ５１７７(代)
(364) ０９７７(代)
本　社　東京都千代田区丸ノ内３－２(新東京ビル)
電話 (211) ８５１１・８５６１(代)
仙台支店　仙台市新伝馬町６０
電話 (21) ４４９１
名古屋支店　名古屋市東区東門前町３－６
電話 (971) ３６２１

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区梅田8番地(新阪急ビル8階)
電話　大阪(312)4521(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

暖冷房・給排水・衛生・消火設備
設計施工

株式会社 森野工務店

本社　大阪市北区菅原町75　電話(361)㈹6571
支店　東京都新宿区新小川町3－32　電話(269)2833～4

Carrier
空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社 大阪支店

大阪市北区堂島浜通1－25(新大ビル)
電話大阪(344)1512(大代)
本社　東京都中央区日本橋本石町4－2(三井第二別館)
支店東京・名古屋　出張所九州
工場埼玉県北足立郡・東京都足立区

冷暖房・温湿度調整・水道
衛生・環境衛生施設
設計施工

山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀1丁目62　電話(443)代表8161～9
支店　名古屋市中村区水主町1の12　電話(541)0966(551)1655
出張所　東京都北区上十条1丁目9番22号　電話(900)5141
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1　電話(34)1778・4386
広島市袋町6番4号　電話(47)7575・7588

MODAIR
空気調和設備設計施工
換気・除塵設備

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区京町堀4丁目　TEL(443)8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562)1351
支店　名古屋・福岡

温湿度調整装置・冷暖房・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設計・製作・施工

理研鋼機株式会社

大阪支店　大阪市東区高麗橋5－45(興銀ビル別館)
電大阪代(202)7745番
本社・工場　東京都北区神谷3の10の8
電東京代(901)3191番
空調事業部　東京都港区西麻布4-15-23(第5興和ビル)
電東京代(409)0151番
支店　名古屋・仙台　連絡所福岡

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

代表取締役　市川繁雄

本社　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪営業所　大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話(352)3501～3
四日市営業所　四日市市浜田西末広町　電話(53)7431～3
津営業所　津市栄町2－111　電話(8)3610
鳥取営業所　鳥取市品治町鳥取農協会館内
電話(22)4477

General Electric (G. E) 社製
冷暖房機「ゾンナル」「ウェザートロン」その他各種冷暖房機
温水ボイラー「ハイテンプ」(西独WEBSTO社技術提携)

西日本総販売元

岩佐物産株式会社

本社　大阪市北区老松町3－56(西天満ビル)　電話(364)2238(代表)
東京　東京都中央区霊岸島1－10　電話(551)1079・1617
名古屋　名古屋市南区大磯通2－7　電話(821)3558
四国　八幡浜市大黒町3　電話八幡浜514・14

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11　電話大阪(458)3151番
出張所＝京都・福岡

Carrier
冷暖房は CARRIER キャリア
東洋キヤリア工業(株)製品販売店・特約工事店

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　大阪市西区土佐堀通1－16(石川ビル)
電話大阪(443)3661～5

給水　衛生　空気調和設備
設計施工

平山工業株式会社

取締役社長　平山京平
大阪市西区江戸堀2丁目2番地
電話　大阪(441)代1994　(443)代0331

エレベータ・リフト・カーリフト
設計・製作

日本エレベータ工業株式会社

代表取締役　長尾正大

本社　大阪市大淀区天神橋筋六(天六阪急ビル)　(351)4927代 4540
大阪営業所　(351)4927代　サービス事業所　(328)0364代
東京営業所　(822)0995代　工場　(328)0363代

各種電気工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長　浅海正雄

本　社　大阪市北区老松町ノ丁目22
電話大阪(362)8701
東京支社　東京都港区赤坂1丁目5番7号
電話(481)8621代表
支　店　名古屋・札幌・福岡
営業所　旭川・横浜・浜松・姫路・高松

電気工事設計施工

工藤電気株式会社

取締役社長　西村庄市

大阪市北区野崎町六九　電話・大阪(313)代表3456
東京支店　東京都中央区西八丁堀二丁目十二
電話(553)0011代表
営業所　名古屋・神戸・岡山・倉敷・広島・北九州

電気工事・計装工事
設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長　栗原信英

大阪市北区高垣町16番地(東阪急ビル)
電話　大阪(313)1101(大代)
支店　東京・名古屋・舞鶴・広島・九州・神戸

電気工事設計施工

株式会社　三興社

代表取締役　林　敏夫

本　社　大阪市北区絹笠町50(堂ビル7階)
電話㊾3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話㊿1478(代)
出張所　川崎・相模原・堺・福山

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長　嘉納伝三

本　社　大阪市北区絹笠町五〇(堂ビル三階)
電話(364)1471(代)
支　社　東京都中央区明石町6－23(辻孝ビル)
電話(542)561
営業所　名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話(991)5131～3
出張所　神戸市・堺市・高槻市・姫路市

電気工事・計装工事・設計施工

中央電気工業株式会社

取締役社長　今村　騰

本　社　大阪市北区梅ヶ枝町56番地
電話　大阪　大代表(312)8881
支　店　東京・名古屋・四日市・神戸・和歌山
営業所　松山・京都・草津・静岡・水島・福岡

電気設備 ε 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本博三

本　社　大阪市北区中之島3の3　朝日ビルディング
TEL　代表　(448)1361
営業所　大阪市西区土佐堀通り4の8
TEL　代表　(448)1361
営業所　京都市中京区西ノ京中合町20の11
TEL　代表　(81)9296

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大阪支社

支社長　姉川正男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地　電話大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番地
支　社　札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
出張所　旭川・白河・横浜・静岡・富山

電気工事 中 設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長　中本正明

本　社　大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話大阪(931)代表7341～5
0388・2193
資材倉庫　大阪市城東区野江東之町三丁目一一　電話大阪(931)7004
奈良営業所　奈良県御所市御国通り360　電話御所②2607・4259

各種電気工事設計施工・制御盤製作

野里電気工業株式会社

取締役社長　池内文夫

本　社　大阪市西淀川区柏里町1丁目110番地
電話大阪(472)代表1101～7
支　店　東京都品川区西五反田6丁目25番11号(福島ビル)
電話東京(491)1746(492)0182・0350
営業所　北九州市小倉区鋳物師町23番地
電話小倉(56)5665・5818
出張所　群馬・千葉・和歌山・名古屋

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長　田中　実

本　社　大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪(541)0564～7・7148～9
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

各種電気工事設計施工

株式会社　**ヤマト電気商会**

取締役社長　山本永造

本　社　大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪(364)代3056
東京営業所　東京都港区新橋5－34－6　相馬ビル5階
電話　東京(434)3848・(431)8435
出張所　大阪南・北海道・名古屋・四日市・福山・福岡

青写真とマイクロフイルム

株式会社 内外写真

製図・トレース・複写写真

大阪市北区堂島北町16 TEL ㊸ 9055（代表）

奉仕感謝の店

タイル工事施工

特許申請中・完全滑止タイル

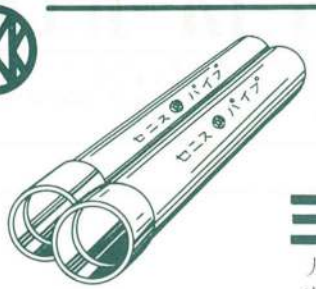
サンエス
SSS タイル 新発売

（カタログ進呈）

㊊ 株式会社 川岸窯業商店

大阪市西区靱本町２丁目９８ 靱本町電停前

電話 大阪（532）０４６１～４番



トラフ・ヒューム管

ベンチレーター・マンホール

株式会社 三幸商會

大阪市北区与力町 ノ ○

電話 大阪(358) ４０３１

営業品目

● カネボウゴーレックス防水
●化粧壁材ソリジットスタイン吹付
●樹脂砂壁エバーサンド吹付
●樹脂蛭石エバテックス吹付

Sorijitto Sutain

合同特許建材工業株式会社

本社営業所・大阪市東住吉区駒川町３－54 電話(702)代7814－6

特約代理店・東京・名古屋・金沢・広島・今治・福岡

耐酸ツボ各種

陶器、ガラス製品卸問屋

セトモノのデパート

源八橋セトモノ百貨店をご利用下さい。



株式会社 吉田芳雄商店

本 店 大阪市北区旅篭町18 電話(361)3450・(364)2345

源八橋店 大阪市北区天満橋筋4－78 電話(358)1790・1838

株式会社 矢橋大理石商店

大阪出張所

大阪市東区高麗橋二丁目九 野村ビル五階

電話 大阪（231）４２５７－８番

FUTABAYA DECORATORS, LTD.

建築物、船舶等造作工事

家具、建具、寄木、室内装飾工事 設計施工

内外装飾織物・窓掛、敷物、壁紙類一式

㊊ 二葉屋装備工業 株式会社

取締役社長 若林繁吉

大阪市大淀区本庄川崎町２の６

（創業大正７年） 電話・大阪(371)3321～3・3630

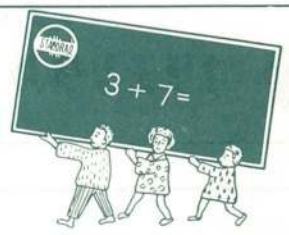
仏

社寺数寄屋用瓦……大仏瓦

内外装用窯変美術タイル……大仏タイル

（株）大仏

本社	京都市東山区今熊野大仏池田町９の９	075（56）3555 3725
大阪営業所	大阪市北区堂心町１丁目２８	06（351）0703
名古屋営業所	名古屋市守山区大字小幡山脇27	0560（51）1321
東京営業所	東京都渋谷区上原１丁目29の４	03（467）1641
工場	京都 清水・山城・瀬戸	



Standard Board&Slate

フタバ黒板

大阪市東住吉区桑津町３丁目１０１番地 電話大阪(717)4561～2

雨水浸入剝落防止

耐震耐風

安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

３寸緩勾最適軽量水止付（空葺）瓦

ナニワ瓦株式会社

大阪市浪速区元町二丁目四〇電話(641)四五五

特許 白蟻

松平式白蟻殺滅予防所

所長 防除士 松平藤佐根

奈良市南城戸南方町２８ 電話（22）4098

奈良市登大路二番町（博物館前） 電話（22）4098

本部 高知県宿毛市宿毛町２６３９

カーテンウォール
アルミニウム サッシ・ドア
ステンレス サッシ・ドア
新製品
規格サッシトッカ70
公共住宅型サッシトッカKJ
住宅用夢窓サッシ

●超高層時代をになって、カーテンウォールの果す役割はますます大きくなりました。カーテンウォール工法の開拓者である東京カーテンオール工業の、この分野における特異な技術は広く業界に認められていますが、アルミ、ステンレス、アルキャスト等を使用した美しい金属外装で都市に一層の美観をそえることも、またビルディングドレスメーカーとしての東カテの使命です。先般米国レイノルズインターナショナルInc、に対してアルキャストの技術を輸出しました。

東京カーテンオール工業
本社及工場　東京都荒川区西尾久4丁目12－12　電話（893）0111大代
大阪支店　大阪市南区順慶町通4－25（順慶町ビル）　電話（252）5891代

腐らない そして 燃えない
法定不燃材 829号
ケミカラーオーシマメタル
新しい型の
ひふくてっぱん
屋根材、壁材・谷樋棟包水切に
スタンダードメタルの大島応用化学
東大阪市新庄（782）4171代

●法定不燃材の屋根長尺現地成型
ガスにも／熱にも
酸・薬品にも
大丈夫です
●責任施工・型録送呈

特許●耐酸・耐アルカリひふく鉄板
オリエンタルメタル
●永久建材の超ひふく鉄板
スーパーオリエンタルメタル（SPM）
カラースーパーオリエンタルメタル（CSPM）
●新時代にマッチした各種のカラー製品があります

オリエンタルメタル製造株式会社
本社工場　尼崎市大物北口　電話 大阪（481）8085～9
大阪支店　尼崎市北新町4－41（古川ビル）　電話 大阪（481）8085～9
東京支店並工場　埼玉県蕨市東町2－20－4　電話 蕨（32）3115～7
支店・出張所　郡山・八幡・名古屋・川崎・岩国・宇部・延岡・敦賀・三原・徳島・徳山

網入光り波型ガラス（スレート小波／スレート大波）　長サ965m/m　1,818m/m
ダイニチ・アーモライト 波板・平板
（硝子繊維強化ポリエステル板）各種波、寸法（長尺物有）
製造販売　大日本硝子工業株式会社
大阪支店　大阪市北区玉江町2ノ4（三菱倉庫ビル）　電話（441）1389・3389・3281
本社　神奈川県相模原市小山字久保224　電話（72）3101～4

内装
カーテン
ブラインド
アコーディオンドア
クロス
ジュウタン
木工練付



床貼
Pタイル
カラローン
リグノイド
ロンリューム
ビノリューム
リノリューム

特許 気光式通風器 製造

田辺工業株式会社

大阪市西区江戸堀2－79　TEL〈441〉7437～9

石綿セメントの最高水準を行く!!

アスベストバリヤ

Asbesto Barriev（硬質石綿板）

建物内外壁、間仕切、天井扉、電気室、発電所、配電室、製鋼、ガラス工場の壁、製糖、製油製薬工場の床、スカート壁などに最適。

（呈カタログ）

泉石綿工業株式会社

大阪市北区同心町1の11　電話(351)3442・4078

製造発売元・責任施工

特許ニッポン防水液
ニッポン防水液B号
ニッポン急結液壱号
ニッポン耐寒剤
ニッポン防水目地材
ビルコート

標準セメント防水剤

国立大阪工業試験所御創製
特許 ニッポン セメント防水剤
強度増加 絶対防水 硬化促進

黒川化学のセメント防水

有限会社 黒川化学工業所

本店 工場　神戸市東灘区住吉町反高林 TEL (85) 2723

Taniyama

送風機



営業品目

- LAF形　リミットロード送風機
- VAF形　可変式軸流送風機
- SAF形　ストリームライン送風機
- CAF形　遠心式静音軸流送風機（特許）

株式会社 谷山鐵工所

本社工場/大阪市城東区野江東之町二丁目一番地
電話　大阪（931）代7803～9
東京出張所/東京都文京区湯島四丁目六番十七号
電話　東京（811）3435・3440

ニチレ®ナイロン **ユーロン®カーペット**

表はナイロン 100%の植毛ですから弾力性に富み耐久力に優れています。

施工用……**ユーロン®カーペット**の独特の品質を特別な裏ゴム加工を施して工事用に合理的な価格で作り上げました。

デラックス……スベリ止め加工、重量感のある豪華さ。

スタンダード……裏は板ゴムで特に工事向の価格。

大誠化工株式会社 本社 大阪市東区安土町1丁目23(新船場ビル) 電話 (06)261－5716(代表) **U-LON**

OKUYAMA-KAKOGYO WATER-PROOF OAM

陸屋根防水には 奥山式 特許 絶縁工法 を

カッパー防水帯 コーパータイト

パーフェクトな 冷工法 **デラタイト**

奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座西８－３ 電話(571)2703～4・2370・4064・0264
大阪出張所 大阪市都島区都島中通り５－４ 電話 (921) 2497
名古屋出張所 名古屋市南区若草町３３ 電話 (811) 3660

内外

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト（樹指）
モルタル工事

N.G.C.式

米国パブコ・アスファルトコンパウンド
米国バイヤーライト・アスファルトコンパウンド } 販売

各種シート防工事 責任施工
新防水材リベットルーフ 責任施工

内外工業株式会社

本社 大阪市阿陪野区旭町１丁目１番地30号 電話(641)3434～6
(631)0810(夜間)
工場 大阪市東住吉区桑津町３丁目16番地

特許 内外式 意匠登録

電動ベンチレーター

屋上強制換気装置製作のパイオニア

50年の豊富な経験と技術、研究により
1．最高の換気率
2．スマートな外観
3．雨仕舞の完全
4．価格の低廉
5．直傭工による施工の完璧
6．行届いたアフターサービス

近畿ヨカコーラボトリング美原工場
NK型口径 900m/m (モートル3HP) 40基

内外建材株式会社

移転仮営業所 大阪市西区江戸堀北通２の３(新坂ビル) TEL(441)3983～4・4396
工場 大阪市城東区天王田町１の１４１ TEL(962)１１４９

内外式コンチニアスベンチレーター
筒型ベンチレーター
内外式ガラス屋根
内外式連続採光換気装置
設計施工

発明賞に輝く各種特許235件所有

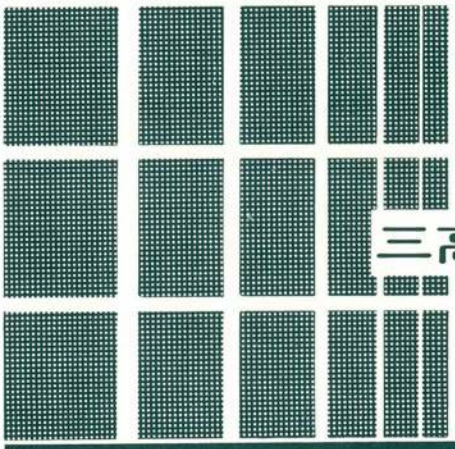
特許　鈴木シヤタア

65年の歴史最高の技術最大の生産

防煙火・防災・防盗

鈴木式防煙火シヤタア・リンググリル®シヤタア・
ステンレスシヤタア・アルミニュームシヤタア・
40・ピーアップ®シヤタア・汎用シヤタア
その他特殊シヤタアの製造
アフターサービスの完璧

株式会社 鈴木シヤタア商会
大阪市北区茶屋町33番地　電話大阪(06市外局番)371代表4151～6
北陸営業所　金沢市長田町119番地　電話金沢(0762市外局番)21－2287



スチール
アルミ
ステンレス
サッシ・ドアー
カーテンウオール
シヤッター
三高式オペレーター・ドアーハンガー

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社 三高製作所
本社・工場　尼崎市神崎五反田280番地
電話大阪(499)8151代表

近代建築の要求する

＊特許 小俣式 ステンレス・アルミニウム 防火シヤッター

設計
製作
施工

小俣シヤッター工業株式会社大阪支店
大阪支店　大阪市北区若松町30　電話大阪(364)9004・9016・4825
本社工場　東京都北区田端町1138　電話東京(893)5211～5

シヤッターの総合メーカー

豊かな経験と
最新の技術…

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社
本社工場　大阪市西淀川区佃町4－33　TEL(471)8331代表
支店　東京(771)1171・名古屋(331)6171・大阪(352)4571
営業所　横浜・滋賀・京都・神戸・福岡・他全国主要都市

石膏壁は

ＳＳＳプラスター

（ボード用プラスター）

ＳＳＳプラスターＣ （セメントモルタル下地用）

ＳＳＳプラスターＰ （ペイント下地用・金鏝仕上）

●建　築　用 ・ 美術工芸用 ・ 各種焼石膏●

サンエス石膏株式会社

本社工場・姫路市神屋町４－７７
ＴＥＬ　姫路（22）３８３７（代表）
東京営業所・東京都新宿区東大久保１丁目３３１番地
ＴＥＬ（351）０３９６・（351）６９６２

中部営業所・瀬戸工場・瀬戸市苗場町１１３
ＴＥＬ　瀬戸（82）９１８５～６
大阪営業所・大阪市西区江戸堀１－24（三興ビル２階）
ＴＥＬ（441）００９４・５３７５
福岡営業所・福岡市七隅２８２－３
ＴＥＬ　（82）９４１９

SK

全国的に大好評の…　新興の繊維壁材！

◉お部屋のムードは壁材の美しい調和で……

建設省建築研究所試験合格品

（一種繊維壁材）	・チェリーコート	・ママウオール	・ほたるかべ	・麝香
・いすゞかべ	・パビロン	・ふくよかべ	・清流	・金蘭
・カセロンウオール	・パーマエース	・ありあけ	・錦上壁Ｋ	（三種繊維壁材）
・スーパーウォール	・瑞雲	・ニコニコ	・蛍光壁	・龍鳳
・センカウオール	（二種繊維壁材）	・明光壁	・日本壁	・金龍
・あけぼの	・錦上壁	・昭和壁	・すずらん	（特殊壁）
・新興壁	・大阪壁	・新日本壁	・桃山	・大和壁

（防火繊維壁材としてご使用の節は上記商品にシンケン防火剤を混入のこと）

●シンケン防火剤　●防錆剤エバコン　●耐湿剤オートン　●化学糊スーパーシンケン糊　（全国有名建材店に有）

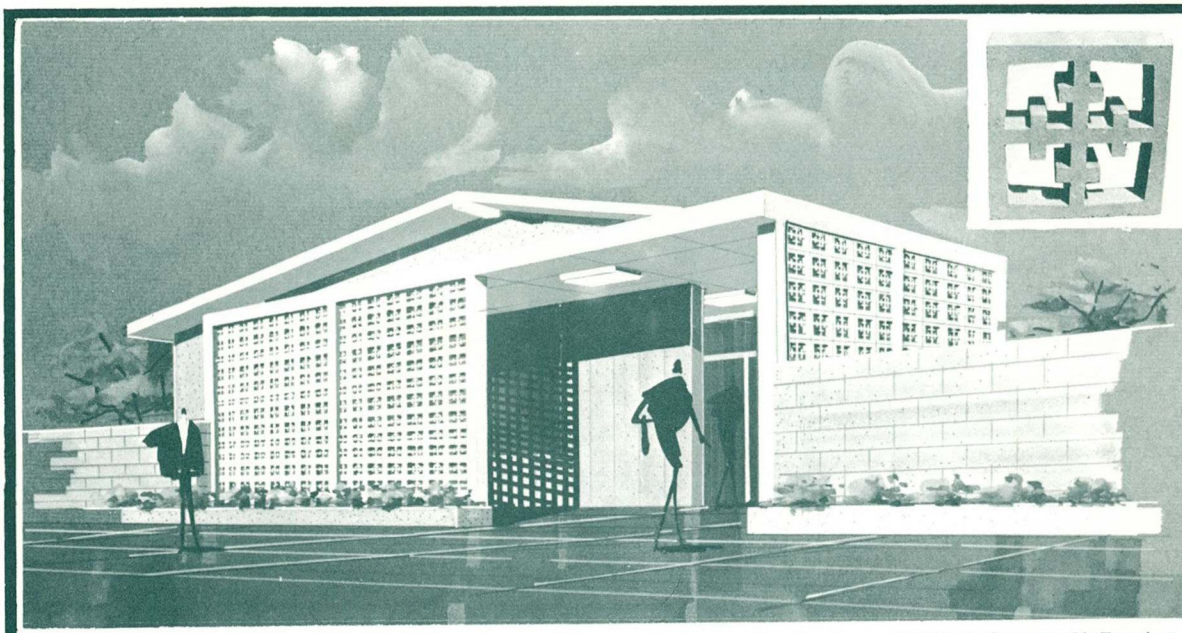
株式会社　新興建材工業所

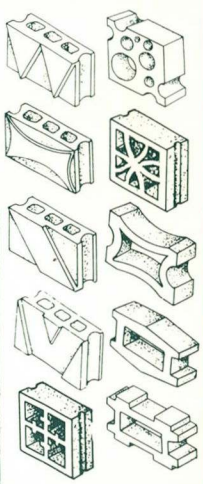
大阪市西区四ツ橋　ＴＥＬ（538）2951代（541）5757代
営業所　東京・大阪・明石・広島・福岡

デザインブロック®
スクリーンブロック
キュービックブロック®

全国各地区各市の生産実施工場を紹介させて頂きます。

また、全国有力ブロックメーカーあるいは東北、東海、北陸、近畿、中国四国、九州の各コンクリートブロック工業組合へ直接お問い合せくださっても結構です。





営業所―仙台・東京
京都・福知山・大阪
米子・熊本

ニッパツ 日発実業株式会社
京都市中京区西洞院通四条上ル・ウオジビル
電話京都(075)23―3487・21―7996・21―7948

ジ・フェノール酸誘導樹脂塗料

トップフィニッシュ

床用塗料 ライトレックス

一液ポリウレタン樹脂塗料

〈呈カタログ〉

正

(製造元・総発売元)

大阪塗料工業株式会社

大阪市城東区古市大通3－24　TEL(931)3271～3
東京出張所　東京都墨田区文花3丁目21～17　TEL(611)1043

建築と社会

第49集
業種別

広告目次

昭和43年3月号

基礎 kk武智工務所 ……表3
鉄筋 住友金属工業kk ……表2
コンクリート シポレックス販売kk ……20
日発実業kk ……91
防水 奥山化工業kk ……88
kk久保商店 ……81
合同特許建材工業kk ……85
シェル石油kk ……3
東西日本アスファルト事業協同組合 ……5
内外工業kk ……78
日新工業kk ……9
日本アスファルト防水工業協同組合 ……8
kk日本セメント防水剤製造所 ……表3
kk油脂化工社 ……表3
石 kk矢橋大理石商店 ……85
タイル衛陶 kk川岸窯業商店 ……85
kk吉田芳雄商店 ……85
屋根葺壁張 朝日石綿工業kk ……表4
オリエンタルメタル製造kk …86
大島応用化学kk ……86
大同鋼板kk ……表4
kk大仏 ……85
ナニワ瓦kk ……85
金属 岩元工業kk ……81
kk三幸商会 ……85
田辺工業kk ……87
内外建材kk ……88
左官 サンエス石膏kk ……90
kk新興建材工業所 ……90
建具 大阪アルミニウム工業kk……80
小俣シャッター工業kk ……89
kk鈴木シヤタア商会 ……89
ダイケンサッシkk ……2
東京カーテンウォール工業kk ……86
東洋シャッターkk ……89
kk日本シャッター製作所 ……12
kk三高製作所 ……89
建具金物 永和工業kk ……10
大鳥機工kk ……78
kkゴール ……20
日恵機材kk ……6
日本ドアーチェック製造kk …15
硝子 大日本硝子工業kk ……86
塗装 大阪光和建材kk ……16
大阪塗料工業kk ……91
関西ペイントkk ……26
山本窯業化工kk ……11
内壁・天井装 泉石綿工業kk ……87
kk奥村重兵衛商店 ……18
淡陶kk ……78
室谷商事kk ……81
内床装 田島応用化工kk ……4
大誠化工kk ……88
東洋リノリュームkk ……1
家具装飾 二葉屋装備工業kk ……85
保全 ミヅシマ工業kk ……7
設備機器 岩佐物産kk ……83
関西暖房工業kk ……81
kk谷山鉄工所 ……87
エレベーター 日本エレベータ工業kk ……83
空調・衛生設備 暁建設工業kk ……82
kk朝日工業社 ……82
kk大阪城口研究所 ……82
大阪電気暖房kk ……82
kk建材社 ……82
斎久工業kk ……82
kk斎藤省三商店 ……82
三機工業kk ……82
kk三晃商会 ……82
須賀工業kk ……82
第一企業kk ……82
第一工業kk ……82
高砂熱学工業kk ……83
東洋キャリア工業kk ……83
東洋熱工業kk ……83
日本管工業kk ……83
日本冷熱工産kk ……83
kk西原衛生工業所 ……83
平山工業kk ……83
kk森野工務店 ……83
山田工業kk ……83
理研鋼機kk ……83
電気設備 浅海電気kk ……84
工藤電気kk ……84
栗原工業kk ……84
kk三興社 ……84
三宝電機kk ……84
中央電気工業kk ……84
朝陽電気kk ……84
東光電気工事kk ……84
中本電気kk ……84
野里電気工業kk ……84
富士電業kk ……84
kkヤマト電気商会 ……84
建設 kk大林組 ……22
kk奥村組 ……77
雑 kk内外写真 ……85
フタバ黒板 ……85
松平式白蟻殺滅予防所 ……85

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤

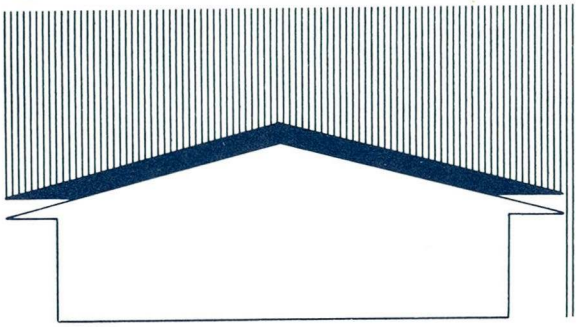
ウォータイトB号

CEMENT WATER-PROOF WOTAITO

仕様書型録贈呈

株式会社 日本セメント防水剤製造所

本　　社　大阪市東区船越町２－３１（船越ビル）　電話（941）2626・2628
連　絡　所　宝塚市高台上の池　電話　宝塚（36）2153
出　張　所　電話　東京(431)8648・名古屋(321)1331・仙台(23)0721・札幌(57)1111
ウォータイト式防水工事代行店　電話　大三工業 高松(2)0016　安藤工事 福岡（28）５２０７　豊永建材 広島（61）６３７１



モルタル・コンクリート用

マノール

●防水工事責任施工

製品

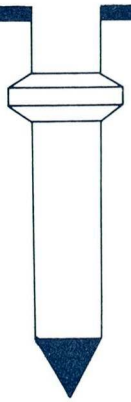
●セメント混和剤のトップ……

防水剤
急結剤
A　号
接着剤
剥離剤

ご一報次第カタログ進呈します

株式会社 油脂化工社

本　　社　東京都品川区大井１－１５　電話（774）4111(代表)
大阪営業所　大阪市東成区西今里２－48　電話（971）4765・0063



●基礎施工の悪條件を克服する

武智式 日信三角杭

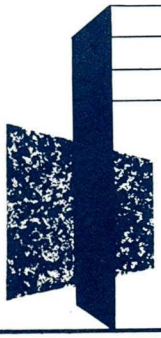
特　　許●第２３３７４４号
特　　許●第２５０１０８号
実用新案●第２５－１０９４２号
実用新案●第３７－３６１０６号

株式会社 武智工務所

本　　社　大阪市東区高麗橋２－２０（高麗新ビル）
TEL 大阪（202）3233(代)・7501(代)
名古屋営業所　名古屋市中村区船入町１－12(服部ビル)
TEL 名古屋（582）３０３６(代)
大阪工場　大阪市住吉区北加賀屋町５－２７
TEL 大阪（672）３２２３・３２２４
名古屋工場　愛知県海部郡弥富町佐古木
TEL 弥富（７）１１９１・１１９２

日本建鉄の

PS型レディメードサッシ



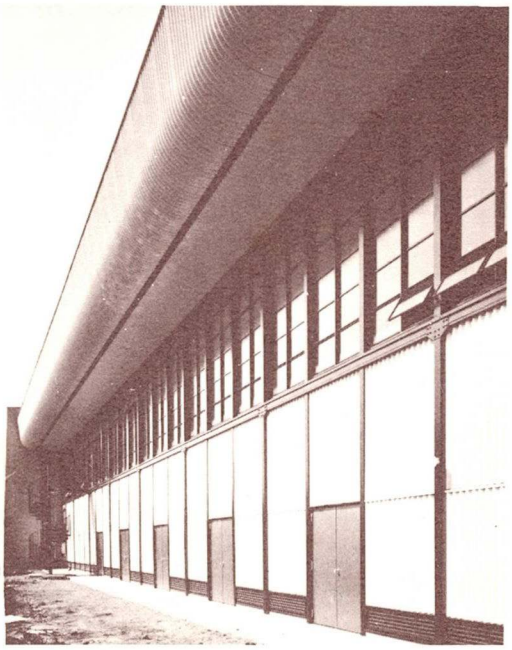
アルミサッシドア

日本建鉄株式会社

本　　社　東京都千代田区大手町２～８　TEL東京(270)6511(大代)
大阪支店　大阪市北区梅田町４７(新阪神ビル)　TEL大阪（361)6758（代）

屋根●外壁●内壁●天井に

建設省認定 不燃 No.3008 **朝日の不燃建材を**



工場・倉庫・住宅に

法定不燃材
朝日波形スレート
朝日フレキシブルボード
朝日大平板
朝日ステンドスレート
朝日ネットインスレート

ビル・工場に

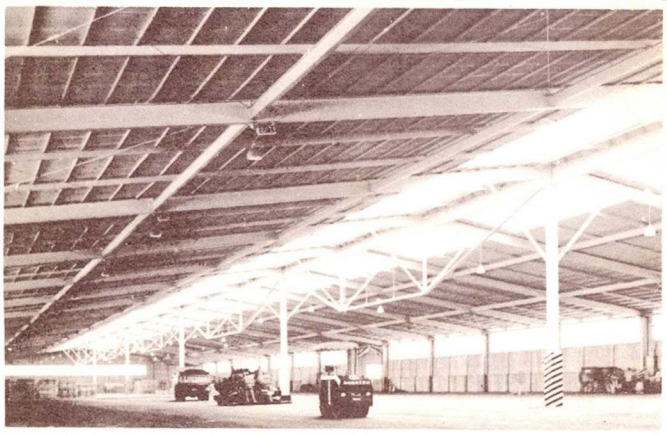
朝日耐火パネル
朝日防火パネル
朝日グラスインパネル
朝日フェザーパネル
朝日コルゲートインパネル
吹付石綿
朝日プロベスト

ASK
朝日石綿工業株式会社

大阪支店／大阪市北区神山町43 電話(312)8521(代表)
本　社／東京都中央区銀座7−3 電話(573)5111(大代)
営業所／東京・横浜・静岡・名古屋・富山・大津・姫路
岡山・広島・門司・福岡・長崎・延岡・高松
新居浜・札幌
工　場／横浜・山梨・大阪・水島・玉島・門司

屋根材の決定版
防露・断熱・防音カラー鉄板
ダンネット®

●《ダンネット》は着色亜鉛鉄板《カラーグリップ》と難燃性《ポリウレタンフオーム》の複合建材です



特長
1. 防露性　屋内の温度変化が小さく、ルーフィングなど不要室内に露滴落下の心配がありません。
2. 断熱性　太陽の直射や屋外寒気などを防ぎ、熱貫流抵抗は20㎜厚の木毛セメント板に等しい。
3. 吸音遮音性　雨音の発生が少なく、室内・室外の騒音を吸収。静かな環境をつくります。
4. 加工性　長尺ロール成形、波付加工及び現場施工は従来の亜鉛鉄板と同様に簡単です。
5. 経済性　施工が容易、工程が簡単、その上軽量であるため工事費がグーンと節減できます。
6. 防火性　特殊難燃処理が施されたウレタンフォームは自己消火性を有し防火上安全です。
7. 防水性　ウレタンフォームがコーキング材の働きをして防水性を高め、雨漏りの心配無用です。

■標準寸法及び色彩

種類	長尺・平板・波板
厚さ	カラーグリップ 0.27㎜(#31)〜0.60㎜(#24) ポリウレタンフオーム　5㎜
寸法	幅 914㎜ (3尺) 長さ50㎜まで　m
色彩	カラーグリップの色　標準色8色 ポリウレタンフオームの色　灰色・黄色

DAIDO **大同鋼板**

本　社　大阪市東区高麗橋2−41　TEL (203) 0751
営業所　東京都千代田区丸の内3−10　TEL (212) 0501

■カタログ・見本帳ご希望の方は《建築と社会》とご記入の上ご請求下さい

■ご入会のお申込みは・社団法人　日本建築協会　大阪市東区北浜3-37　電話大阪(231)9648・9649・9640　振替口座大阪39975番

定価 300円(送料共)